

犯ス者ト新タニ罪ヲ犯ス者トシテ無カラシメハ能ク國家ノ安寧ヲ維持シテ此必要ヲ満足スルコトヲ得然ラハ則チ刑ハ必ス將來ノ犯罪者ヲ警戒スルト再犯ヲ防止スルトノ結果アラサル可カラス而シテ此結果ヲ生スルニハ始メヨリ其目的ナカル可カラス故ニ刑ノ目的ハ罪想必罰ノ例ヲ示シテ將來ノ犯人ヲ警戒シ犯者ヲ悔悟セシメテ以テ再犯ノ患ヲ遏ムルニ在リ

先ツ再犯者ヲ防止スルノ必要ハ現ニ我監倉ニ繫ク所ノ囚人ハ概チ再犯ナルヲ見テモ之ヲ知ルニ足ルヘシ而シテ這ハ獨リ我國ノミナラス歐米各國ト雖モ皆然ラサルハナシ故ニ此事ニ就テハ學者ノ議論紛々トシテ止マサルナリ古昔ハ囚人ヲ留置スルコトナクシテ多クハ之ヲ追放セシ故犯人何程多キモ隨テ犯セハ隨テ追放シ其留置スル者甚タ少ナカリシ也今々然ラス是ヲ以テ囚人日々ニ多キチ加ヘ

其結局ヲ想像スレハ殆ント之ヲ置クニ地ナキカ如キニ至ランモ亦知ル可カラサルナリ殊ニ其費用ノ如キハ實ニ夥キモノニシテ聞ク所ニ依レハ我囚人ヲ北海道ニ發遣シ置ク其一ヶ月ノ費用一人ニ付キ大凡二十圓内外ヲ要スト蓋シ僅ニ開墾等ニ従事セシムルモ其之ヲ監督スルノ官吏ヲ要スルト衣食器具ヲモ給セサル可カラサル等ヨリ此ニ至ルモノニシテ恰モ犯人ニ若干圓ノ給料ヲ與ヘテ之ヲ雇ヒ置クト一般ナリ宜シク再犯ヲ防止スルノ道ヲ講究セサルヘカラスルナリ

然リ而シテ再犯ヲ防止スルノ目的ヲ達スルニハ如何ナル方法カアルト尋ヌルニ畢竟左ノ二方法アルノミ則チ犯者ヲシテ實地再犯スル能ハサラシムルト過チ峻メ善ニ遷リ自ラ制シ以テ罪ヲ復ヒスル能ハサラシムル是テリ蓋シ實地有形上再犯スル能ハサラシムルハ

(第五條)

終身犯人ノ身体ヲ拘束スルノ刑ニ非サルヨリハ他ノ方法アルコトナシ、然ルモ猶罪ヲ犯サ、ルヲ保シ難ケレハ畢竟スル所口實地再犯スル能ハサラシムルノ方法ハ獨リ死刑アルノミ是ニ於テ乎再犯ヲ防止スルノ方法ハ犯人ノ身體ヲシテ復タ犯ス能ハサラシムルニ在ラスシテ其良心ヲシテ再ヒ犯ス能ハサラシムルニ在ルヲ知ルヘシ則チ自ラ懲戒悔悟セシメ過チ悛メ善ニ遷ラシムル是ナリ此方法タル固ヨリ容易ニ得難シト雖ヒ然レヒ決シテ能ハサルノ理ナシ故キ刑ノ第一ノ目的ハ再犯ノ患ヲ防止スルニ在リ而シテ再犯ノ患ヲ防止スルハ犯者ヲシテ悔悟善ニ遷ラシムルニ在リ又犯罪ノ惡例ヲ見テ他人ノ之ニ感染スルノ患ヲ防遏スルハ體刑ヲ施シ以テ罪惡必罰ノ實ヲ示スノ外他ニ良法ナシトス施體ノ刑ハ犯者ヲ責罰スルノ本旨ニ適シ兼テ他人ヲ警戒セシムルノ功能アリト

ス
故ニ刑ノ第二ノ目的ハ犯罪ヲ見テ他人ノ之ニ感染スルヲ防遏スルニ在リ而シテ此目的ヲ達スルハ罪惡必罰ノ實ヲ示シ他人ヲ警戒スルニ在リ是ニ由テ之ヲ觀レハ刑ハ二個ノ目的ヲ有セサル可ラス則チ懲戒ト爲リ善例ト爲ル可キ是ナリ
若シ刑ニシテ能ク懲治ノ義ニ適シ罪惡必罰ノ實ヲ示シ而シテ再犯ノ患ヲ防キ以テ他人ヲ警戒セシムルヲ得加フルニ其適用ヲ誤ラスンハ之ニ由テ公衆ノ安寧ヲ護持シ法律ト政府トノ信用ヲ鞏固ニシ社會ノ幸福ヲ保維スルノ効果得テ擧ク可キハ敢テ疑ヲ容レサルナリ

刑ノ性質

刑ヲシテ寬嚴能ク其度ニ適セシメ其生スヘキノ結果ヲ生シ以テ達

(第五條)

セント欲スル所ノ目的ヲ達スルニ至テハ善良ナル性質ヲ具有スル所ノ刑ヲ得ルニ非スンハ能ハサルノ事ナリ仍テ今將ニ左ニ諸説ヲ雜纂シテ刑ノ宜シク具有スヘキ性質如何ヲ論究セントス

第一 刑ハ身体ニ及フヲ要ス、則チ彼ノ生命ヲ剝奪シ若クハ自由ヲ束縛スル刑ノ如キ是ナリ、凡ソ刑ハ權利ニ及フモノアリ財產ニ及フモノアリト雖モ權利ニ及フモノハ間接ニ其效ヲ生スルニ過キス、財產ニ及フモノハ刑ニ依テ社會ヲ利スルノ嫌ヲ免レス、獨リ身体ニ及フノ刑能ク罪惡必罰ノ旨趣ニ適ヒ并セテ犯人ヲ懲戒シ世人ヲ警シムルノ良質ヲ具定ス、然レモ古ノ所謂五刑ト稱スルモノ、如キ殘忍苛酷ノ刑ヲ肢體ニ施シ或ハ刀鋸鼎鑊ヲ用フルノ陋習ハ敢テ望ム所ニ非サルノミナラス却テ理ヲ以テ推ス可ラサルモノ有リ故ニ今刑ハ人ノ身體ニ及フヲ要スト謂フト雖モ此ノ如キノ刑ヲ指シタルニ

アラサルナリ

第二 刑ハ一身ニ止マルヲ要ス、刑固ト罪人ヲ罰スルカ爲メニシテ施イテ無罪人ニ及ホスヘカラサルハ論ヲ俟タス然リト雖モ一家中ニ於テ刑ヲ受クル者アルモハ家族モ亦多少其害ヲ蒙ラサルヲ得ス何トナレハ家主獄舎ニアリテ其困苦家族ニ波及シ巨額ノ罰金ヲ科セラレ其子孫ハ徒ラニ負債ヲ相續スルカ如キ結果アルハ決シテ避ク可ラサレハナリ、故ニ人類ノ刑ハ全ク一身ニ止マルヲ得サルモノトス、止タカメテ他人ニ及ハサランヲ求ムルノミ、乃チ沒収ノ例ヲ定メ罰金科料ヲ完納スルノ猶豫期限ヲ與ヘ又死刑ノ婦女懷胎ナルモハ産後一百日ヲ待テ刑ヲ行フカ如キ皆是レ害ヲ餘人ニ加ヘサルノ意ニ出テサルハナキナリ

第三 刑ハ標式トナリ、他人ヲ警戒スルニ足ルヘキヲ要ス、則チ刑ノ

(第五條)

尤モ緊要ナル目的ハ犯罪ヲ見テ他人ノ之ニ感染スルヲ止ムルニ在リ蓋シ此目的ヲ達スルニハ犯者ニ刑ヲ加ヘ公衆ヲシテ自ラ慎ミ自カラ戒ムル所アラシムルニアルノミ

第四 刑ハ犯者ヲ懲戒シテ悔悟セシムルヲ要ス凡ソ刑ニシテ死刑ヲ除クノ外懲治ノ質チ有セサル者ナシ然レモ實際ニ於テハ反對ノ結果チ生シ一タヒ獄ニ入テ惡習ニ倣ヒ兇黠愈其念チ増長シ單ニ過チ改メ善ニ遷ラサルノミナラス殆ト再三犯ニ及ハサル者ナシ故ニ今假出獄免幽閉監視等ヲ設クルハ則チ善ニ遷リ過チ改ルヲ勸メ專ラ懲戒ノ主旨ヲ達セントスルニ在リ

第五 刑ハ平等不偏ナルヲ要ス則チ刑ト罪ト相允當シテ平衡ヲ得犯者何人ヲ問ハス痛苦ヲ平等不偏ニ感知スルヲ要ス然レモ犯人其者ニ依リ平等ノ感覺ヲ得ル其實甚タ難シ試ニ二人同罪ヲ犯スモノ

チ取り之ニ同刑ヲ科センニ人ニ強弱アリ知覺ニ鋭鈍アリ廉耻ヲ重スル者アリ廉耻ヲ輕スル者アリ又貴賤貧富ノ地位男女老幼ノ身分ニ因リ敢テ過不及ノ差ナキ能ハス故ニ甲者ノ剝奪公權ハ乙者ノ無刑ト同シキカ如キ結果チ生セサルヲ得ス豈ニ之ヲ平等不偏ナリト云フヲ得ンヤ然レモ此ノ如キ刑ノ性質ハ固ヨリ望ムヘクシテ得ヘカラサルモノナレハ法ヲ立ツル者ハ努メテ之ニ近ツカンコトヲ求ム可キノミ

第六 刑ハ分割スルヲ得可キヲ要ス例ヘハ二人罪ヲ犯シ罪名相同キアリ然レモ其有罪ノ度必スシモ相同シカラス則チ惡ムヘキアリ憐ムヘキアリ故ニ罪名相同シト雖モ刑期罰金各長短多寡ヲ設ケテ其間ニ斟酌ヲ加ヘ有罪ノ度ニ應セサル可ラス是レ其刑ハ分割スルノ性質ヲ具フヘキ所以ナリ自由ヲ剝奪スル有期ノ刑及ヒ權利財產

ニ及フノ刑ハ能ク其性質ヲ有シ無期ノ刑及ヒ死刑ノ如キハ全ク之ニ反スルナリ

第七 刑ハ宜シク補償シ若シクハ取消スヲ得ルハ性質ヲ有スヘシ何ソヤ裁判官ハ假令意ヲ用ヒ心ヲ盡シテ審判ヲ爲スト雖悲ヒ哉人ニ神通テク其智識固ヨリ限リアルモノナレハ安ソ能ク誤謬ナカラン如此場合ニ於テハ之ヲ取消シ之ヲ補償シ以テ其害ヲ消滅セシムルノ道ヲ開ヒテ救回セサル可ラス故ニ死刑ノ如キ一度之ヲ執行セハ人再ヒ活キス又タ取消スノ機會ヲキチ以テ死刑ヲ用ユルヲ不可トスルノ論者ハ專ラ之ヲ論據トセリ然レハ獨リ死刑ノミナラス自由ヲ剝奪スル刑ト雖ヒ一旦執行シタルキハ只其誤謬ヲ取消スノミニ過キスシテ決シテ其剝奪セラレタル所ノ時間ヲ補償スル能ハス是ヲ以テ能ク治罪ノ手續ヲ充分ニシテ之ヲ其始メニ慎マサル

〜カラス

以上刑ノ宜シク有ス可キ性質七個ハ學者ノ論定スル所ト雖ヒ其一ヲ有スルノ刑ヲ得ル既ニ易カラス况ンヤ之ヲ併セ有スルニ於テチヤ然レハ立法者ハ先ツ勉メテ此性質ニ近カラソクテ望ミ多クハ自由ヲ剝奪スルノ刑ヲ以テ主トス〜キナリ

(第十一回)

第一節 刑名

刑名トハ猶ホ刑ノ名類ト謂フカ如ク名類先ツ明カナラサレハ其構成ヲ論スルニ由ナシ是レ其我第二章ノ始メ即チ此第一節ニ於テ刑名ヲ掲ケタル所以ナリ

凡ソ各國刑法載スル所ノ刑ハ其名類甚ク多シト雖ヒ之ヲ大別スレ

(第五條)

ハ三種ト爲スニ過キス即チ身體ニ及フノ刑權利ニ及フノ刑心ニ及
 フノ刑是ナリ、而シテ刑ノ必ス此三種ニ歸スルモノハ蓋シ刑ハ痛苦
 ニシテ痛苦チ人ニ感セシメント欲セハ必ヤ其身體ト權利ト心トニ
 影響チ及ホスヨリ他ニ方法ナケレハナリ、諸君ヨ余ハ今茲ニ此刑ノ
 種別ニ就キ一二辨明スル所アラントス

先ツ第一ニ身體ニ及フノ刑トハ總テ人ノ身體ニ就テ痛苦ヲ感セシ
 ムル所ノ刑ニシテ古ノ所謂ル磔刑火刑笞杖ノ如キ皆之ヲ含蓄セサ
 ルニ非ス、然リト雖ヒ斯クノ如キ野蠻ノ刑ハ理論ノ外ナルヲ以テ今
 日我輩カ身體ニ及フノ刑ト稱スル者ハ生命ヲ奪フノ刑ト自由ヲ剝
 奪スルニ係ルノ刑ト云フ而シテ生命ヲ奪フノ刑トハ即チ死刑ニ
 シテ自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑トハ禁錮懲役徒刑流刑ノ如キ皆チ
 犯人ノ身體ヲ束縛シ隨意ニ動作ヲ爲サシメサル者是ナリ、蓋シ此自

由チ剝奪スルニ係ルノ刑コソ我輩カ前回ノ講義ニ於テ述ヘタル所
 ノ刑ノ宜シク有ス可キノ性質ヲ具備シ得ル者ナリトス

又第二ニ權利ニ及フノ刑トハ人ヲシテ其有スル所ノ權利ヲ失ハシ
 メ若クハ行ハサラシメ因テ以テ痛苦ヲ感セシムルモノニシテ之ヲ
 別テニトス、身分及ヒ能力ニ關スル權利ニ及フノ刑、財産ニ關スル權
 利ニ及フノ刑是ナリ、凡ソ人類ノ身分及ヒ能力ニ關スル權利ニハ二
 類アリテ其一ハ天然自然ヨリ得ル者即チ父母ノ權子孫ノ權ノ如キ
 者ニシテ此種ノ權利ハ實ニ人類ノ人類タル所以ヲナス者ナレハ立
 法者之ヲ奪ヒ又ハ之ヲ停止シテ以テ一刑ト爲スヲ得ス、其二ハ天
 然自然ヨリ得ルモノナレヒ社會ノ存スルニ因リテ其成跡ヲ現ハス
 者即チ國民ノ特權又ハ財産ヲ支配スル權ノ如キ是ナリ、此種ノ權ハ
 能ク成文法ヲ以テ之ヲ左右シ得ル者ナレハ之ニ影響チ及ホシ以テ

一刑ト爲スヲ得ヘシ、故ニ身分及ヒ能力ニ關スル權利ニ及フノ刑トハ右第二類ノ權利ニ及フ者ニシテ則チ我刑法ノ剝奪公權、禁治產ノ如キヲ云フ、又財産ニ關スル權利ニ及フノ刑トハ沒收罰金ノ如キ者ヲ云フ、即チ之ヲ科スレハ或ハ直チニ國庫ヲシテ被刑者ノ債主タラシメ、或ハ物件ノ所有者タラシムルモノ是ナリ、蓋シ總テ權利ニ及フノ刑ハ刑ノ宜シク有スヘキノ良質ヲ有スルヲ能ハス且ツ其痛苦ヲ感セシムルノ力薄弱ニシテ僅カニ補助ノ刑ト爲スヲ得ルニ過キサルノミ

又最終ニ心ニ及フノ刑トハ直接ニ犯者ノ心情ニ痛苦ヲ感セシムル者是ナリ、凡ソ刑ト稱スレハ必ヤ犯者ノ心ヲ苦シメサル者ナシト雖モ彼ノ身體ニ及フノ刑、權利ニ及フノ刑ノ如キハ先ツ直接ニ身體ト權利トニ影響ヲ及ホシテ間接ニ心ヲ苦シムル者ナリ、然ルニ茲ニ所

謂ル心ニ及フノ刑ハ主トシテ犯人ヲ屈辱シ直接ニ心ヲ苦シムル者ヲ云フ即チ古昔ノ刑ニ就テ之ヲ見レハ強迫シテ謝狀ヲ出サシメ若クハ訟廷ニ於テ過ヲ謝セシムル刑ノ如キ又ハ架示ノ刑若クハ異様ノ衣服ヲ着ケシムル刑ノ如キ是ナリ、又我邦ニ於テ近時マテ用弁タル彼ノ呵責ノ如キモ亦此種ニ屬スルノ刑ト云フ可シ、抑モ此心ニ及フノ刑ノ如キハ益ナクシテ寧ロ害アルモノト云フヘシ何トナレハ謝狀ヲ作ラシメ又ハ訟廷ニ於テ過ヲ謝セシムルカ如キハ人ヲ屈辱セシメ以テ己レノ威權ヲ張ラントスルノ主意ヲ帶フルモノナレハナリ、故ニ公道正理ヲ主トスル法律ノ取テ以テ刑トナスヘキモノニ非ラス又若シ犯者之ヲ行フヲ肯セサルキハ益、強迫ヲ嚴ニスルカ或ハ肯スルニ至ル迄幾十年モ獄舎ニ繋キ其自由ヲ箝制スルカ到底其性質ヲ變スルニ非サレハ執行シ得サルノ刑アリ

扱テ我刑法ノ刑ヲ右三種ノ區別ニ照スニ我刑法ノ刑ハ其數二十ニシテ死刑無期有期徒流刑重輕懲役重輕禁獄重輕禁錮拘留ハ身体ニ及フノ刑ナリ又罰金科料剝奪公權停止公權禁治産監視沒収ハ權利ニ及フノ刑ナリ而シテ心ニ及フノ刑ハ我刑法ニ於テ之ヲ採ラサリキ蓋シ前ニ論スルカ如ク良刑ト云フコトヲ得サレハナリ又右刑ノ區別ハ學問上ノ區別ニシテ我成文法ニ依レハ刑ニ主刑附加刑ノ二ヲ置キ之ヲ重罪ノ刑輕罪ノ刑違警罪ノ刑ニ區別セリ請フ先ツ第六條ニ移リ主附二刑ノ別ヲ明カニセン

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者

トヲ定ム

刑ニ主刑附加刑アリ主刑ハ罪ト相對スル獨立ノ刑ニシテ他ノ刑ヲ科スルト否トニ拘ハラズ之ヲ科スル者ヲ云フ附加刑ハ之ニ反シ常ニ主刑ニ附屬シ主刑ヲ科スルニ隨テ之ヲ科シ主刑ヲ科セサルニハ僅カニ例外ヲ除クノ外決シテ獨立シテ之ヲ科セサルモノナリ然レモ諸君ヨ此主刑附加刑アルヲ以テ一罪ニ二刑ヲ科スト考フルハ大ナル誤リナリ抑モ刑ニ主刑附加刑ノ二アルモノハ此二者相俟テ完全ナル一刑ヲ爲スノ謂ヒニシテ決シテ二刑アルニアラス是レ立法者用意ノ至レル所ニシテ刑ヲシテ周密ニ能ク責罰ノ主趣ヲ達シ能ク懲戒ノ實ヲ奏セシメノコトヲ欲シテナリ若シ之ニ反シ單ニ主刑ニ止マルニハ嚴ハ則チ嚴ナルヲ失セサル可シト雖モ此刑ヤ我舊法ノ刑ノ如ク必ス鹵莽ノ刑タルヲ免レサラントス試ミニ着ヨ無期流刑

(第六條)

チシテ禁治産ノ附加刑ナカラシメンカ國事ニ因リ此刑ニ處セラレタル者アラシニ偶巨大ノ資産ヲ有シ獄舎ニ在テ猶此資財ヲ活用シ暗ニ其黨與ノ勢力ヲ輔ケ陰ニ許多ノ人ヲ使用スルヲ得ルカ如キアラハ刑ノ功用果シテ何レニアルヤ又例ヘハ無期徒刑ヲシテ剝奪公權ノ附加刑ナカラシメンカ此刑ニ處セラレタル者滿期放免ノ後テ直チニ我々良民ト齡ヒシ我々良民ト同等ノ公權ヲ有スル者トセハ社會ノ危險果シテ如何ソヤ故ニ曰附加刑ハ主刑ノ及ハサル所ヲ補充シ主刑ト相待テ完全ノ一刑ヲ爲ス者ニシテ決シテ單純ノ刑ニ個アルニ非サルナリ

然リ而シテ主刑ハ必ス之ヲ宣告シ附加刑ニハ之ヲ宣告スル者ト宣告セサル者トアルハ何ソヤ主刑ハ既ニ前ニ言フ如ク獨立ノ刑ナルカ故ニ裁判官罪ヲ論シ刑ヲ科スルニ於テ朋カニ其何ノ刑ニ處スルカ

チ云フニ非スンハ之ヲ受ル者其何ノ刑ニ處セラレタルカチ知ルニ由ナシ元來刑法ハ其第二篇以下ノ各條ニ於テ何々ノ罪ハ何ノ刑ニ處ストアルカ故ニ其罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ受ク可キ論ヲ俟タサルヲ以テ別ニ其刑ノ宣告ヲ要セサルカ如シト雖モ既ニ法律上ノ加重減輕ト酌量ノ減輕アルノミナラス尙ホ自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑ニハ長短期アリ財産ニ及フノ刑ニハ多寡ノ數アリ到底裁判官具サニ其刑ノ種類ト其程度トチ云フニ非スンハ之ヲ受クル者其刑ヲ知ル能ハス是レ主刑ハ必ス宣告セサル可ラサル所以ナリ然ルニ附加刑ハ之ニ反シ主刑存スレハ隨テ存シ主刑存セサレハ隨テ存セス必ス主刑ニ附属シテ其有無ヲ爲スカ故ニ主刑既ニ宣告アル以上ハ附加刑ノ之ニ從フ論ヲ俟タス是レ宣告ノ煩ハシキヲ要セサル所トス然レモ附加刑ノ性質ニ因リテハ宣告ナクシテ其程度有無ヲ知ル

能ハサルモノアリ則チ附加ノ罰金及ヒ沒收是ナリ罰金ニハ必ス多寡ノ數アリ宣告シテ其數ヲ定メサル可ラス沒收ニハ沒收スヘキノ物品アリ必ス宣告シテ其物品ヲ明示セサル可ラス如何ソソ附加刑ト雖ヒ之ヲ宣告セサルヲ得ンヤ又我刑法輕罪ノ刑ノ監視ハ輕罪ノ主刑ニ附加スルコアリ附加セサルコアリ且ツ其程度モ等シカラス是其宣告ヲ要スル所以ナリ故ニ曰ク附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ムト猶ホ其詳カナルハ附加刑處分ノ各條ニ於テ講説ス可シ

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四無期流刑

五有期流刑

六重懲役

七輕懲役

八重禁獄

九輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一重禁錮

二輕禁錮

(第七條) (第八條)

三罰金

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲

ス

一拘留

二科料

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一剝奪公權

二停止公權

三禁治産

四監視

五罰金

六沒收

右四條載スル所ノ刑其數二十我刑法ハ之ヲ重罪、輕罪、違警罪三種ノ刑ニ區別セリ、抑モ此區別ノ如キ先キニ法律ニ於テ罰ス可キ罪ヲ別ケテ三種ト爲セシヨリ出ツル所ニシテ蓋シ立法者以爲ラク既ニ罪ヲ大別シテ重罪、輕罪、違警罪トセリ此各罪ニ該當スルノ刑モ亦各其名稱ナカル可ラス宜シク之ヲ重罪ノ刑、輕罪ノ刑、違警罪ノ刑トス可シト故ニ右ノ名稱ハ畢竟其相通スル罪ニ基テ命シタルモノニシテ別ニ深意アルニ非サルナリ刑ヲ制スルノ始メヨリ此區別ヲ立テタルニ非サルナリ、實ニ重罪ニ該當スルカ故ニ重罪ノ刑ト云ヒ輕罪ニ該當スルカ故ニ輕罪ノ刑ト云ヒタルニ過キス其然リ然リト雖モ此區別ヨリ生スル關係ハ實ニ大ナルモノトス先ツ此區別アルヨリ各

(第九條) (第十條)

條各刑名ヲ復言スルノ煩ヲ省ケリ、又我刑法ニ於テ罪ノ果シテ重罪タルヤ、輕罪タルヤ、將タ違警罪タルヤヲ知ルハ唯リ此區別中ニ含蓄スル刑名ニ依ルニアルノミ

又二十ノ刑我刑法ハ之ヲ區別シテ其十四ヲ主刑トシ其六ヲ附加刑トセリ是レ既ニ前ニ陳ルカ如ク附ハ主ノ及ハサル所ヲ補充シ完全ノ一刑ヲ爲サンコトヲ欲シタル者ニシテ其彼レニ附タリ此レニ附タルノ點ハ之ヲ附加刑處分ニ於テ講説ス可シ

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

本條ノ規則云々トハ刑法附則及ヒ監獄則ナリトス刑法ハ其罪ト刑トヲ定ムルモノニシテ其刑ヲ執行シ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ此規則ニ讓ル故ニ此等ノ規則ト并ヒ行ハシムルナリ

第二節 主刑處分

本節ハ專ラ主刑ノコトヲ示シタルモノナリ處分トハ明瞭ナラサレモ蓋シ刑ノ構成ヲ云ヒタルモノナラン故ニ刑ノ宜ク有スヘキ性質如何ヲ知ルハ特リ此各條ニ在リ

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨

檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

凡ソ生命ヲ剝奪スルノ刑ニシテ磔刑火刑ノ如キ總テ野蠻殘忍ノ風アル者社會ニ其跡ヲ絶ツコト久シ今世諸國死刑ト稱スルハ單ニ生命ヲ絶ツニ止ル而シテ生命ヲ絶ツノ方法ハ概テ斬絞ノ二トス斬トハ何ソヤ利刀若クハ銳利ノ器械ヲ以テ被刑者ノ項頸ヲ切斷シ身首處テ異ニセシム絞トハ何ソヤ器械ヲ設ケ繩索ヲ以テ被刑者ノ首ヲ懸ケ

(第十一條)(第十二條)

之ヲ縊殺スル者是ナリ、我邦ニ於テハ維新以還斬絞ニツナカラ用フ
ル所タリシカ刑法ハ斬テ廢シ絞ヲ存ス蓋シ被刑者ヲシテ身首所ヲ
異ニセシメテ其益ナカラノヨリハ寧ロ体軀ヲ全カラシムルノ優レ
ルニ若カサルヲ以テナリ

本條死刑執行ノ細則ハ刑法附則ヲ一見スレハ知ルヲ得ルカ故ニ
之ヲ贅セスト雖モ只タ此ニ一言セントスルハ死刑ヲ公行セサルノ
一點ナリ近ク維新ノ前後ニ徵シ又佛國ニ鑑ミルニ古昔ハ皆之ヲ公
行シタリト雖モ近時死刑ハ公行セスシテ密行シ餘人ヲシテ目視セ
シムルコトナシ、如此之ヲ密行スルハ第一取締ノ爲メナリ第二公行ス
ルキハ世人ノ警戒トナラスシテ却テ殘酷穢惡ノ念ヲ生セシムルノ
具ト爲ルカ故ナリト、夫レ或ハ然ラン人ノ偶此等ノ所業ヲ見ルキハ
自カラ戒慎ノ情ヲ發シ大ニ世人ノ鑑戒ト爲ル可キモ常ニ之ヲ見テ

一ノ慣習トナルキハ爲メニ戒懼ノ情ヲ發スルコトナク遂ニハ殘忍ニ
馴レ惡ヲ長セシムルノ恐レアリ是レ其我刑法ニ於テ死刑ハ公行セ
スト定メタル所以ナリ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ 行フコトヲ得ス

死刑ハ刑ノ極ナリ人命至重死者復タ生ク可ラス斷者復タ屬ス可ラ
ス所謂ル補償ス可ラサル者ナリ故ニ之ヲ行フニ至テハ特ニ鄭重敬
慎ヲ致サ、ル可ラス此ニ於テ我刑法ハ之ヲ他ノ刑ト區別シ特ニ司
法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ許サス則チ死刑ノ判決確
定シタル時檢察官ヨリ訴訟書類ヲ司法卿ニ進達シ其命令ヲ得テ後
チ三日内ニ執行ニ付スルモノトス是レ唯リ誤刑ヲ恐レテ然ルニ非
ス特赦ノ恩典ナキヲ保シ難クレハナリ治罪法第四百七十七條第四

(第十三條)

百七十八條ニ依レハ司法卿檢察官及ヒ監獄長ハ死刑ノ判決ニ對シ
特赦ノ申立ヲ爲スヲ得ルモノトス

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

大祭日ニ死刑ヲ行ハサル所以ノモノハ公衆祝賀若クハ齋戒スルノ
日ニ當テ獨リ被刑者ノ一族ニ悲哀戮辱ヲ與フルハ人情ノ忍ヒサル
所ナルカ故ナリ大祀トハ大嘗會令節トハ紀元節天長節國祭トハ春
秋皇靈祭等ヲ云フ刑法附則ニ詳カナリ

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ

其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ
行ハス

刑ハ一身ニ止マリ他ノ無辜ノ人ニ及ホス可カラサルハ是レ刑法ノ

原則ナリ故ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停
メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

婦女果シテ懷胎ナルキハ死刑ノ執行ヲ停ムヘシ然レモ其果シテ懷
胎ナルヤ否ヤ本人ト雖モ或ハ知ル能ハス醫師穩婆モ亦必スシモ之
ヲ知ルヲ得サルナリ刑法附則第五條ニ曰ク婦女懷胎ト述フル者ハ
醫師及ヒ穩婦ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨ
リ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ
命令ヲ受ケ決行スヘシト故ニ婦女懷胎ト述フルキハ檢察官ハ醫師
穩婆ヲシテ之ヲ検査セシム且婦女懷胎ト述ヘスト雖モ懷胎ノ徵ア
リト思料スルキハ亦必ス如此クスヘキナリ
産後一百日ヲ經ルニ非ラサレハ刑ヲ行フヲ許ルサ、ルハ生子ヲ
乳養セシムルカ爲メナリ生子乳養セラル、一百日ナレハ哺食續命

(第十四條)(第十五條)

スルヲ得ルトイフ
 産後百日ヲ經ルト雖モ直チニ刑ヲ行フヘキニ非ス更ニ復タ司法卿
 ノ命令ヲ受ケサルヘカラサルナリ君子好生之徳宜ク如此クナラハ
 ルヘカラサルナリ佛國等ニテ此場合ニハ多クハ特赦ヲ行フトイフ
 生子若シ百日内ニ在テ死スルハ如何曰ク生子生存ノ時ト同ク一
 百日ヲ經ルニ非レハ刑ヲ行ハス我曰ク百日ヲ待ツハ生子ノ爲メナ
 リ生子既ニ死スルハ百日ヲ待ツノ理ナシ直チニ刑ヲ決行シテ可
 ナリト、是レ律ノ正文ニ依ラスシテ律ノ因テ起ル所以ニ基テ刑ヲ適
 用セントスルモノナリ、誤ルト云フ可シ律ノ正文ニ曰分娩後一百日
 ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハスト法律ハ曾テ生子ノ生存スルト否ト
 ニ關セサルヤ明カナリ、且ツ百日ヲ待ツ所以ノモノハ唯リ生子ノ爲
 ミノミナラスシテ母ノ本復スルヲモツニ非サルナキヲ得ンヤ

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ

下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サス

刑ハ死屍ニ及フヘキモノニアラサレハ親族故舊ヨリ遺骸ヲ下付セ
 ラレントヲ求ムルハ之ヲ下付セサルヘカラス茲ニ注意スヘキ事
 アリ本條ニハ之ヲ下付ストアリテ刑法附則第六條ニハ獄司之ヲ許
 可シ下付スルヲ得トアリ、一ハ下付ヲ命シ一ハ獄司ノ意見ニ任ス
 ルニ似タリ、今考フルニ附則ニ下付スルヲ得トアリト雖モ獄司ハ
 刑法第十六條ニ循ヒ必ス下付セサルヘカラサルナルヘシ附則ハ獄
 司ニ取扱ノ事ヲ任シタルマテノ意ニシテ決シテ下付スルト下付セ
 サルトノ權ヲ之ニ與ヘタルニハアラサヘキナリ
 式ヲ用ヒテ葬ムルヲ許サストハ若シ遺骸ヲ埋葬スルニ裝飾ノ具
 ヲ用非觀美ヲ盡シ壯大ナル儀式ヲ行フ如キハ法律ヲ蔑視シ官ヲ輕

(第十六條)

侮スルノ弊アルヲ恐レテナリ故ニ棺槨ヲ作り死屍ヲ収メ道師ノ引導ヲ受クル等ハ妨ナカルヘシ
 諸君ヨ余今以上ノ講説ニ於テ我刑法死刑ニ關スルノ諸則ヲ説キ畢ルニ臨ミ事已ニ陳腐ニ屬スレモ死刑ノ廢存ニ就キ聊カ一言スル所アラントス

死刑廢止論

夫レ死刑廢止ノ論タルヤ西曆十八世紀ノ央ハニ於テ一タヒ其端緒ヲ開キシ以來歐洲諸國ノ識者靡然トシテ之ニ左袒シ辯士ハ雄辯ヲ振テ其非ヲ辯シ碩儒ハ快筆ヲ走ラシテ其不當ヲ排斥シ今ニ至テ此論益勢カヲ得タルハ皆テ人ノ知ル所ナリ又實際ニ就テ論スレハ爾來歐米各國中大國ニハ未タ其例ヲ見スト雖モ小國中ニハ法律ヲ以テ死刑ヲ全廢シタル者既ニ十有餘國ノ多キニ及ヒタリ又大國小國

ヲ論セス法律ノ正文ニハ死刑ノ文字尙ホ存スルモ實際之ヲ行フコト極メテ少ナク或ハ裁判官ノ權ヲ以テ之ヲ宣告セサルアリ或ハ特赦ノ恩典ニヨリテ之ヲ行ハサルアリ或ハ死刑ヲ宣告スレハ必ス之ト同時ニ懲役ノ刑ヲ宣告スルノ法律アリテ即チ先ツ數月間懲役ニ服セシメ後ニ至リテ死刑ヲ免スルアリ或ハ法律上ヨリ死刑適用ノ場合ヲ減スルアリ或ハ國事犯ニ就テ死刑ヲ全廢シタルアリテ其實際死刑執行ノ減少シタルハ實ニ驚ク可キ進步ニシテ纔カニ數年前ト今日トハ共ニ日ヲ同フシテ語ルヘカラサルニ至リタリ
 其レ然リ然リト雖モ死刑廢止論其端ヲ開キテヨリ既ニ百有餘年ノ久シキヲ經テ死刑尙ホ社會ニ其跡ヲ絶ツコト能ハス却テ既ニ之ヲ廢シタルノ國ニ於テスラ再設セントスルカ如キノ兆アルハ何ソヤ嗚呼諸君ヨ大ニ其理由アリテ存スレハナリ余ノ如キモ蓋シ死刑保存

(第十六條)

ニ左祖セント欲スルナリ、請フ之ヲ辨明セン
 死刑ハ社會ノ病ヲ治スル一劇劑ナリ故ニ之ヲ用フル其度ニ過レハ
 倏チ大害ヲ來タス可シト雖モ至惡ヲ誅戮シテ法ノ寬假セサルヲ示
 シ天下無智暗愚ニシテ惡ニ感染シ易キノ人ヲ警戒シ犯罪ヲ未發ニ
 防クノ術未タ此刑ニ優ル者ハアラサルナリ、死刑其レ廢ス可ケンヤ」
 論者曰ク生命ハ天賜ナリ然ルニ刑罰ニ名ヲ假リ人力ヲ以テ之ヲ剝
 奪スルハ是レ人間權利外ノ事ヲ行フモノニシテ正理ニ適セリトス
 ルヲ得スト、論スル所ロ其理ナキニ非スト雖モ所謂ル耳ヲ掩テ鈴ヲ
 盜ムノ譏ヲ免ル、能ハサルモノトス、夫レ生命ノ天賜ニシテ人與ニ
 非ルヤ誣ユ可ラサル時ハ自由ノ權ノ天賜ニ出ルモ亦誣ユ可ラス、則
 チ天人ニ與ルニ生命ヲ以テシ又之ニ授ルニ自由ノ活動ヲ以テスル
 者蓋シ人間處世ノ目的ヲ達セシムルニ在リ然ルニ論者ハ生命ハ天

賜ナリ剝奪ス可ラス自由ハ天賜ナリ剝奪ス可シト何ソ論理ノ前後
 相矛盾スルヤ
 又曰ク死刑ハ生前ニ痛苦ヲ與フルニ止マラスシテ冥々々裏ニ占領ス
 可キノ位置ヲ今ヨリ之ヲ斷ス是レ人類ニシテ人智ノ及ハサル冥々
 裡ノ事ヲ行フナリ豈其權内ノモノナランヤト、殊ニ知ラス死刑ニヨ
 リテ生命ヲ斷タシメシハ或ハ反テ冥々々裏ノ意ナルカチ、又誰カ惡人
 ノ罪ヲ償フテ冥々々ニ入ルヲ得ルハ只此一途ニアルヲ知ランヤ、要ス
 ルニ冥々々裏ノ事ハ冥々々ニ附シテ可ナリ唯我ハ我が事ヲ爲スノミ、何
 ソ冥々々裡ノ事ト我事ト抵觸スルヲ憂ルヲ須弁ンヤ、本來生命ハ天與
 ニシテ容易ク之ヲ侵ス可ラサルハ疑ヒナシト雖モ亦時トシテハ之
 チ奪フノ反テ義務タルノ場合アリ則チ邦國獨立ノ戰陣ニ臨ミ敵人
 チ屠殺スルカ如キ又己レノ身體生命ヲ正當ニ防衛シテ暴人ヲ殺ス

カ如キ、以テ生命ノ時トシテハ奪フテ妨ケナキヲ證スルニ足ル、然ラハ則チ死刑ハ之ヲ行フコト其度ニ適スレハ固ヨリ正當ノモノタルヤ疑ヒナキナリ

論者ハ又死刑ヲ緊要ナラスト爲シ言ヲ爲シテ曰ク刑罰峻刻ニシテ不良ノ心從テ固結シ上ニ殺伐ヲ好ムノ心アリテ下ニ兇暴ヲ恣マ、ニスルノ風移ルハ數ノ賭易キモノナリ故ニ死刑ハ害アリテ益ナシト、是レ刑ヲ濫用スルノ弊ヲ論シテ刑ノ性質ヲ評セントスル者ナリ、猶毒物ノ毒タルヲ惡ンテ其藥石タルヲ覺ラサルカ如シ、若シ夫レニ濫用ノ弊ニ就テ論セハ徒刑流刑何ソ擇ハンヤ、又曰兇惡ハ大徳ト其趣チ同フスル所アリ則チ死ヲ懼レサルコト是ナリ故ニ死刑ハ以テ兇惡ヲ警戒スルニ足ラス亦曰ク兇惡ヲ行フノ人ハ概テ過チテ改ムルニ吝ナラス之ヲシテ過テ改メシムルニ如カスト、是レ人世稀レニ

有ル所ノ一ヲ推シテ全体ヲ評セントスルモノナリ、夫レ死ヲ惡ムハ天下ノ通情ナリ、懲戒ノ術其効ヲ奏スルハ惡心ノ未タ固結セサル者ヨリ始マル、如何ソ之ヲ逆論シテ可ナランヤ
論者又曰ク死刑ハ一旦之ヲ行フノ後取消シ得サルノ刑ナリ若シ一タヒ誤テ不辜ヲ罰スルニ此刑ヲ以テセハ死者復タ生カス可ラス實ニ其危險言フ可ラサルナリ古來不辜ヲ罰スルニ此刑ヲ以テシ後チ其冤ノ見ハレタルノ例累々トシ史ニ徵ス可キヲヤト嗚呼又實ニ然ルモノアリ、然レモ不辜ヲ罰スル如キハ刑ノ大小ヲ問ハス均ク是レ社會ノ不幸ナリ、刑ヲ加フルニ至テハ唯其始メヲ謹ミ人事ヲ盡シテ憾ミナキニ至ランノミ、若シ夫レ不辜ヲ罰スルノ不幸ヲ慮ラハ之ヲ避ルノ路一途アリ、曰ク刑ヲ全廢スル是ナリ、彼ノ取消シ得可キノ刑ハ不辜ニ科スルモ可ナリ取消シ得サルノ刑ハ之ヲ不辜ニ施スヲ恐

レテ有罪ニモ猶科ス可ラスト云フニ至テハ予其論理ノ存スル所ヲ知ラサルナリ、況ンヤ彼ノ流刑徒刑ノ如キモ眞ニ取消シ得ヘキノ刑ナリト云フ能ハサルヲヤ

諸君ヨ是ニ由テ之ヲ觀レハ彼レ廢止論ヲ爲ス者ノ根據トスル理由ハ一モ其理ヲ成ス能ハサルモノトス、死刑其レ廢ス可ケンヤ否ナ廢止シ得サルナリ、疑ヒモナク死刑ハ懲戒ノ目的ニ反シ且ツ分割シ得可カラサルノ刑タリ、然レモ天下ニ對シ罪惡必罰ノ例ヲ示シ無智ノ民ヲ警戒シテ犯罪ヲ未成ニ撲滅スルハ此刑ニ若クモノナシ、嗚呼死刑廢止シ得サルナリ

(第十二回)

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定

役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

徒刑ハ常事犯罪ノ刑中死刑ニ次ク最重ノ刑ニシテ國事犯罪ノ流刑ト其權衡ヲ同クスルモノナリ

徒刑ノ刑名ハ我國古代ノ刑法中ニモ見ユル所ニシテ元ト唐律ヨリ出タル名ナリ、唐律疏義ニ曰ク徒ハ奴ナリ奴シテ辱カシムト而シテ我刑法ノ此刑名ヲ用ヒタルハ果シテ此義解ニ依レルヤ否ヤ我輩之ヲ詳カニセスト雖モ我輩ハ徒刑ト云ヒ懲役ト云フカ如キ此刑名ニ特別ノ價ヒヲ付センコトヲ欲セサルナリ抑モ刑ニハ一定ノ目的理由アリテ存ス則チ嘗テ述ヘタルカ如ク罪惡ヲ必罰シテ將來ヲ警戒スルト犯者ヲ懲戒シテ悔悟セシムルト是ナリ、故ニ凡ソ刑ト稱スル者ハ各其重輕ヲ異ニスト雖モ皆ナ此目的ヲ有セサルハ之ナキナリ、然

(第十七條)

ルニ徒ハ奴シテ辱ムルノ義ナリト言フモハ懲役ハ懲ラシ役スルノ義ナリト言ハサルヲ得サルヘク從テ各刑皆ナ其目的理由ヲ異ニスト言ハサルヲ得サルニ至ルヘシ若シ果シテ然ラハ我刑法ノ刑ハ錯雜紛亂シテ畫一ノ基礎ヲ有スルコトナク徒刑ノ如キハ取りモ直サス復讐主義ヨリ出タルノ刑ナリト言ハサルヲ得サルニ至ルヘク奇怪モ亦甚タシト云フ可キナリ故ニ我輩ノ見ル所ニ依レハ同一ニ自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑ニシテ徒刑ト云ヒ懲役ト云ヒ禁錮ト云フカ如キ刑名アルハ其構成種類ノ異ナルヲ指示セント欲スルガ爲メニ出タルニ外ナラサルナリ

本條ノ正文ニ依レハ徒刑ハ左ノ條件ヲ以テ其構成ヲ爲スモノトス、而シテ其自由ヲ剝奪スルノ點ハ固ヨリ此種ノ刑ノ本質ナリ

一 島地發遣

二 服役

島地發遣ハ犯者ヲシテ内地ヲ離ル、ノ痛苦ヲ受ケシムルト、内地ヨリ惡人ヲ除去スルト、逃走ヲ難カラシムルト、殖民地ヲ開クトノ主旨ヨリ出タルモノナリ

島地發遣ニ關シテハ歐洲諸國今尙ホ試驗中ニシテ未タ其利害ヲ詳カニセス、又學者ノ説ニ依レハ得失相半ハスルモノトス、其説ニ曰ク囚人ヲ島地ニ發遣スルキハ惡人ノ内地ニ在ラサルヲ以テ内地ノ良民ハ安堵ノ想ヲ爲スヲ得レト同時ニ島地ノ良民ハ亦甚タ迷惑ヲ感スルナルヘシ、又島地ニ發遣セラレテ之ヲ憂苦スル者ハ概テ内地ノ良民ニ關係ヲ有シテ多少良心アル者共ナレト兇惡ノ犯罪人ハ大抵内地ノ人民ト關係ナキヨリシテ島地發遣ヲ喜フ者多シ、從テ此處分ハ罪ノ輕キ者ヲ大ニ苦シメ却テ罪ノ重キ者ヲ苦シメサルノ結

(第十七條)

果アリ、故ニ總テ自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑ハ之ヲ内地ニ於テ執行シ島地發遣ヲ以テ行政官ノ適宜ニ施スヲ得ル處分トセハ大ニ善良ノ結果ヲ得ヘシト蓋シ我國ニ於テモ島地發遣ハ利害相半ハスルモノ、如シ何トナレハ北海道ニ發遣シテ開拓ニ從事セシムルハ其益巨大ナリト雖モ亦大ニ入費ヲ要シ且ツ内地ト接近シテ逃走ノ患ハ内地ニ置クヨリモ却テ恐ルヘキカ如キアレハナリ

服役ノ詳細ハ載セテ監獄則ニアリ、蓋シ服役ノ種類、時間、方法等ハ時場所被刑者ノ能力等ニ從ヒ常ニ變更セサルヲ得サルモノナレハ刑法ニ於テ之ヲ定ムルヲ得サルモノトス、刑法草按ニハ徒刑ハ最モ艱難ナル役ニ服シ、懲役ハ艱難ナル役ニ服シ、禁錮ハ役ニ服ストアリタリ、然ルニ審査ノ際此最モ艱難ナル云々ノ文字ヲ削除セシハ蓋シ服役ハ皆ナ實際ニ據ルモノニシテ是等ノ文字ヲ存スルモ畢竟虛文

タルニ過キカレハナラン

學者ノ論スル所ニ依レハ囚人ヲ定役ニ服スルハ之ヲシテ勞力ニ慣レシメ勞力ヲ以テ善良ニ生活スルヲ得ルヲ教ルノ方法ニ外ナラサルナリ、其説ニ曰ク被刑者ヲ役ニ服スト雖モ固ト是レ之ヲ疾病ノ刑ニ處シタルニ非サレハ其健康ヲ害スルホトノ艱難ナル役ニ服スルヲ得サルヘシ、然リ而シテ其健康ヲ害スルニ至ラサル勞力ニ服スルヲ以テ刑ナリト言フキハ我々良民ハ常ニ勞力ヲ爲シテ生活ヲ營ナムニヨリ我ハ生レナカラ刑ニ處セラレタリト言ハサルヲ得サルヘシ、豈笑フ可キヲナスヤ、本來勞力ハ人類ノ貴重ナル義務ナリ、然ルニ勞力ニ服スルヲ以テ刑ナリト言ハ、是レ人類ノ貴重ナル義務ニ恥辱ヲ與フルモノナリ、之ヲ要スルニ被刑者ヲシテ善良ナル勞力ニ慣レシメ改過遷善ニ導ク爲メニ役ニ服スト言ハ、則チ可ナリ

(第十七條)

ト雖モ此服役ヲ以テ刑ノ一元素ト爲サントスルハ大ナル誤見ナリト論スル所眞トニ至當ナリト云フ可シ、サリナカラ實際罪ヲ犯ス者ハ概テ勞力ヲ厭フ者ナレハ立法者カ犯罪者ヲシテ此勞力ニ服セシムルヲ以テ刑ノ一元素ト認メタルハ即チ虛ヲ衡テ勝ヲ制スルノ手段ニシテ亦自然ニ出ツト云フ可キナリ、英吉利ニ於テハ勞力ニ服スルヲ以テ刑ト爲スヲ厭フカ爲メニ囚人毎ニ一箇ノ重キ鐵丸ヲ授ケテ終日之ヲ一方ヨリ他ノ一方ニ運搬セシメ又ハ昇降スルニ極メテ艱難ナル梯子様ノモノヲ製シテ終日之ヲ昇降セシメ疲勞セシムルヲ以テ刑ト爲シタリト云フ然レモ這ハ被刑者ヲシテ目的モナク利益モナク徒ラニ辛苦疲勞セシムルモノニシテ人類ヲ遇スルノ道ニ非ス、寧ロ勞力ニ服スルヲ以テ刑ト爲スノ優レルニ若カサルナリ、本條第一項ハ無期有期徒刑ノ構成ヲ示シ第二項ハ有期徒刑ノ期限

ヲ定メタリ、無期徒刑ニ就テハ學者論シテ曰ク被刑者ノ過チヲ改メ善ニ遷ラントスルハ再ヒ社會ニ出テ良民タルヲ得ントスル冀望ノ之ヲ獎勵スルアレハナリ、然ルニ無期徒刑ヲ加フルハ是レ法律ヲ以テ初メヨリ此冀望ヲ絶チ再ヒ良民ト交通スルニ至ルヲ許サスト明言スルモノナリ、是レ社會ノ門戸ヲ鎖シテ他日良民タラントスルノ望ヲ拒絕シテ容レサルナリ、故ニ無期ノ刑ハ良刑ト爲スヲ得スト、然リト雖モ亦他ノ一方ヨリ見レハ若シ此無期徒刑ヲ廢シタラシムニハ死刑ニ次ク者ハ直チニ有期刑トナルニ因リ大ニ刑ノ犯罪ニ對スル權衡ヲ失スルニ至ルヘク、又重キ犯罪ニ對シテハ死刑ヲ科スルカ有期刑ヲ科スルカノ二ニ出テサルヲ得サルニ至リテ法律上死刑適用ノ場合ヲ減少スルヲ得サルヘク、裁判官モ屢々死刑ヲ宣告スルニ至ルヘシ、サレハゴソ佛國ノ如キハ革命ノ刑法ヲ以テ一旦無期徒刑ヲ廢シ

タリシモ數年ニシテ之ヲ復シタリキ、又我刑法ノ如キハ無期刑ニモ尙ホ假出獄免幽閉ヲ付シテ改過遷善ノ者ニハ再ヒ社會ニ出ルコトヲ許シタレハ大ニ無期刑固有ノ弊ヲ減少セシメ不良ノ刑ヲ變シテ良刑ト爲シタリト云フモ不可ナキナリ

有期刑ノ期限ヲ定ムルニ至テハ固ヨリ一定ノ元則アルコトナシ立法者ハ只ク其國ノ風土、人生平均ノ年齡等ニ因テ之ヲ定ムルニアルノミ、我刑法草按ニハ有期徒流刑ノ最長期ヲ二十年ト爲セシカ審査ノ際之ヲ十五年ト改ムルニ付テハ大ニ議論アリシト云フ、聞ク所ニ依レハ其理由ハ實際二十年ノ星霜ヲ獄裡ニ送り健全ニ出獄スル者ハ甚タ稀レニ概子獄中ノ鬼ト化セサルハナシ、サレハ有期二十年トハ名ノミニシテ畢竟無期同様ナリ、之ヲ十五年トシ、眞ノ有期タラシムル如ニカスト云フニアリタリト、然リト雖モ草按ニ於テ二十年ト爲

セシモ蓋シ大ニ其理由アリトス、先ツ第一ニ有期徒流刑ノ最長期ヲ十五年トスレハ其下等有期刑ノ長期ヲモ次第ニ短縮セサルヲ得ス從テ各刑ノ長短期ノ間大ニ減縮シ裁判官ヲシテ充分ニ罪ト刑トノ權衡ヲ測量スルコトヲ得サラシム、例ヘハ草按ノ重懲役ハ十一年以上十五年以下ナリシヲ以テ其短期ヨリ長期ニ至ルノ間滿四年アルニヨリ裁判官ハ此四年ノ中ニ在リテ上下スルコトヲ得シモ現行法ノ重懲役ハ九年以上十一年以下ナルヲ以テ裁判官ハ緩カニ二年ノ間ヲ上下スルニ止マルカ如キ是ナリ又第二ニハ有期刑ノ最長期ヲ二十年トセスシテ十五年ニ減縮スレハ有期刑ト無期刑ノ間大ニ懸隔シ刑ノ階級ニ不等ヲ生スルニ至ル、例ヘハ人ノ罪ヲ犯スハ概子二十歳前後ニアリト假定シ人生ヲ六十年ト爲サシニ二十歳ノ者最長期十五年ノ刑ニ處セラルレハ三十五歳ニシテ出獄スルヲ得ヘシ、然ルニ

(第十七條)

一等ヲ上リテ無期刑ニ處セラルレハ六十歳マテ四十年間獄ニアラサルヲ得ス是レ有期徒刑ハ其下等ノ重懲役ニ比スレハ僅カニ四年ノ差アルノミナレモ其上等ノ無期刑ト比較スレハ二十五年ノ差アルモノナリ又第三ニハ前段ニ所謂ル無期ト有期刑ノ差大ナルニ因リ裁判官罪ヲ斷スルニ當リ無期刑ニ處スルハ酷ナルヲ感スルコトアルモ十五年ノ有期刑ニ下レハ大ニ輕キニ失スルノ恐レアルヨリ已ムヲ得スシテ無期刑ニ處スルニ至ル然ラハ則チ草按ニ大ニ有期徒刑刑ノ最長期ヲ二十年ト爲セシハ大ニ其理由アリシト云フ可キナリ

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

徒刑ノ處分ニ關シテ二箇ノ特例アリ其一ハ本條ニシテ其二ハ第十九條ナリ本條ニ徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス云々ト此主意甚タ親易シ夫レ婦女ノ罪ヲ犯ス者男子ニ比スレハ極メテ稀ナリ況ンヤ徒刑ノ刑ニ該ル可キ重罪ヲヤ然ルニ尙ホ婦女ヲ島地ニ發遣セントセハ別ニ女檻ノ準備ヲ爲サルヲ得ス且ツ婦女ハ體質脆弱ニシテ内地ニ在ラシムルモ越獄ノ患自ラ少ク又島地ニ發遣スルモ彼ノ鑛業開拓等ノ力役ニ堪ヘス故ニ其得ハ失ヲ償フコト能ハス是レ本條ノ因テ起ル所以ナリ

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

舊律ニハ老小癡疾收贖ノ條例アリテ直チニ其罪ヲ宥恕セリ然レモ是レ甚タ理ニ適セサルコトナリ老スルモハ身体ハ衰弱スト雖モ心志ハ却テ道理ヲ知ルコト益々明カニ世務ニモ熟シ且ツ血氣ノ爲メニ非テ遂ク害ヲ行フ等ノコトハ少壯ノ者ヨリモ少ナカル可キ筈ナレハ

(第十八條)(第十九條)

刑事ノ責ニ任スルコトモ更ニ重カル可キ義ナリ。是其我刑法ニ於テ罪ニ付テハ少シモ宥恕セサル所以ナリ。然レモ體力衰フルカ故ニ刑ノ執行ニ付テハ少壯者ノ受クヘキ苦役ニハ堪ヘサル所アリ。故ニ本條ニ於テ其定役ヲ免シテ体力相當ノ役ニ服ス。体力相當ト云フ語ニ就テ反對ヨリ考フレハ六十歳未滿ノ者ハ之ヲ體力不相當ノ役ニ服スルカ如クナレモ決シテ然ルニ非ス。少壯ノ者ニハ普通ノ定役アリ。乃チ此普通ノ定役ヲ免シテ老体ニ相當スル役ニ服セシムルノ謂ナリ。其役ノ程度ノ如キハ壯者ノ定役ト同ク別ニ規則ヲ定ムルカ故ニ刑法ノ關スル所ニアラス。

又本條ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル後チ六十歳ニ至リタル者モ六十歳ニ滿タル後チ刑ノ宣告ヲ受ケタル者モ支配スルヤ勿論ナリ。

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス。島地ノ獄ニ幽閉

シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

流刑ハ國事犯罪ニ對シ死刑ニ次ク最重ノ刑ナリ。流刑ハ歐洲亞細亞共ニ古代ヨリ存スル所ノ刑名ニシテ今モ尙ホ其主旨ヲ異ニスルコトナシ。蓋シ皆ナ罪人ヲ遠地ニ謫シテ内地騷擾ノ患ヲ除クニアリ。然レモ余カ褻キニ徒刑ニ就テ辨シタル所ノ刑ノ普通ノ目的ニ至テハ流刑ト雖モ之ヲ有セサルハナシ。故ニ總テ刑ヲ論スルニハ其名ニ依ラスシテ其構造ヲ見ルヲ必要トス。茲ニ本條流刑ノ構造ヲ見レハ左ノ二元素ヨリ成ル。第一島地發遣第二幽閉是ナリ。而シテ自由ヲ剝奪スルノ點ハ其本性ナリ。

國事犯人チ島地ニ發遣スルハ最モ良法ナリトス。先ツ第一ニ之ヲ以テ大ニ痛苦ヲ感セシムルコトヲ得。何トナレハ國事ニ依テ罪ヲ得ル如

(第二十條)

キ者ハ彼ノ兇奸無智ノ囚徒トハ同シカラスシテ交際モ廣ク親戚ノ
 情モアリテ内地ヲ去ルハ其最モ難シトスル所ナレハナリ又第二ニ
 ハ内地ヲ去ラシムルハ本人ノ爲メニ非望ヲ覬覦スルノ機ヲ失ハシ
 メ、殘黨ノ通謀ヲ妨ケテ犯人反獄ノ患ヲ防キ公衆ノ爲メニ再ヒ禍難
 ニ遇フノ危険ヲ除クニ足レハナリ然レモ如何ンセン我國ニ於テハ
 現時遠隔ノ島地ヲ有セサルニヨリ右ノ如キ充分ノ結果ヲ生シ得ル
 島地發遣ヲ爲ス能ハス蓋シ北海道ニ發遣スルヲ得ヘシト雖モ北
 海道ハ其實島地ニアラサルナリ

又流刑ノ囚ヲ獄舎ニ幽閉シテ定役ニ服セサルモノハ大ニ其理由ア
 リテ存スルナリ嘗テ辨シタルカ如ク國事犯ト常事犯トハ大ニ其性
 質ヲ異ニスルモノニシテ即チ國事犯罪ハ道德ニ背キ特ニ社會ヲ害
 スルヲ最モ大ナルモノナレハ重ク之ヲ責罰シテ毫モ寬假ス可カラ

サルハ勿論ナリト雖モ亦彼ノ人ヲ殺シ物ヲ盜ムカ如キ野卑陋劣ノ
 罪トハ同視ス可カラサル所アリテ社會ノ之ヲ遇スルモ敵ノ俘虜ニ
 對スルカ如キノ思ヒナキ能ハサルモノトス故ニ之ニ科スル所ノ刑
 モ常事犯ト大ニ異ナラサルヘカラサルナリ然リ而シテ我刑法ハ如
 何ナル點ニ就テ國事犯ノ刑ヲ常事犯ノ刑ニ區別セシヤト尋ヌルニ
 歐州諸國ノ刑法ノ如ク囚人ヲ定役ニ服スルト服セサルヲ以テ此
 區別ヲ爲セリ本來定役ニ服スルヲ以テ刑ノ一元素ト爲スニ關シ
 テハ既ニ擧ケタルカ如ク學者ノ論駁ナキニ非スト雖モ個ハ寧ロ空
 論ニシテ實際ヨリ見レハ服役ノ一事ハ囚人ヲ屈辱スルノ最モ甚シ
 キモノナリ而シテ此屈辱ハ之ヲ破廉恥甚シキ常事犯罪人ニ施ス可
 クシテ之ヲ社會ノ公敵ト看做スヘキ國事犯人ニ施ス可カラス是レ
 其我刑法ニ於テ本條ノ流刑ヲ始メトシテ總テ國事犯罪ノ刑ニハ服

役ヲ付セサル所以ナリ、若シ之ニ反シ國事犯者ヲ常事犯者ト同ク役ニ服ストセンカ其處分ハ實ニ惡ムヘキノ結果ヲ生スルニ至ラン則チ爲メニ公衆ノ感覺ヲ害シ其反動力ハ遂ニ被刑者ヲ愛憐スルノ念ヲ起サシムル如キ又ハ國事犯者ト常事犯者トチ同等ニスルヨリ常事犯者ノ位置ヲ高カラシムルニ至ル如キ是ナリ、或曰ク國事犯人チ役ニ服セサルハ之ヲ宥恕寬待スルナリト是レ大ニ誤ルト云フ可シ國事犯者ハ國家ヲ騷擾スル大罪人ナリ如何シソ之ヲ宥恕寬待スルノ理アラソヤ、其之ヲ役ニ服セサルハ一ニ前ニ述ルカ如キ理由ナルヲ以テナリ

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレバ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限り居住セシムルヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

本條ノ規則ハ常事犯罪ノ刑ニ關スル假出獄ト其權衡チ同フスルモノニシテ其目的ニ簡アリ、先ツ第一ニハ流刑ノ囚ハ其望ミニ由リ勞力ヲ爲サント欲セハ敢テ禁スル所ニ非スト雖モ獄舎ニ幽閉シ外部ト交通ヲ爲スヲ許サ、ルヨリ狂疾ヲ感セシムルノ恐レアルノミナラス、無期囚ノ如キハ出獄スルノ希望ヲキヨリシテ自暴自棄ニ至ルナシトセス故ニ再ヒ社會ニ出ルヲ得ルノ門戸ヲ開テ改過遷善ヲ獎勵セサルヘカラス、是レ其本條ヲ設ケタル第一ノ目的ナリトス、サレハ假出獄ノ條ニ於ケルカ如ク獄則チ講守シ悔改ノ狀アル者云々ノ明文ナシト雖モ此條件ヲ満足セサル限りハ行政官ニ於テ本條ヲ適用セサル筈ナルヘシ、又第二ハ流刑ノ囚ニ早ク幽閉ヲ免スモノハ其島地ニ永住セシメ殖民地ヲ開カシメント欲シテナリ、此點ハ本

條幽閉ヲ免ス。ノ速カナルヲ見テモ知ル可ク、又此刑法佛交草按ヲ看レハ、妻子眷屬ヲ招テ同居スルヲ得ル等ノ事アリテ明カニ立法者ノ精神ヲ推測スルニ足ル。蓋シ此親屬ト共ニ同居スルノ點ハ大ニ刑ノ構成ニ關係アル者ナレハ刑法中ニ之ヲ定ムヘキカ如クナレハ日本文草按ニ於テ既ニ削除セラレタリ、併シ其後ヲ監獄則チ以テ之ヲ規定スルニ至リタリ

本條ノ規則ハ甚タ簡單ナルカ故ニ之ヲ適用スルニ當テハ大ニ解釋ニ依ラサルヲ得サルモノアリトス、先ツ假出獄ノ條中ニハ假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ云々トアレモ本條ノ免幽閉ニハ此規則ナキヨリシテ免幽閉中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者アルハ免幽閉ヲ取消シ得ヘキヤ否ヤニ付テ疑點ヲ生シタリ、蓋シ本條ニ明文ナキヲ以テ免幽閉ノ恩典ハ一旦之ヲ與ヘタル以

上ハ復タ取消シ得サルモノナリト論スル者アレモ余ヲ以テ之ヲ觀レハ大ニ誤レリトス、免幽閉ハ之ヲ受ケタル者更ニ重罪輕罪ヲ犯シタルハ取消シ得ヘキノミナラス、假令ヒ更ニ罪ヲ犯サ、ル時ト雖モ尙ホ之ヲ取消シ得ヘキモノトス、何トナレハ免幽閉ハ元ト是レ行政上ノ處分ナレハ之ヲ與フルト與ヘサルト一旦之ヲ與ヘテ取消ストハ行政官ノ隨意ニシテ行政官ハ此事ニ關シ毫モ他ノ規則ノ爲メニ箝制セラル、所ナケレハナリ、尙ホ此點ハ假出獄ノ諸條ト比較シテ始メテ明カナルモノナレハ假出獄ヲ講スルニ際シテ共ニ之ヲ講究スヘシ、又免幽閉ヲ取消スルハ其出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入ス可キヤ否ヤ、此點ニ付テモ明文ナキヨリシテ大ニ人ノ疑フ所トナレリ、然レモ余ハ刑期ニ算入セサル可カラスト言ハントス、何トナレハ行政官ニ於テ隨意ニ幽閉ヲ免シ又隨意ニ之ヲ取消シテ其免幽閉中ノ日

數ヲ刑期ニ算入セサラントスルハ決シテ能ハサルノ事ナレハナリ
 尙ホ此點モ假出獄ノ條中ニ於テ盡ス可シ
 爰ニ又禁獄ノ刑ト比較シテ論セサル可カラサルモノアリ、此免幽閉
 ハ特リ流刑ニノミ施用シテ禁獄ノ刑ニハ之ヲ用非サレハ禁獄ニア
 リテハ彼ノ假出獄ノ規則ニ依ラサルヲ得ス、故ニ禁獄ノ被刑者ハ刑
 期四分ノ三ヲ經過スルニ非サレハ幽閉ヲ解カル、ノ恩典ヲ受ルコ
 チ得サルナリ、仍テ例ヲ以テ之ヲ比較センニ十年ノ禁獄ニ處セラレ
 タル者アリトセハ其刑期四分ノ三即チ七年六ヶ月ヲ經過スルニ非
 サレハ假出獄ヲ得ル能ハスト雖モ十五年ノ流刑ニ處セラレタル者
 ハ僅カニ三年無期流刑ニ處セラレタル者モ僅カニ五年ヲ經テ幽閉
 ヲ解カル、ヲ得ルナリ、勿論島地ニ於テスルト内地ニ於テスルトノ
 別アリト雖モ同質ノ刑ニシテ其重キ者ハ實際却テ輕キカ如シ恐ク

ハ權衡平ヲ得タリト云フコトヲ得サルナリ、蓋シ草按ニ依レハ重禁獄
 ノ囚ハ二年輕禁獄ノ囚ハ一年ヲ經過シタル後島地ニ移ラント請フ
 者ハ幽閉ヲ免シテ其刑期間島地ニ發遣シテ居住セシムルコトヲ得ル
 ト云フノ一箇條アリタリ然ルニ本法之ヲ削除シタルカ爲メニ此不
 權衡ヲ生シタルニ非サルナキヲ得ンヤ

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス
 但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ
 重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八
 年以下ト爲ス

懲役ハ徒刑ニ次ク常事犯ノ刑ナリ、其重ト云ヒ輕ト云フノ別アレトモ
 止タ年數ノ異ナルノミニシテ服役ノ場所及方法ハ總テ異ナル所ナ

(第二十二條)

ク皆内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服セシムルモノ也曾テ論セシ如ク
此ニ於テモ刑ハ其名ニ拘泥ス可ラス又内地トアルハ島地ニ對スル
語ナレトモ北海道モ内地テレハ現時ニアリテハ島地ハ殆トナキノ姿
ナリ

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八
年以下ト爲ス

禁獄ハ流刑ニ次クヘキ國事犯罪ノ刑ナリ其重輕ノ別アレトモ共ニ服
役ナク皆内地ノ集治監ニ幽閉ス

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ
服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍

ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

禁錮ハ輕罪ノ主刑ニシテ服役ノ有無ニ依リ其輕重ヲ分ツモノナリ
而シテ禁錮ノ囚ハ其輕重ヲ論セス總テ禁錮場ニ留置スルモノトス
重禁錮ハ常事犯ノ輕罪ニシテ破廉耻甚シキモノニ之ヲ用フ故ニ服
役アリ輕禁錮ハ此輕罪ニシテ破廉耻ニ涉ラサルモノ若クハ國事犯
ノ輕罪ニ之ヲ用フ故ニ服役ナキナリ

禁錮ノ長期五年ナルハ重罪ノ輕懲役輕禁獄ノ短期六年ト一年ヲ隔
テ以テ重輕罪ノ刑ノ等級ヲ分ツ又禁錮ノ短期十一日ナルハ違警罪
ノ拘留ノ長期十日ト一日ヲ隔テ以テ二刑ノ等級ヲ分ツナリ

重禁錮ノ囚ハ場内ニ於テ定役ニ服スルヲ常則トスト雖モ便宜外役
ヲ爲サシムルヲ得ルハ猶ホ懲役ノ如ク又輕禁錮ノ囚ハ定役ニ服セ

(第二十三條)(第二十四條)

スト雖モ其所好ノ業ニ就クテ得ルハ猶ホ禁獄ノ如クナリ
 總テ重罪ノ刑ハ別ニ各本條ニ於テ長短ヲ區別スルコトナク前數條ニ
 定メタル所ヲ以テ直チニ之カ適用ヲ爲スト雖モ禁錮以下ノ刑ハ之
 ニ異ナリ已ニ總則ニ於テ長期短期多數寡數ヲ定メ而シテ仍ホ各本條
 ニ於テ其長短多寡ヲ區別セリ故ニ此刑法上ヨリ論スルモ禁錮以
 下ノ刑ニ付テハ總則ニ定メタル長短多寡ハ全ク無用ニ屬スルモノ
 、如シ然リト雖モ是レ無用ナラサルノミナラス却テ大ニ有用ナル
 コアルナリ即チ如此ク總則ニ定メタルハ後來設クル所ノ法律ニ於
 テモ此總則ノ範圍ヲ出ツヘカラサルコト示スナリ例ヘハ刑法第四
 百三十條ニ依リ各地方官ハ便宜違警罪目ヲ定メテ發行スルコト得
 ルト雖モ其定メタル違警罪ノ刑名ハ必ス拘留料料ニシテ其長短多
 寡ハ亦必ス一日以上十日以下五錢以上一圓九十五錢以下タラサル

ヘカラサルコト示スナリ而シテ又仍ホ各本條ニ於テ其長短多寡ヲ定
 メタルハ總則ノ範圍ハ甚タ廣キカ故ニ各罪ノ千差万別アルモノニ
 付キ一体ニ適用スヘカラサルヲ以テナリ故ニ總則ノ範圍ハ後來制
 定スヘキ法律ニ付キ立法官ノ依從スヘキ定度ニシテ而シテ各本條ノ
 範圍ハ此刑法ノ適用ニ付キ裁判官ノ遵守スヘキ準則ナリ

(第十三回)

第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則

ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ

給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ在ラス

本條ハ囚人ノ定役ニ服シ其得タル工錢給與ノ分配法ヲ示シタルモ

(第二十五條)

ノナリ、而シテ此工錢ノ幾分ヲシテ獄舎ノ費用ニ供スルモノハ犯人
 ナ改良センカ爲メ教育ヲ爲サシメ或ハ職業ヲ教ユル等ノ費用ニ供
 ス元來囚人ノ定役ニ服スル工錢ノ幾分ヲシテ費用ニ供スト雖モ甚
 タ僅少ナルモノナレハ到底其得ル所失フ所ヲ償フニ足ラス然リト
 雖モ若シ其囚人ノ得ル利益ヲシテ盡ク政府ニ納メシムルモ囚人
 ノ獎勵トナラサルノミナラス從テ改良ノ道ヲ失ヒ囚人ヲシテ滿期
 放免又ハ假出獄免幽閉ノ日ニ當リ就業ノ資力ナクシテ其生計ヲ營
 ムコト得サルカ如キノ患アルカ故ニ其幾分ヲ納メシメ其幾分ハ老
 ナ給與スルモノナリ

本夾ニ所謂ル監獄ノ規則トハ監獄則第五十一條以下ヲイフナリ定
 役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ
 十分シテ重罪囚ニハ其一分輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監

署ニ收ム又定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決囚ニシテ作業スルモハ其
 工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ給與ス且ツ定役ニ服
 スル囚徒ト雖モ當日ノ科程ヲ畢テ仍ホ作業スルモハ此科程外ノ工
 錢モ亦十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ給與スルナリ
 工錢ハ囚人ニ給與スト雖モ亦濫ニ之ヲ下付スルニハ非ラサルナリ
 工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ準トシ囚人各自ノ技能ニ應シ一日若干
 錢ト定テ常ニ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本
 人ニ知ラシムルノミナリ然レモ囚人ノ其親屬ニ贈與シ又ハ之ヲ
 以テ書籍其他必要ノ物品飲食物ヲ購求セント欲スルモハ監署ニ請
 フテ之ヲ爲スコト得又若シ其囚人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルモ
 ハ親屬ニ下付ス親屬ナキモハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ下付ス若シ
 又之ヲ下付スヘキ者ナキモハ官ニ沒入ス

又若シ囚人逃走シタルキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒收ス未決囚懲治
 人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬ナケレハ官沒ス已決囚ニ係ル沒收
 ハ所謂ル別ニ沒収ノ例ヲ定メタルモノニシテ逃走ノ制裁ナレハ本
 人再ヒ捕ニ就クモ之ヲ還付セサルヘシト雖モ未決囚懲治人ノ工錢
 ハ其親屬ニ下付スヘキ者ニシテ而シテ此親屬ノ受クヘキ者ナキニ依
 リ已ムヲ得ス官沒スルモノナルカ故ニ本人捕ニ就クキハ必ス之ヲ
 還付スヘキナリ且己決囚ト雖モ定役ニ服スル者ト定役ニ服セサル
 者トノ別アリ一體ニ沒收スヘキニ非ラサルナリ蓋シ定役ニ服セサ
 ル者ハ未決囚懲治人ニ準シテ處分スヘキナリ
 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ之ヲ給與スト雖モ現役百日以內ハ給與
 セス又服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日
 以內ハ亦工錢ヲ給與セス之ニ反シテ定役ニ服セサル囚人ノ工錢ハ

百日以內ト雖モ之ヲ給與ス又定役ニ服スル囚人其服役限内更ニ罪
 ナ犯スト雖モ後犯定役ニ服セサルキハ其所好ノ作業ノ工錢ハ百日
 以內ナルモ之ヲ給與ス故ニ初犯後犯ノ別ナク總テ定役ニ服スル囚
 人ニ付テハ現役百日以內ハ給與セス定役ニ服セサル囚人ノ工錢ハ
 常ニ之ヲ給與ス

現役百日トハ現地役ニ服スルノ日數百日ナイフ故ニ例ヘハ重禁錮
 四個月ニ處セラル、キハ其刑期ハ百日以外ナリト雖モ疾病等ノ爲
 メ役ニ服セスシテ而シテ現地服役ノ日數百日ニ滿タサルキハ工錢ヲ
 給與スルコトナカルヘシ然レモ一論題アリ令節國祭ノ日父母ノ
 喪等ハ獄則ニ於テ服役ヲ免スルノ日ナリ而シテ此免役ノ日ハ服役ノ
 日數ニ算入スヘキヤ否ヤ今按スルニ是レ法律ニ於テ役ヲ免シタル
 日ナレハ假令囚人ハ服役ヲ希フモ得ヘカラス且ツ恩典ニ係ル事ナ

レハ服役ノ日數ニ算入スヘキナリ若シ然ラサルニ於テハ恩典ノ主旨ニ戻リ強ヒテ囚人ニ不利ヲ施スナリ如此キハ決シテ理ニ於テ有ルヘカラサルノ事ナリ

現役百日内ハ何ノ理由ヲ以テ工錢ヲ給與セサルヤノ論題ニ至リテハ世間往々異論アリ某論者曰ク百日内ニ在テ放免セラレヘキ囚人ハ其刑期長カラサレハ再ヒ業ニ就クニ難ラス且ツ假令ヒ給與ヲ受クルモ其金額僅少ニシテ殆ント就業ノ資ト爲スニ足ラス又囚人未タ其業ニ熟セサレハ其得ル所官ノ出費ヲ償ハサレハナリト蓋シ其旨ヲ得タルニ庶幾カラシ

第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

東洋ノ刑法ニハ古代ヨリ收贖ノ法アリタレモ罰金ノ刑アリタルヲナシ蓋シ本條ノ罰金ハ歐洲諸國ノ刑法ニ其源ヲ取リタルモノナリ本來罰金ノ刑ハ充分ニ刑ノ須カラク達ス可キノ目的ヲ満足スル能ハサルモノナリ先ツ第一ニ罰金ハ財産上ヨリシテ一時犯人ヲ痛苦セシムルニ過キササルノ刑タルヲ以テ懲治ノ目的ヲ満足スルヲ能ハス勿論此刑ニ一回處セラレタル者ハ之ニ懲リテ再ヒ罪ヲ犯スニ至ラサルアル可シト雖モ這ハ是レ被刑者其中心ヨリ改邪歸正シテ然ルニ非スシテ止タ再タヒ財産ヲ奪ハル、チ恐ル、カ爲メナリ故ニ罰金ハ犯人ノ心ノ矯正ヲ要セサル犯罪ニ該テ、効アル可クシテ之ヲ其良心ノ敗壞ヲ見ハス所ノ犯罪ノ種類ニ適用ス可カラサルヤ明カナリ又第二ニ罰金ハ刑ノ責罰ノ目的ヲ満足スルヲ能ハス勿論或ル犯罪ニ關シテハ大ニ其効ヲ現ハスヲナキニ非ス例ヘハ犯人ハ法律ノ罪人トナルモ寧ロ其罰ス可キ所業ヨリ利益ヲ得ント欲シ若干

日ノ禁錮ヨリハ若干圓ノ罰金ヲ恐ル、場合ノ如キ此類ノ犯罪ニ對シテハ其責罰ノ効果却テ禁錮ニ優レルコトアリ、併シナカラ本來其痛苦犯人ノ身体ニ及ハサルヲ以テ罪ノ度稍ヤ重キ時ハ之ヲ責罰スルニ足ラサルノ刑ナリ、故ニ單ニ罰金ヲ以テ罰スルノ罪ハ自ラ一種ノ性質ヲ有スル所ノ者ニシテ身体ニ及フノ刑ヲ以テ罰ス可キ者ト自ラ異ナリトス、サレハ我刑法ニ於テ此刑ヲ採用シタリト雖モ主刑トシテハ道德ニ背クノ點最モ輕キ罪ニ適用シ其他ハ補助ノ刑ト爲シタルニ過キサルナリ

本條ハ則チ輕罪ノ主刑トシテ科スル所ノ罰金ヲ規定シタルモノニシテ其補助ノ刑ト爲シタル者ハ第四十二條ヲ以テ之ヲ規定セリ、而シテ罰金ノ必ス二圓以上ナル所以ハ其二圓ニ滿サル者ハ我刑法ニ於テ之ニ科料ノ名ヲ附シ違警罪ノ刑トナシタレハナリ、又本條二圓

以上トアリテ其最多額ヲ定メサルハ豫メ之ヲ知ル能ハサル場合アルニ因ル、例ヘハ第九十三條貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知り之ヲ行使シタル罪ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ストアルカ如ク犯罪ノ性質ニ因リ物件ノ價額ニ比較シテ多寡ヲ定ムルコトアレハナリ、此種ノ例ハ特別法ニ多キモノトス、又假令ヒ此ノ如キノ例アラストスルモ將來特別法ヲ以テ多額ノ罰金ヲ科スルヲ必要トスル場合屢生スルモノナレハ刑法ヲ以テ豫メ其最多額ヲ定メ置クコトハ將來ノ立法者ニ不自由ヲ感セシムルモノニシテ甚タ不可ナリトス

罰金ヲ科スルノ割合ニ至テハ法律家ノ說一定セス、是レ畢竟此刑ハ甚シキ不同等ノ性質ヲ有スルニ因ル、例ヘハ茲ニ百圓ノ罰金ヲ科セラレタル者アラシニ若シ其被刑者ニシテ富裕ノ者タルトハ毫モ爲

(第二十六條)

ノニ痛苦ヲ感セサラン、然ルニ之ニ反シ犯者貧窮ナルキハ家産ヲ傾クルモ尙ホ足ラサル者アリテ妻子之カ爲メニ凍餒スルカ如キ實ニ痛苦ヲ感スルノ甚シキアラン、勿論裁判官ハ二圓以上幾圓以下ノ中ニアリテ犯者ノ貧富ニ應シ適度ニ科スルナルヘシト雖モ個ハ右ノ弊ヲ救フニ足ラサルナリ、是ニ於テ或學者ハ先ツ罰金ノ最寡額ヲ二圓ト爲シ其以上ノ數ニ至テハ犯者ノ入額幾日分ヲ徵スルヲ以テ實際被刑者ノ受ル刑ト爲サントセリ此說ニ依レハ豪農富商ノ如キ日々ノ入額多キ者ハ罰金ノ額從テ多ク車夫馬丁ノ如キ入額少キモノハ隨テ其罰金ノ額モ少ナキカ故ニ各痛苦ヲ感スルコト同等ニシテ甚タ至當ナルニ似タリ、然レモ其入額ノ多寡ヲ定ムルハ實際上殊ニ困難ナルヲ如何セン、官吏ノ如キハ其入額定マレリト雖モ商家ノ如キハ今日千圓ノ入額アルモ明日俄ニ損失ヲ來シ突然入額ヲ減スルコト

アレハ到底其平等ヲ得ル能ハサルナリ、又一說ニ據レハ税金又ハ家賃ヲ拂フノ多寡ニ率ツテ之ヲ定ムヘシト是亦タ行フヘキコトニアラス何トナレハ外部ニ於テ虛飾ヲ張ルモ内實甚タ困窮スル者アリ又無宿無頼ノ徒ニ至テハ之ヲ拂フコトナキ者アリ故ニ税金又ハ家賃ノ多寡ニ率ツテ其貧富ヲ定メ罰金ヲ科スルハ實際行ハレ難キコトナリ、然ラハ則チ他ニ良法ヲ得ヘキヤ如何ン是レ則チ立法者ノ止ムヲ得スシテ單ニ最多額最寡額ヲ定メ裁判官ヲシテ其適度ヲ擇マシムルニ歸シタル所以ナリ然レモ家賃又ハ税金ノ多少ニ率ツテ罰金ヲ科スルノ說ハ稍其實際ヲ得タルニ庶幾カラシ手税金又ハ家賃ヲ多ク拂フモノ、富裕タルハ通例ニシテ其内實困窮スル者ハ至テ稀ナルモノナレハナリ然レモ未タ之ヲ實行シタルノ邦アルヲ聞カス

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完

(第二十七條)

セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算
シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ
一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官
ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ
過クルコトヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日
數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ
納メタル時亦同シ

凡ソ刑ハ裁判確定シタル後即チ上訴期限ヲ經過シ又ハ上訴ヲ爲シ

テ其裁判アリタル後ニ非ラサレハ執行スヘカラサルハ是レ刑法ノ
原則ナリ而シテ罰金ハ他ノ刑ト異ナリテ裁判確定スルモ亦直チニ之
ヲ徵スルコトナク尙ホ三十日ノ猶豫ヲ與ヘテ之ヲ納完セシム是レ亦
刑ハ一身ニ止マランコトヲ欲スルノ意ナリ若シ即時ニ納完セシムル
ニ於テハ貧困ノ者ハ己レ一人究迫スルノミナラス此金額ヲ調達セ
ンカ爲メ其家族ヲシテ或ハ活路ヲ失フニ至ラシムルノ恐アリ且多
少ノ資産アル者ト雖モ常ニ金圓ハ貯藏スルモノニ非ラス是レ世間
自然ノ情勢ニシテ就中商家ノ如キハ金圓ニテ貯藏スルコト多クハ之
レナキナリ故ニ必ス常ニ若干ノ猶豫期限ヲ與ヘサルヲ得サルナリ
然リト雖モ到底資力ナクシテ納完スル能ハサル者アリ或ハ資力ア
リト雖モ隱匿シテ納完セサル者亦之レナキニ非ラス此等ノ場合ニ
於テ其處分方法ナカルヘカラサルナリ故ニ善意惡意ニ拘ハラス三

十日ノ限内ニ罰金ノ全額ヲ納メサル者ハ勿論其幾分ヲ納ムト雖モ
 殘額ヲ納完セサル者ハ皆一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ輕禁錮ニ換ヘ
 且一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第七十三條ニ據ルニ禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一
 日ニ滿サルモノハ之ヲ除棄ストアリ然レハ今此ニテモ一圓ニ滿サ
 ルモノハ除棄スヘキニ似タリト雖モ仍ホ一日ニ計算スルハ是レ金
 圓ヲ納完セシムルヲ以テ本法ト爲シ且第二項ニ定ムルカ如ク禁錮
 期限ヲ二年ニ制限スルカ故ニ一日ニ計算セサルモハ寬ニ失スルノ
 恐アルカ故ナリ

罰金ヲ禁錮ニ換フルハ刑ノ執行中ノ處分ナレハ公廷ニ於テ更ニ裁
 判ヲ爲スニ及ハス執行ハ檢察官ノ司トル所ナルカ故ニ其請求アル
 モハ裁判官其旨ヲ犯人ニ命ス而シテ檢察官亦此命令ノ執行ヲ爲スナ

リ茲ニ注目スヘキコトアリ裁判ト命令トノ別是レナリ裁判ハ裁判所
 構成規則ニ循ヒ諸員列坐シ而シテ治罪法ニ定ムル公判ノ規則ニ依リ
 公廷ニ於テ言渡スモノナリ之ニ反シテ命令ハ公判ノ規則ニ依ラス
 裁判官一名ニシテ言渡スモノナリ然レモ其執行ハ裁判ノ如ク檢察
 官之ヲ司ルナリ

茲ニ最モ注意ヲ要スルノ一事アリ則チ被刑者一月内ニ罰金ヲ納完
 セサル時ニ當リ之ヲ禁錮ニ換ヘンコトヲ求ムルト否トハ檢察官ノ意
 見ニアルコトナレモ一タヒ檢察官之ヲ求メタルモハ裁判官ハ其求メ
 ニ應シ必ス禁錮ニ換フル旨ヲ命セサル可カラサルコト是ナリ是レ我
 第二十七條ニ於テ罰金ヲ禁錮ニ換フト明言シテ換フルト否トテ裁
 判官ノ意見ニ任セサルヨリ出タル結果ナリトス最初草案ニハ禁錮
 ニ換フルコトヲ得トアリテ換フルト否トハ一ニ裁判官ノ意見ニ任セ

タリシカ審査ノ際現行法ノ如ク改正シタリ而シテ此改正ハ大ニ其理由アリテ存スレドモ草按ノ規則モ亦其理由ナキニ非ス、請フ之ヲ辨明セン

元來罰金ハ其固有ノ性質アリテ刑ノ目的ヨリ論スルモ之ヲ科スルノ罪ヨリ論スルモ禁錮トハ總テ其旨趣ヲ異ニスルモノトス、サレハ此刑ヲ受ケタル者ニシテ資力アリナカラ故サラニ金額ヲ納メサルハ飽マテモ逕徴シテ出金セシメ以テ其痛苦ヲ感セシムルノ主旨ヲ貫カサル可カラズ、仍テ止テ得サル場合ニ於テハ禁錮ニ換フルヲ必要トスルコアルヘシト雖も個ハ固ヨリ本旨ニアラスシテ畢竟納完ヲ強迫スルノ手段タルニ過キサルナリ、故ニ此禁錮ニ換フルノ點ニ關シ法律ヲ設ケントセハ須カラク換フルト否トヲ以テ裁判官ノ意見ニ任セ場合ニ因リテハ禁錮ニ換フルコトナク飽マテモ金額ヲ納

完セシムルノ處分ニ及フコトヲ得セシメサル可カラズ、然ルニ若シ之ニ反シ期限内金額ヲ納メサレハ必ス禁錮ニ換フト規定スルキハ犯者ニ於テ罰金ヲ出スヨリハ寧ろ禁錮ヲ受ルヲ利アリトセハ只々期限内ニ納メサルノミニシテ其目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ、是レ恰モ犯者ニ二刑中一ヲ擇フコトヲ得ルノ權ヲ與ヘタルモノニシテ實ニ刑法ノ尊嚴ヲ缺クト云フヘキナリ、又實際ニ於テハ一日ノ勞力能ク一圓ノ金ヲ得ル能サル被刑者ニシテ廉恥ヲ知ラサルキハ一日ノ輕禁錮ヲ以テ一圓ノ利益ヲ得ルカ如キ思ヒヲ爲シ必定禁錮ヲ擇テ之ヲ受ント要ス可ク殊ニ此禁錮ニハ服役ノ設ケナキヨリシテ獄舎ハ恰モ貧民救育所ノ狀ヲ呈スヘシ豈ニ奇怪ノコトラスヤ、故ニ何レノ點ヨリ見ルモ罰金ヲ禁錮ニ換フルト否トハ一ニ裁判官ノ意見ニ任セサル可カラズ、是レ其草按ニ於テ禁錮ニ換フルコトヲ得ト爲シタル所以

ナリ然リト雖也又他ノ一方ヨリ論スレハ若シ禁錮ニ換フルヲ裁
 判官ノ意見ニ任スルハ裁判官ハ其意見ヲ定ムル爲メ被刑者毎ニ
 其資力ヲ調ヘ實ニ罰金ヲ納ムル能ハサルヤ否ヤヲ審究セサルヘカ
 ラス若シ果シテ然ルハ或ハ財産ノ差押ヲ爲シ或ハ身代限處分ヲ
 爲ス迄ニ至リ實際上非常ノ手數ヲ煩ハシ裁判事務ノ澁滯ヲ來シテ
 其得失ヲ償フ能ハサルヤ必セリ故ニ右論スル所理ハ則チ理ナリト
 雖也實務上行ハレ難キ所アリ是レ蓋シ現行法ニ於テ單ニ禁錮ニ換
 フト斷言シテ裁判官ノ意見ニ任セサル所ナリ
 是ニ由テ之ヲ觀レハ草按現行法ニツナカラ其理由アルモノニシテ
 各其得失相半ハスルモノトス然レモ現行法ノ規則ハ要スルニ實務
 上ノ困難ヲ避クル爲メノ者ナレハ若シ幸ニ他ノ方法ヲ以テ此困難
 ヲ避クルヲ得ハ遂ニ草按ノ主旨ニ復ルヲ得ヘキヤ固ヨリ疑ヲ

容レサルナリ而シテ此困難ヲ避クルハ蓋シ甚タ爲シ難キニアラ
 サルカ如シ例ヘハ禁錮ニ換フルト否トナ全ク裁判官ノ手心ニ任セ
 テ資力調ヲ爲スヲ要セストスルカ如キ是ナリ
 第二項ニ檢察官ノ求メニ依リ云々トアルヲ以テ檢察官ノ求メナケ
 レハ禁錮ニ換フルヲ得ス故ニ檢察官ニシテ或ハ求メ或ハ求メサ
 ルトアレハ禁錮ニ換フトアルモ其實禁錮ニ換フルヲ得ルト云フ
 ニ異ナラスト云フモノアレモ是レ本條ヲ彌縫シタルノ說ニ過キス
 已ニ第一項ニ換フトアル以上ハ第二項ニ於テモ檢察官ハ必ス其請
 求ヲ爲サル可ラスト信スルナリ
 本條ノ禁錮ノ二年ニ過クルヲ得サル所以ハ一圓チ一日ニ折算シ
 テ輕禁錮ニ換フト雖モ固ト罰金ニハ前條ニ言ヒシカ如ク其多數ノ
 定メナキトナレハ幾十年ノ禁錮ニ該ルカモ測リ難シ然レハ禁錮ヨ

リ輕キ犯人ニシテ却テ甚タ重キニ至リ大ニ刑ノ權衡ヲ失フニ至ル
ヘシ是ニ由リ其制限ヲ立テ罰金ニ換ヘタル禁錮ハ二年ニ過クルコ
ヲ許ルサ、ルナリ

又第三項ノ理由ハ已ニ前ニモ述ヘシカ如ク罰金ヲ禁錮ニ換フルハ
固ト已ムヲ得サルニ出ルモノニシテ金圓ヲ以テ納完セシムルヲ本
法トスルナリ故ニ禁錮ニ換ヘタル後ト雖モ本條ニ循ヒ金圓ヲ納メ
シムルハ法律ノ欲スル所ナリ然リ而メ之ヲ納メタルモハ禁錮ノ日
數ヲ扣除シテ放免ス且ツ本人自ラ納メタル時ノミナラス親屬其他
ノ者代テ罰金ヲ納メタル時モ亦同様ナリ親屬等ノ代償ヲ許ルスハ
是レ罰金ハ金錢上ノ刑ナレハ他人ニ借用シテ納ムルハ固トヨリ妨
ナキコニシテ而メ本人若シ資力ナキモハ必ス他人ニ依ラサレハ納
完スル能ハサルハ當然ノコナリ然レハ他人代償スルハ即チ是レ本

人ニ之ヲ貸與フルト同一理ナレハ之ヲ許ルサ、ルヲ得サルナリ
又最終ニ罰金ハ財産ニ及フノ刑ニシテ之ヲ宣告スルヤ直チニ國庫
ヲ以テ被刑者ノ債主ト爲スモノナレハ被刑者本人死スルモ猶ホ其
遺産ニ懸リテ相續人ヨリ追徴スルコトヲ得ヘキ筈ナリ然レモ我刑法
ニ於テ納完セサルモ禁錮ニ換フト爲シタル以上ハ相續人ヨリ追徴
スルコトヲ得ス何トナレハ本人若シ存在セハ或ハ禁錮ニ換ヘタルモ
モ知ル可カラス又相續人納完セサレハトテ之ニ禁錮ヲ加ヘントス
ルハ能ハサルノコナレハナリ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其
刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ
其長短ヲ區別ス

(第二十八條)

拘留ハ古來ノ刑名ニ非ラス且ツ佛律ニモ違警罪ニ付キ別ニ刑名ヲ定メス輕罪ト同ク其刑名ヲアンプリゾンヌマントイヘリ唯其刑期ニ長短ノ別アルノミナリ違警罪ニ付キ別ニ刑名ヲ設ケタルハ蓋シ此刑法ヲ以テ初メトス今如此ク罪名ヲ異ニスル毎ニ刑名ヲ異ニスルハ罪名ニ依テ刑名ヲ知り刑名ニ依テ罪名ヲ知ルノ便アルヲ以テナリ

違警罪ハ取締上ノ罪ニシテ多クハ道德ニ戻ル所アルニ非ラス唯世上ノ取締立タサルヲ以テ罰スルノミ其刑期モ亦短キカ故ニ服役セシムルヲ得ス故ニ唯拘留所ニ留置スルノミニシテ定役ニ服スルコトナシ其刑期ハ一日以上十日以下ニシテ此刑法ニハ皆各本條ニ其長短ヲ區別セリ

本條ニハ拘留所トアリト雖モ監獄則ニハ拘留場トアリ而シテ又拘留場ニ拘留スルノミナラス留置場ニモ拘留ス此拘留場留置場ハ各府縣ニ在リテ警視總監又ハ府知事縣令ノ管理スル所ナリ然レモ留置場ハ固ト未決者ヲ一時留置スル所ニシテ或ハ裁判所ニ屬スルアリ或ハ警察署ニ屬スルアリ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ留置場ニ拘留スルハ時宜ニ由ルノ便法ナリ

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲

シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

科料ハ拘留ト共ニ違警罪ノ主刑ニシテ其性質目的總テ罰金ニ同シ

輕罪ノ罰金ニハ主刑附加刑ノ別アリト雖モ違警罪ノ科料ニハ此別ナシ拘留ト併科スルキニテモ科料ハ常ニ主刑ナリ違警罪ノ附加刑

(第二十九條)

タルモノハ唯沒收アルノミ

科料ノ數五錢以上一圓九十五錢以下ハ輕罪ノ罰金トノ別ニシテ立
法上ノ制限ナリ此刑法第四編ニハ各本條ニ皆其多寡ヲ定メタリ

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セ

シム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照
シテ之ヲ拘留ニ換フ

罰金ニ付キ第二十七條ノ規則ヲ設ケタルト全ク同一ノ意ナリ其處
分方法モ亦第二十七條ニ同シ故ニ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完
セシメ若シ其限内ニ納完セサルキハ一圓ヲ一日ニ折算シテ拘留ニ
換ヘ其一圓ニ滿タルモノ亦之ヲ一日ニ計算ス
拘留ニ換フルニハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ

命ス然レモ科料ニハ拘留期限ニ制限無キカ故ニ極論スレハ數罪俱
發科料ヲ併科スルモニハ許多ノ年月ニ涉リ或ハ輕罪ノ禁錮ノ如キ
ニ至ルコト無キニシモ非サル可ナリ
又此等ノ場合ニ於テ科料ヲ納メタルモハ第二十七條第三項ノ例ニ
循ヒ拘留ヲ免スルコトヲ得ヘシ

十四年十二月二十八日警視廳達違警罪處分手續第六條ニ曰ク科料
ハ即時納完セシム若シ即納スル能ハサル者ハ刑法第三十條ニ依ル
ヘシト雖モ其限内納完スルノ目的ナキ者ハ刑法第廿七條ノ例ニ照
シ直ニ拘留ニ換フヘシト故ニ刑法ニハ十日ノ猶豫ヲ與フト雖モ此
達ニテハ之ヲ與ヘス即納セシムルヲ以テ大ニ刑法ト相反スルニ似
ルト雖モ決ノ然ルニ非ス此達ハ便宜ニ基キ第卅條ノ解釋ヲ爲シタ
ルニ過サル者ナレハ偏ニ此達ノミニ依リ嚴ニ即時納完セシムヘキ

(第三十條)

ニハ非ス犯人ヲ勸メテ成ルヘク即納セシムルノミ若犯人ニ於テ限
内到底納完スルノ目的ナキ旨ヲ申スルモハ直ニ拘留ニ換フル也所
謂ル納完スルノ目的ハ犯人ノ目的ニシテ裁判官納完セシムルノ目的
ニハ非サルナリ此自他ノ別ヲ混スルモハ直ニ法律ト相反スルニ至
ラン是レ唯此處ノミナラス總テ自他ノ別ニハ注意セサルヘカラサ
ルナリ

第三節 附加刑處分

刑ニ主刑附加刑アリ其一般ノ性質ニ付テハ業既ニ辨明セリ仍テ此
ニ之ヲ贅セス附加刑ハ總テ權利ニ及フノ刑ナリ其然ル所以ノモノ
ハ附加刑ハ本來主刑ノ及ハサル所ヲ補充シ主刑ト相俟テ完全ノ一
刑ヲ作爲スル者ナルニヨリ之ヲシテ身體ニ及フノ刑タラシメハ附
加刑ヲ設クル本旨ニ反キ一罪二罪ノ結果ヲ生スルニ至ルヘシ故ニ

附加刑ヲシテ必ス權利ニ及フノ刑タラシメタル豈ニ偶然ナラン乎

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

- 一 國民ノ特權
- 二 官吏ト爲ルノ權
- 三 勳章、年金、位記、貴號、恩給ヲ有スルノ權
- 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
- 五 兵籍ニ入ルノ權
- 六 裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權、但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス
- 七 後見人ト爲ルノ權、但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ

(第三十二條)

爲メニスルハ此限ニ在ラス

八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産
ヲ管理スルノ權

九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

剝奪公權ハ全ク佛國刑法ヲ摸シタルモノニシテ我國從來無キ所ナ
リ但舊律ノ追奪位記除族ノ如キハ稍相類スルモノトス又古ノ禁錮
ハ其制詳ナラスト雖ヒ却テ大ニ剝奪公權ニ似タルモノ、如シ
剝奪公權ハ佛語ニ之ヲデグラマシヨシウクトイフ即チ公權ヲ剝
奪スル加辱ノ刑ナリデグラマシヨシウクトイフ猶ホ剝奪位記トイハシカ如
シ初メ羅馬ノ時ニ於テハ僧尼ノ服飾ヲ奪ヒ其位ヲ去ラシムル刑ヲ
デグラマシヨシウクトイヒシナリシウクトイフ本ト都樣ノ意ナリ轉用シテ

今此ニハ公權ノ事ヲ指スナリ其刑制ハ佛國刑法第三十四條ニ在リ
抑モ此剝奪公權ナルモノハ完全ノ性質ヲ有スルノ刑ニ非ス前罰金
ノ條ニ於テ其刑ノ不同等甚タシキヲ論セシカ本條ニ至レハ亦タ之
ヨリモ甚シキモノアリ先ツ第一ニ婦女ハ此刑ヲ受クルハ稀ナリ故
ニ男女ノ間ニ於テ既ニ其不同等ナルヲ覺知スヘシ又タ同シク男子
ト雖ヒ公權ヲ重スル者アリ否ラサル者アリ之ヲ重スル者ニシテ公
權剝奪ノ刑ニ該ルキハ施休ノ刑ヨリモ尙ホ痛苦ヲ感スルハ深ク公
權ヲ重セル者此刑ニ逢フハ此刑ノ影響スル所被刑者ノ爲メニ
ハ恰モ刑ヲ受ケサルト一般ニシテ毫モ感觸スル所ヲ覺知セサル者
アラン夫レ如此被刑者ノ地位ニ依リ刑ノ感應スル所差異アレハ如
何ソ之ヲ同等ナリト云フヲ得ンヤ
又此刑ハ終身ナルカ故ニ一度此刑ニ係ルキハ終身世人ト共ニ齒ス

(第三十一條)

ルヲ得ズ是レ社會ノ門戸ヲ鎖シ他日良民ヲラント欲スルノ念ヲ拒絶シテ容レサルト等シ、又タ此刑ハ分割シ得サルノ刑ナリ故ニ懲ヲ復スル爲メ人ヲ殺シタル者ニ對スルモ共有財産ヲ管理スルノ權ヲ奪ヒ或ハ罪ヲ國事ニ依テ得タル者ニ對スルモ裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權ヲ奪フカ如キ原因結果相貫徹セサルノ例ヲ現出スルニ至ル惟フニ本刑ノ如キハ本來分割シ得ヘキノ性ヲ有スルノ刑ナリ則チ奪フ可キ諸種ノ權ヲ定メ置キ裁判官ヲシテ其奪フ可キモノヲ撰テ之ヲ適用セシムル是ナリ、然レモ斯ノ如クスルモハ裁判官ニ與フルノ權大ナルニ過ルノ患アルノミナラス或ハ時ニ混雜ヲ來スノ恐れアリ、故ニ到底至良ノ刑ト爲ストヲ得サルナリ、然ラハ則チ之ヲ廢センカ否ヲ廢止スルヲ得サルモノアリ、犯罪ノ性質ニ因リテハ犯者自カラ國民タルノ品位ヲ毀損シ法律ニ由テ得ル所ノ權利ヲ有スル

能ハサルニ至ルアリ或ハ之ヲ行フニ適應セサル者トナルアリ、若シ此ノ如キ者ヲシテ權利ヲ有セシメンカ其權利ハ反テ危險ヲ醸スノ資トナリ良民其害ヲ被フリテ止ムノ期ナキニ至ラントス是レ本刑ノ由テ起ル所以ニシテ又止ム可ヲサル所ナリ、サレハ立法者ニ於テ之ヲ適用スルニ當リ謹ミテ加フルノ一點アルノミ、
剝奪公權ハ身分并ニ能力ニ關スル權ヲ剝奪ス然レモ嘗テ論シタルカ如ク此權ニ二類アリ其一ハ天然ヨリ得ル所ノモノニシテ人生ト有無ヲ共ニシ以テ人類ノ人類タル所以ヲ成サシムルモノ即チ父母ノ權子孫ノ權ノ如キ是ナリ其二ハ天然ヨリ得ルト雖モ社會ノ存スルニ因テ其成跡ヲ現ハスモノ即チ社會ノ組織ニ從テ多少ノ伸縮ヲ爲スモノ是ナリ其第一ハ奪フ可ラス其第二ハ奪フテ以テ一刑ト爲スヲ得可シ我剝奪公權ハ即チ是ナリ

(第十四回)

本日ハ第三十一條ノ各項ニ就キ我刑法ノ奪フ所ノ公權ヲ研究セシ、
本條第一項ニ剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ストアレヒ公權剝奪ハ左ノ
如シト云フト一般ナリトス

第一國民ノ特權○國民ノ特權トハ其性質ニ因リ又ハ法律ニ因テ獨
リ我國民ノ有スル所ノ權ニシテ外國人ノ之ヲ有スル能ハサルモノ
ナリ即チ我日本國ノ政治上ニ關係スル所ノ權ナリ然レヒ我國ノ法
律未タ完全ノ域ニ達セサルヲ以テ其大要ハ明カナレヒ其細目ニ至
テハ之ヲ詳悉スル能ハス蓋シ特權トハ現今ノ法ニ就テ之ヲ見レハ
府縣會議員ヲ選舉シ又ハ選舉セラル、ノ權ノ如キハ其重ナルモノ
ナリ他日國會開設ニ至ラハ其議員ヲ選舉シ又ハ選舉セラル、ノ權
ハ是レ權利ノ性質ニ於テ國民ノ特權タルモノナリ

土地所有ノ權土地賣買ノ權國字新聞記者タルノ權内地往來ノ權ノ
如キモ法律ニ於テ獨リ我國民ノミニ之ヲ許ルシテ外國人ニ許ルサ
、ル所ノモノナレハ亦是レ國民ノ特權タルカ如シト雖ヒ此等ノ權
利ハ剝奪スルノ限ニ在ラサルヤ疑ヲ容レヌ何トナレハ土地所有賣
買ノ權新聞記者タルノ權ハ是レ人ノ私權ニ屬シ内地往來ノ權ハ是
レ人ノ天然ヨリ得タル能力ニシテ共ニ皆公權中ノモノニ非ラサレ
ハナリ

第二官吏ト爲ルノ權○官吏ト爲ルノ權ヲ失フカ故ニ現任ノ官職ヲ
失フハ言ヲ待サルナリ蓋シ官吏ト爲ルノ權ハ其性質ニ於テ國民ノ
特權ナルヲ以テ此ニ之ヲ特書スルハ無益ナルニ似タリ然レヒ原稿
ニ就キ立案者ノ意ヲ推度スルニハ一項二項ノ別アル所以ヲ解スル
ヲ得ヘキモノトス即チ一項ノ特權ナル者ハ佛國刑法第三十九條第

(第三十一條)

二項ニ所謂ル投票撰舉被撰舉ノ權并ニ公權一切ノ公權政權ニシテ假令ヒ國人ナリト雖モ老少男女ノ別ナク人民一般ニ有スルヲ得ヘキモノニ非ス又之ヲ有スル者ハ法律ニ從テ之ヲ行フモノニシテ政府ノ命ヲ待テ時ニ之ヲ行フモノニ非ス然ルニ官吏トナルノ權ハ之ト異ナリ凡ソ國民タル以上ハ老幼男女ノ別ナク之ヲ有スルヲ得ヘク之ヲ行フヲ得ヘシ故ニ明治九年四十一號布告ニ所謂ル丁年未丁年ノ區別ニモ關セス亦女官女教員ノ如キ婦女ニシテ官吏タル者ハ比々トシテ見ル所ナリ且ツ此權ハ之ヲ有スルハ法律ニ因ルト雖モ之ヲ行フニ至テハ任免ハ政府ノ權内ニ在ルヲ以テ法律ニ依リテ自ラ行フモノニ非ス則チ政府ノ命ヲ待テ之ヲ行フモノナリ是其國民ノ特權ト官吏ト爲ルノ權ト異ナル所ニシテ法律ノ之ヲ特書シタル所以ナリ

其然リ然リト雖モ畢竟何等ノ者ヲ指シテ官吏ト云フカノ點ニ至テハ判然タラサル所アルカ如シ則チ等内等外ノ官吏アリ出仕御用掛御雇ト稱スルモノアリ又俸給上ヨリ見ルモハ官給ノ者アリ民費ヲ以テ給スル者等アルヲ以テナリ然レモ懲戒令滿年賜金朝拜祝賀等ノ例ニ依リ推ス時ハ蓋シ等内等外ノ別ナク又官給民給ヲ論セス凡テ俸給ヲ受ケテ政府ノ爲メニ職ヲ奉スル者ハ御雇ト稱スル者ヲ除クノ外官吏ナリトス彼ノ布達ニ依リ準官吏ト稱スル者亦同シ

第三勳章年金位記貴号恩給ヲ有スルノ權○勳章トハ一等ヨリ八等ニ至ル大小綬章從軍記章褒章等ナイフ而シテ之ヲ剝奪スルモハ其賞牌勳狀共ニ之ヲ收奪ス○年金ハ文武官吏ノ功勞ニ報ヒンカ爲メ毎年下賜スル所ノ金圓ナリ之ヲ剝奪スルモハ唯以後年金ヲ給與セサルノミナラス其年金票モ亦之ヲ收奪ス(十五年三月六日司法省丙九

號及ら同年四月十七日司法省丙十六號達參看○位記ハ正一位ヨリ
 從九位ニ至ル十八等ノ位階チイフ○貴號ハ皇族華族士族ノ門閥ノ
 稱チイフ剝奪貴號ハ所謂ル從來ノ除族ナリ除族ノ事ニ付テハ戶主
 除族セラル、キハ其一家族亦皆除族セラル可キヤ否ヤノ論アリ然
 レモ刑ハ一身ニ止マラサル可カラサルハ動カス可ラサルノ原則タ
 リ且ツ既ニ改定律例第十四條ニハ本犯一人チ除シ族ハ子孫ニ襲カ
 シムトアリ剝奪公權ハ犯人ニ言渡スモノニシテ其家族ニ言渡スモ
 ノニハ非ラス原稿第三十九條ニ公權ノ剝奪ハ受刑者ニ對シテ左ノ
 數件チ生ストアリ是レ受刑者一人ノミノコニシテ他ノ無辜ノ人ニ
 及ハサルノ意明ナリ今ノ律文ハ如此ク分明ナラスト雖モ其主意ニ
 至テハ毫モ異ナルコナシ故ニ本犯チ除クノ外一家族ハ依然トシテ
 其族チ襲ク可キナリ○恩給ハ恩典チ以テ官ヨリ下賜セラル、金圓

チイフ即チ恩給例ニ由リ陸海軍人ニ下賜セラル、モノ其他官吏ニ
 下賜セラル、滿年賜金ノ如キチイフナリ

第四外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權○外國ノ勳章ハ我政府ノ與ヘタル
 モノニ非ラサレハ又之チ全ク剝奪スルチ得ス唯之チ佩用スルノ權
 ハ我政府ノ與ヘタル所ナルチ以テ今此佩用ノ權チ剝奪スルノミ是
 レ我國ノ勳章ト異ナル所以ナリ又外國ノ勳章チ受ケタル者ハ唯政
 府ノ許可チ得テ之チ佩用スルノミニ止マリ我國ノ勳章チ受ケタル
 者ノ如ク其身分取扱上ニ於テハ別ニ優待チ受クルノ榮譽ナシトス
 第五兵藉ニ入ルノ權○此權ハ一面ヨリ之チ視レハ却テ國民ノ義務
 タリト雖モ亦他ノ一面ヨリ觀ルキハ自國ヲ保護シ其干城タルハ國
 民タル者ノ權ナリ而シテ國家チ保護スルハ其任實ニ重シ其重任チ以
 テ法チ犯シ國チ害スルノ罪人ニ之チ負ハシムルチ得サルハ又數ノ

賂易キモノタリ

第六裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權○裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ能力ヲ奪ヒ以テ剝奪公權ノ一元素ト爲スノ制ハ其來ルコト遠シ則チ羅馬時代ヨリ延テ歐洲古代ノ刑法ニ及ヒ爾來依然トシテ今尙ホ存シ
 遂ニ東洋ニ來リ我日本刑法ニ現出スルニ至レリ

夫レ裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ能力ハ不辜ノ爲メニハ其冤ヲ雪キ
 社會ノ爲メニハ惡ヲ除ク國民ノ義務ナリ然ルニ之ニ權ノ名義ヲ附
 シ之ヲ剝奪ス其之ヲ剝奪セラル、者ニ害ナクシテ之ヲ剝奪スル者
 ニ損アル知ル可キノミ今茲ニ此法ノ原因即チ羅馬ニ於テ此制ヲ設
 ケタル所以ヲ尋ヌルニ其治罪ノ方法大ニ此種ノ制ヲ要スルカ如シ
 ト雖モ其實ハ蓋シ當時刑罰ヲ設クル所以ノ理未タ明カナラス惡ヲ
 惡ムノ念切ニシテ犯者ヲ辱メント欲スルノ心苟モ急ナルヨリ出タ

ルヤ疑ヲ容レサルナリ

後世ノ立法者以爲ラク刑餘ノ罪人ハ其言信ヲ置クニ足ラス若シ此
 等ノ者ヲシテ証人タルヲ得セシメハ民刑ノ裁判上其危險云フ可ラ
 サルナリト然レヒ予輩ヲ以テ之ヲ觀レハ裁判官ノ証言ヲ容ル、ニ
 當リテヤ常人ノ陳述ニ係ルト雖ヒ之カ爲メニ束縛セラル、コトナシ
 只タ証言ヲ爲ス者ノ心實ヲ察シ言語ノ顛末ヲ按シテ其取ル可キハ
 取ランノミ危險ノ點ニ至リテハ常人ノ証言或ハ反テ刑餘ノ人ヨリ
 甚シキ者アリ何トナレハ其言容易ニ信ス可キカ故ナリ況ンヤ刑餘
 ノ罪人ト雖ヒ盡ク信ヲ置クニ足ラサルニ非サルヲヤ又假リニ一步
 チ讓リ刑餘ノ人ハ盡ク僞言ヲ構フルモノトスルモ其僞言或ハ反テ
 眞實ヲ得ルノ資トナル可キアルヲヤ

立法者又以爲ラク裁判所ハ公明正大理非ヲ直斷スルノ所ナリ如何

(第三十一條)

二百七十七

ソノ罪人ヲ以テ之ヲ補助セシムルヲ得ンヤト然レモ理非テ直斷スルハ事實ノ眞ヲ得ルニ非サレハ能ハス而シテ事實ノ眞ハ彼ヨリ來リ是ヨリ出ルヲ論セス眞ナレハ即チ眞ナリ如何ソ彼是ヲ撰フニ違アラシヤ若シ一大罪ヲ犯シタル者アラシニ之ヲ目撃シタル者ハ只一人ニシテ此一人ヲシテ刑餘ノ人タラシメ又ハ大罪被告ノ冤ヲ知ル者只一人ニシテ此一人ヲシテ刑餘ノ人タラシメハ其陳述明瞭爭フ可カラスト雖モ信スルニ足ラスト爲シ爲メニ大罪人ヲシテ刑ヲ免レシメ又ハ不辜ヲ刑スルヤ如何ン予何人ト雖モ之ニ答フルノ辭ナキヲ信シテ疑ハサルナリバンターム氏曰一犯罪人ニ小疵ヲ與フルカ爲メニ劍ヲ以テ一不辜ノ身体ヲ貫ク一箇ノ處罰方法アリ裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權ヲ剝奪スルノ刑是ナリト諸君ヨ以上論スル所ハ皆是レ立法上ノ理論ナリ而シテ我刑法ノ尙

ホ此刑ヲ設ケタル所以ハ他ニ大ニ理由アリテ存スルヤ謹テ疑ヲ揆マサル所ナリト雖モ此刑ノ結果ヲ尋ヌレハ殊ニ奇トス可キ者ナキニ非サルカ如シ刑法第百八十條ニ曰裁判所ヨリ証人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處スト又第二百十八條ニ曰刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス云々又第二百二十條ニ曰被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス云々又第二百二十二條ニ曰偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス云々ト而シテ公權ヲ剝奪セラレタル者ハ裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權ヲ失フカ故ニ事實參考ノ爲メ陳述ヲ爲スコトアルモ証人ニ非ス証人ニ非サルカ故ニ此諸條ノ適

用ヲ免ル然ラハ則チ前ニ罪ヲ犯シタルカ爲メニ新タニ惡事ヲ爲ス
モ其刑ヲ免ル、ニアラスヤ其他治罪法ニ照ラスモ此種ノ疑ヲ容ル
ハ所ナキニアラス是レ其予カ此刑ノ結果ニ於テ奇トス可キ者ナキ
ニ非スト云フ所以ナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權ヲ剝奪スルノ刑
ハ其解釋ニ於テ尤モ謹慎ヲ加ヘ決シテ其範圍ヲ擴張スルコトカム
可ヲサルナリ、又此刑ヲ受ケタル者裁判官ノ不注意カ若クハ他ノ原
因ニ由リ裁判所ニ於テ宣誓ヲ爲シ証人ノ資格ヲ以テ事實ヲ陳述シ
タル時其裁判ハ破毀ス可キ者ナルヤ否ヤノ點ニ至テハ既ニ先例ア
リ佛國大審院千八百十九年十一月十八日千八百二十五年一月二十
二日兩回ノ判決ニ依レハ右ノ點ハ破毀ノ理由タラサルヲ明示セリ
第七後見人ト爲ルノ權○後見人ハ無能力者ヲ監督スル者ナルヲ以

テ善良無瑕ノ人タラサル可ラス刑餘ノ人ハ其教誨幼者ノ爲メニ危
フシ重罪ノ刑ニ處セラレタル人ハ其管理無能力者ノ財産ノ爲メニ
危険ナリ是レ此法ノ因テ起ル所以トス然レモ子孫ノ爲メニシテ且
ツ親屬ノ許可アリタル時後見人タルヲ得ルモノハ若シ之ヲシモ禁
スル時ハ犯者ヲ罰セントシテ其害不幸ノ子孫ニ及フニ至ルカ故ナ
リ親屬ノ許可トハ第百十四條ニ所謂ル親屬現存スル時ハ總テ此等
ノ者ノ許可ヲ要スルヤ曰ク尤モ無能力者ニ近キ親屬一人ノ許可ニ
シテ足ル親屬ナキ時ハ如何ノ曰ク何人ノ許可ヲモ要セスシテ後見
人タルヲ得

第八分散者ノ管財人○是レ亦自ラ治ムル能ハサル者ニシテ信ヲ置
クニ足ラサル者ニハ任シ難クレハナリ本文ニ所謂ル共有財産トハ
其語意甚タ廣シ某ノ講某ノ組合某ノ連中等其名稱ノ如何ニ拘ハラ

ス凡ソ數人財産ヲ有スルモノ、管理人タルコトハ皆之ヲ禁スルモノ
ナリ

第九學校長○此權ヲ剝奪スルノ趣旨略前二項ニ同シキヲ以テ此ニ
贅セス

諸君ヨ以上九種ノ權重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ剝奪シテ
又興ヘス然ルニ剝奪公權ノ刑ハ其性質別ニ有形ノ執行ヲ爲シ得ヘ
キ者ニ非サルヲ以テ之ヲ免ル、ト易キニ似タリ若シ之ヲ免レ私カ
ニ九種ノ權其一ヲ行ヒタル時ハ如何ノ曰刑法第一百五十四條ノアル
アリ公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行
ヒタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下
ノ罰金ヲ附加スト但シ此條ノ適用ニ至テハ困難實ニ云フ可ラサル
者アリ他日詳カニ論スル所アル可シ

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告 ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

本條ハ剝奪公權ハ何等ノ罪ニ附加スルカ又其期限ノ如何ナルカヲ
示スモノナリ即チ第七條ニ記載シタル重罪ノ刑ニ處セラレタル者
ニハ裁判所ノ宣告ヲ用ヒスシテ法律上ヨリ當然之ヲ附加ス此ニ重
罪ノ刑ニ處セラレタル者トアリテ重罪ヲ犯シタル者トイハス是レ
注意ス可キ所ナリ故ニ重罪ヲ犯スト雖モ減等セラレテ輕罪以下ノ
刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ附加スルニ非ラス重罪ヲ犯シテ重罪
ノ刑ニ處セラレタル者ニ限ルナリ

或以爲ラク第三十二條ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者云々トアリト
雖モ死刑ニ處セラレタル者ハ其生命ヲ失フ何ソ公權ノ與奪ヲ論ス
ルヲ要センヤ且ツ終身ノ語ニ依テ觀ル時ハ無期徒刑以下ノ刑ニ附

(第三十二條)

加スルカ如シ故ニ剝奪公權ハ死刑ノ附加刑タラサル可シト、誤ルト云フヘシ剝奪公權ハ同ク死刑ノ附加刑ナリ又附加刑タラサルヲ得サルノ理アリ死刑ニ處スル時ハ其生命ヲ絶ツテ以テ權利ノ有無ハ之ヲ度外視シテ可ナルカ如シト雖モ死刑ノ宣告ヲ受ケ其裁判確定シタル者モ直チニ執行スルモノニ非ス或ハ執行ニ至ルノ日數甚タ長キコアラシ(治罪法第四百六十條參看)然ルニ此間公權ヲ行フコト得ルモノトセハ實ニ奇怪ナラスヤ又其他特赦ニ遇フ者或ハ逃走シテ執行ヲ免ル、者或ハ終ニ期滿免除ヲ得ル者アラシニ此等ノ者ニシテ公權ヲ剝奪セラレサル者トセハ奇怪モ亦甚シト云フ可シ而シテ第三十二條ニ終身ノ語アルハ或ノ説ノ根據ト爲スニ足ラス何トナレハ此語ハ只是レ無期ノ意ヲ示シタルニ過キサレハナリ

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用

ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

停止公權ハ我邦古代ヨリノ刑ニ非ス蓋シ佛國刑法第四十二條ニ輕罪ヲ裁判スル裁判所ハ或ル場合ニ於テハ公權私權親族權ノ全部又ハ幾部ヲ行フコトヲ禁スルヲ得トアルヨリ來リタルモノニシテ此停止公權ヲ設クルノ主旨ハ剝奪公權ト異ナリテ犯人ノ心術正シカラサルニ基クニ非ラスシテ專ラ刑期間犯人ヲ拘束シテ刑ノ勢力ヲシテ嚴ナラシムルニ在リ
禁錮ノ刑ニ處セラレタル者トハ輕罪ヲ犯シテ禁錮ニ處セラレ又ハ重罪犯ノ減等セラレテ禁錮ニ處セラレタル者ヲ總稱ス故ニ所犯ノ輕重ニ拘ハラズ必ス實地禁錮ニ處セラレタル者ハ皆公權ヲ停止セラル、ナリ或ハ曰ハシ禁錮ハ輕重禁錮ノ別ナカル可ク而シ實地之

(第三十三條)

ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告セスシテ當然皆公權ヲ停止ス可キ物
故ニ彼罰金ヲ納完スル能ハスシテ輕禁錮ニ處セラレタル者ノ如キ
モ亦其刑期間ハ公權ヲ停止セラル可キナラント、余思フニ是レ公權
停止ノ限ニ在ラサル可シ何トナレハ第三十三條ニ所謂ル禁錮ニ處
セラレタル者トハ其輕重禁錮ノ別ナキハ勿論ナリト雖モ必ス裁判
ヲ以テ禁錮ニ處シタル者ニ限ル可キナリ第二十七條ニ輕禁錮ニ換
フ云々又更ニ裁判ヲ用ヒス之ヲ命ス云々ノ語ニ注意セハ其別判然
タルヲ知ル可シ又法理上ヨリ考フルモ固ト罰金ニ該ルモノニシテ
之ヲ禁錮ニ換フルハ已ムヲ得サルニ出ツ此已ムヲ得サルノ處分ノ
爲メニ本刑ニ於テ受ク可カラサルノ附加刑ヲ受ク可キノ理アラサ
ルナリ

公權ヲ停止ズルハ官吏タルノ權モ亦之ヲ停止スルカ故ニ現任ノ
官職ヲ失フハ當然ノコトニシテ故ラニ之ヲ特書スルニ及ハサルモノ
、如シ然ルニ之ヲ特書シタルハ停止公權ハ禁錮ノ刑期間ノミノモ
ノナレハ其滿限ノ後ニハ當然舊ニ復ス可シト雖モ官職ニ限り之ヲ
舊ニ復セサルコト示スカ爲メナリ然レモ刑期滿限ノ後更ニ新官ニ
任スルハ固トヨリ妨ナキナリ

爰ニ分明ナラサル一點アリ即チ第三十一條第三項ノ權ハ之ヲ停止
ス可キヤ否ヤノ論題是レナリ刑法草按ニハ此第三項ノ權ハ停止ノ
限ニ在ラストシ又草按ニテモ少ク不明瞭ナルハ勳章ノ事ナリ固ト
ヨリ一時ノ停止ニシテ永ク其權利ヲ剝奪シタルニ非ラサレハ勳章
ヲ沒收スルニ非ラス唯之ヲ佩用スルコトヲ禁スルノミナリ然ルヲ停
止ノ限ニ在ラストスルモハ之ヲ佩用スルハ妨ナキニ似タリ然レモ
刑期限内ノ事ナレハ獄中ニ在テ之ヲ佩用スル如キ事ハ實際決シテ

(第三十三條)

ナカル可ク且ツ外國ノ勳章ヲ佩用スルコトハ停止中ノ事ナレハ此法
 意ヲ察スルキハ法律ニ於テモ亦之ヲ佩用スルヲ許サ、ルハ推シテ
 而シテ自ラ知ル可キナリ今モ亦勳章ノ事ハ如此ク解ス可キモノ歟
 年金位記賞號恩給ハ今律ニ明文ナシト雖モ蓋シ停止ス可キニ非ラ
 サル可シ年金恩給ハ假令ヒ之ヲ停止スルモ唯其權ヲ行フコトヲ停止
 スルノミナレハ政府ニ於テ之ヲ預リ置キテ刑期滿限ノ後ニハ之ヲ
 渡サ、ルヲ得ス是レ剝奪シタルモノニ非ラサルカ故ナリ然レハ之
 ヲ停止スルモ徒ニ政府ノ手數ヲ増スノミニシテ到底無益ノ處分ナ
 ル可ケレハ寧ロ年々之ヲ下付スルノ勝ルニ如カサルカ如シ位記賞
 號ハ僅ニ書類ノ肩書門戸ノ表札ニ之ヲ記スル等ノ事ナレハ別ニ其
 權ヲ行フトイフ程ノ事ニモ非ラス又其權ハ固トヨリ剝奪セラレタ
 ルニ非ラサレハ後ニハ之ヲ書ス可キモノナリ然レハ此等ニ之ヲ書

スルモ是レ唯其身分ヲ示スノミナレハ亦其權ヲ行フトイフ程
 ノ事ニ非ラス况シヤ華族等ノ稱ハ獨リ犯人ノ一身ニ係ルコトニ非ラ
 スシテ其一家ノ族稱ナレハ門札ニ之ヲ表示スルカ如キハ蓋シ妨ナ
 ガル可キナリ然レハ通常ハ華族帶勳者有位ノ者禁錮以上ノ刑ヲ犯
 シタルキハ司法卿ニ具狀シ奏聞ヲ經テ處分スト雖モ停止中ニ於テ
 ハ之ヲ行フニ及ハサル可シ

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別

ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ行フコトヲ停止
 ス主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ

本條モ停止公權ノ構造ヲ規定シタルモノナリ重罪ノ刑ニ處セラレ
 タル者ハ終身公權ヲ剝奪スルカ故ニ監視ノ期限間ノミナラス終身

公權ヲ行フコトナキヲ以テ其取締充分ナリト雖ヒ輕罪ニハ唯其刑期
間公權ヲ停止スルノミナルニヨリ其取締充分ナラス故ニ本條ニ於
テ監視ノ期限間公權ヲ行フコトヲ停止スルナリ又第二百二十六條及ヒ
第九十二條等ノ場合ニ於テ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタルモ
モ亦其期限間公權ヲ行フコトヲ停止スルナリ

本條ヲ以テ前條ニ參照スルニ前條ニハ現任ノ官職ヲ失フコトヲ特書
シ以テ舊官ニ復セサルノ意ヲ明示セリ然ルニ本條ニハ此語ナシ第
一項ノ場合ニ於テハ皆禁錮ニ處セラル、カ故ニ現任ノ官職ヲ失フ
ハ勿論ナリト雖ヒ第二項ノ場合ニ於テハ既ニ主刑ヲ免スルヲ以テ
禁錮ニ處セラレタル者ニ非ス故ニ又前條ニ從テ現任ノ官職ヲ失フ
コトナシ是ニ由テ主刑ヲ免セラレテ止タ監視ニ付セラレタル者ハ其
監視ノ期限間公權ヲ停止セラルト雖ヒ現任ノ官職ハ之ヲ失フコトナ

ク滿限ノ後ニハ當然舊官ニ復セラル、モノ、如シ然リト雖モ是等
ノ場合ニハ本屬長官ヨリ必ス其官職ヲ免スルナルヘキナリ

(第十五回)

第三十五條 重罪刑ニノ處セラレタル者ハ別ニ宣告

ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルコトヲ

禁ス

本條ハ第十條ニ所謂ル禁治産ノ期限及ヒ其何等ノ刑ノ附加タルヤ
ヲ示シタル者ニシテ自ラ財産ヲ治ムルコトヲ禁ストハ財産ニ關スル
私權ノ施行ヲ停止スルノ謂ナリ則チ契約賣買贈與貸借等總テ財產
處分ニ關スル權利ノ執行ハ一切之ヲ禁シタルモノナリ然シテ其之
ヲ禁シタルモノハ何ソヤナルトラン氏佛國刑法禁治産ニ係ル第二

(第三十五條)

十九條第三十條第三十一條ノ法理ヲ說明シテ曰ク被刑者ヲシテ自
ラ財産ヲ治ムルヲ得セシムル時ハ事既ニ被刑者ノ位置ト矛盾シ
又刑ノ効用ニ害アリ何トナレハ被刑者ハ常ニ獄舎ニ在ル者ニシテ
財産ノ處分ハ必ス外人トノ關係ヲ要シ且ツ財産ノ施用ニ依リ屢々
刑ノ嚴正ノ執行ヲ免レ其甚シキハ賄遺ヲ以テ脱獄ヲ圖ル等ノ恐レ
アレハナリト、我刑法禁治産ノ制モ亦是等ノ趣旨ヨリ出タルニ外ナ
ラサルナリ

禁治産ハ元ト財産ニ關スル私權ヲ剝奪スルニ非ス只タ此私權ヲ施
行スルノ能力ヲ停止スルモノナリ故ニ此刑ヲ受ケタル者ハ財産ニ
關シ所有權債主權ヲ有スルハ勿論權利ノ種類ニ因リ自己ノ外他人
ヲ代理セシムルヲ得サル者ニ係ルキハ尙ホ此權利ノ施行ヲモ
爲シ得ルモノトス、何トナレハ若シ此等ノ施行ヲモ禁スルトセハ其

結果ハ私權ノ剝奪ト同一ニ歸シテ禁治産ノ目的性質及ヒ其刑名ト
背馳スルニ至レハナリ、サレハ婚姻又ハ養子ノ契約ノ如キハ固ヨリ
他人ヲシテ代理セシムルヲ得ルモノニ非サレハ假令其結果ニ於
テ財産ニ關係ヲ及ボスヲアルモ之ヲ妨クルヲ得サルヘキナリ、本來
重罪ノ刑ニ處セラレテ近ク死刑ノ執行ヲ受ルカ又ハ獄舎ニ在ル者
ニシテ婚姻ヲ爲スト言ハ、甚タ奇怪ノ如クナレハ例ヘハ處刑前式
ニ從テ婚姻ヲ爲サスシテ子ヲ擧ゲタル者ノ如キハ此子ヲ正嫡ノ子
ト爲ス爲メニ處刑後ト雖モ其母ト結婚ヲ爲スノ必要アルヘシ、勿論
獄舎ニ在ル者ハ常人ノ如ク禮式ヲ行ヒ得ルニ非ス只タ典獄官ノ許
可ヲ得テ結婚契約ノ届ヲ爲シ得ルノミ又養子ノ契約ノ如キハ一家
ノ斷續ニ關係スルモノナレハ刑餘ノ人ト雖モ之ヲ爲スノ必要アル
ハ言ヲ待タザルナリ、禁治産ヲ受ケタル者遺囑ヲ爲シ得ルヤ否ヤニ

關シテハ最モ疑アリトス、何トナレハ此所爲ハ結婚又ハ養子ノ契約トハ異ニシテ直接ニ財産ヲ處分スルニ係レハナリ、然レハ佛國法律家ノ說ハ概テ結婚ト同ク之ヲ許サ、ルヲ得ストセリ、而シテ其理由ハ遺囑ヲ爲スノ權ハ他人ヲシテ代理施行セシムルヲ得ルモノニ非サレハ之ヲ禁スルヲ得ス又之ヲ許スモ畢竟死後ニ向テノ處分ナルカ故ニ危險トスル所ナシト云フニアリ、蓋シ余ヲ以テ觀ルモ此說ニ從ハサルヲ得ス何トナレハ縱ヒ刑餘ノ人ト雖モ死後ノ爲メニ遺言スルヲ禁スト言フニ至テハ到底理論ノ許サ、ル所ナレハナリ、本條ノ正文ニ自ラ財産ヲ治ムルヲ禁ストアリ故ニ他人ヲシテ之ヲ治メシムルヲ得ルハ勿論又必ス之ヲ治メシメサル可カラス是ニ由リ犯人ノ爲メニ其財産管理人ヲ定メサルヲ得サルナリ、然レハ犯人ハ已ニ私權ヲ停止セラル、カ故ニ自ラ此管理人ヲ立ルヲ得ス又

法律ニモ未タ此管理人ヲ定メス唯明治十四年十二月二十八日第七十三號布告ニテ法律上ノ代人中ニ禁治產者ノ財産管理人アルヲ認メタルノミニシテ之ヲ定ムルノ方法ナシ、サレハ我輩ハ速ニ此方法ヲ定メタル法律ヲ發布セラレシヲ希望スルナリ

又本條ニ主刑ノ終ルマテトアリ主刑ノ終ルトハ其刑消滅スルノ謂ニシテ其原由ハ草按第六十八條ニ之ヲ明記シタリキ、而シテ現行法中ニハ之ヲ明記シタル者ナシト雖モ右六十八條ノ第四ヲ除クノ外ハ理ニ於テ當然刑ノ消滅スヘキモノナレハ茲ニ此條ノ全文ヲ舉テ刑ノ消滅スル原由ヲ示スト左ノ如シ

刑法草按第六十八條 主刑及ヒ附加刑ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

- 一 刑ノ執行終リタル時
- 二 本犯死去シタル時但已ニ宣告シタル罰金科料沒収ハ此限ニ

(第三十五條)

在ラス

- 三 數罪俱發一ノ重キニ從フタル時
 - 四 將來ノ新法ヲ以テ刑ヲ廢止シ及ヒ減輕シタル時
 - 五 治罪法ノ規則ニ從ヒ再審ヲ以テ前判ヲ廢シタル時
 - 六 期滿免除ヲ得タル時
 - 七 復權ノ許可ヲ得タル時
 - 八 赦典ヲ以テ刑ヲ減輕シタル時
 - 九 大赦常赦特典ヲ以テ刑ヲ免シタル時
- 若シ以上ノ條件ニ因テ刑ノ消滅セサル前例ハ死刑ノ如キモ其決
行ニ至ル迄ノ間又ハ主刑ノ期滿免除ニ至ル迄ノ間ニ於テ他人ト財
産ニ係ル契約ヲ結フ等ノ事アルモ禁治産ヲ犯シタルモノナレハ
之ヲ取消サル可カラス而シテ此取消ヲ請求スルノ權ハ受刑者其財

産^〇管理^〇人^〇及^〇ヒ^〇受^〇刑^〇者^〇ト^〇結^〇約^〇シ^〇タル^〇者^〇ニ^〇屬^〇ス^〇ヘ^〇シ^〇加^〇之^〇檢^〇察^〇官^〇モ^〇亦^〇之^〇
ヲ^〇取^〇消^〇サ^〇シ^〇ム^〇ル^〇ノ^〇權^〇アル^〇可^〇キ^〇ナ^〇リ^〇受^〇刑^〇者^〇ハ^〇剝^〇奪^〇公^〇權^〇等^〇ノ^〇場^〇合^〇ニ^〇於^〇
テ^〇公^〇權^〇ヲ^〇行^〇フ^〇モ^〇ハ^〇第^〇百^〇五^〇十^〇四^〇條^〇ニ^〇據^〇リ^〇更^〇ニ^〇罰^〇セ^〇ラル^〇可^〇シ^〇ト^〇雖^〇モ^〇禁
治^〇産^〇ノ^〇場^〇合^〇ニ^〇於^〇テ^〇ハ^〇私^〇權^〇ヲ^〇行^〇フ^〇ト^〇雖^〇モ^〇別^〇ニ^〇罰^〇セ^〇ラル^〇、^〇コ^〇ナ^〇シ^〇但^〇シ
茲^〇ニ^〇注^〇目^〇ス^〇可^〇キ^〇所^〇アリ^〇受^〇刑^〇者^〇ハ^〇取^〇消^〇ノ^〇訴^〇權^〇ヲ^〇有^〇ス^〇ト^〇雖^〇モ^〇刑^〇ノ^〇言^〇渡
確^〇定^〇シ^〇タル^〇後^〇ハ^〇已^〇ニ^〇無^〇能^〇力^〇ト^〇爲^〇ル^〇ヲ^〇以^〇テ^〇自^〇身^〇私^〇訴^〇ニ^〇係^〇ル^〇此^〇訴^〇權^〇ヲ
行^〇フ^〇ヲ^〇得^〇サル^〇ナ^〇リ

**第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時ハ行政
ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得**

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ從ヒ五年若クハ三年ヲ經過スルモ其情
狀ニ因リ幽閉ヲ免セラル、コアリ其幽閉ヲ免セラレタルモ其情
生活ヲ圖ラサルヲ得ヌ又家屬ヲモ招クヲ得ルカ故ニ其生計ヲモ營

(第三十六條)

マサルヲ得ス何トナレハ官ヨリ之ニ衣食ヲ給スル能ハサレハナリ
故ニ行政ノ處分ヲ以テ禁治産ノ幾分ヲ解クヲ許スナリ然レモ全
体ニ付キ此禁ヲ解クニ非ス生計ヲ營ムニ必要ナル私權ヲ指定シテ
之ヲ行フヲ許スノミ然ラスノハ終ニ又放恣安逸ニ陥ラシムルニ
至ルヘシ

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告

ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視
ニ付ス

本條ハ有期重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニハ其主刑ノ短期三分ノ一
ニ等シキ時間法律ニ於テ監視ヲ附加スルヲ定ム故ニ例ヘハ有期
徒流刑ニ處セラレタル者アルモハ其短期十二年ノ三分一即チ四年

間ノ監視ニ付セラレタルモノニシテ殊更ニ裁判所ヨリ四年間監視
ニ付スル旨ヲ言渡サス無期徒刑ニハ總テ最初ヨリ監視ニ付スルヲナ
シ但其期滿免除ヲ得タル者ニハ第三十九條ニ於テ直チニ五年間ノ
監視ニ付ス

監視ハ刑ト云ハノヨリハ寧ロ行政上ノ取締處分ト云フ可シ何トナ
レハ其目的犯者ヲ責罰スルニアラスシテ主刑滿期出獄ノ後ニ當リ
之ヲ檢束シ再ヒ罪ヲ犯サ、ラシムルカ爲メ行狀ヲ監察スルモノナ
レハナリ

此監視ノ刑ハ學者并ヒニ實務家ヨリ大ニ排撃ヲ受ル所トス其說ニ
曰ク監視ハ本ト主刑ヲ受ケ終リ社會ニ出テ自活スル者ニ施ス者ナ
レハ之ヲシテ其効ヲ生セシメシメハ犯者ヲ束縛スル爲メニ多少ノ
規則ヲ設ケサル可カラス而シテ此規則タルヤ必ス通行券ヲ有セサ

レハ旅行ヲ爲スコトヲ許サスト云ヒ或ハ其謹慎ヲ表スル爲メニ警察署ニ出ヨト云フカ如キモノナレハ是レ恰モ其監視人タルヲ知ラサル公衆ヲシテ故サラニ之ヲ知ラシムルカ如キモノナリ、本來被刑者ノ屢再犯ニ至ルハ出獄ノ後ニ於テ自活ノ路ヲ得サルニ因ルニアラスヤ然ルニ斯クノ如ク公衆ニ向テ刑餘ノ人タルヲ示スニ於テハ公衆ハ僕婢ニタモ之ヲ使用スルナキニ至リ從テ監視人ヲシテ自然ニ饑渴ニ迫リ止チ得ス再ヒ罪ヲ犯スニ至ラシムルモノナリ、又此規則アル以上ハ之ニ背キタル者ヲ罰セサル可カラズ之カ爲メニ屢犯則者ヲ現出スヘク殊ニ眼ニ一丁字ナキ被刑者ニ向テ之ヲ施スカ故ニ被刑者ハ固ヨリ之ヲ閱讀スル能ハス又之ヲ讀ミ聽スモ忘却シ不知不識此規則ニ背キ乃チ一罪ヲ犯シテ又一罪ヲ重テ再三再四終ニ終身刑ト異ナラサルニ至ルヘシ要スルニ監視ハ再犯ヲ防カント

シテ却テ再犯ニ至ラシムルモノナリト、然レモ此論ハ監視ノ弊ニ就テ監視ノ良否ヲ論シタルモノナリ、勿論此刑ハ其規則嚴ニ過クルモハ右ニ云フカ如キ惡結果ヲ生スヘキ疑ヲ容レスト雖モ若シ寬嚴其度ニ適シタル規則ヲ定ムルニ於テハ最モ善良ノ効ヲ生スルノ刑ナリ、特ニ國事犯ノ如キニ對シテハ必然之ヲ適用セサルヲ得サルモノトス、我刑法附則ノ監視規則ハ實施後日尙ホ淺キヲ以テ其寬嚴宜シキヲ得タルヤ否ヤヲ知ルハ他日ニアルトリ、今茲ニ其大要ヲ略述セ

ン

監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時獄司ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察署ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス何レノ場合ニ於テモ犯人ヲ護

(第三十七條)

送スルキハ監視ノ起算満期ヲ記シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本
ヲ送致ス

犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過クヘキハ獄司又ハ警察官ヨリ
先ツ最近ノ警察署ニ護送シ其署ヨリ住居ノ警察署ニ送致ス此場合
ニ於テ最近ノ警察官ハ里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯
人ヲシテ到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察署ニ差出サシム
住居ノ地ノ警察署ニ於テハ監視ノ期限間犯人ニ其遵守ス可キ條件
ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス而シテ警察官ハ其期限間時宜ニ因リ犯
人ノ家宅ニ臨ミ其行狀ヲ檢ス

犯人ノ遵守ス可キ條件左ノ如シ
一 毎月二度所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視票ヲ
出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病其他已ムヲ得サル事故アリテ

警察署ニ到ル能ハサル時ハ其事由ヲ届出可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許ルサ
ス

三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察署ニ申請シ許
可ヲ受ク可シ

四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許ルサス若シ已ムヲ得サル事
故アル時ハ警察署ニ具申シ許可ヲ受クヘシ

警察署ニ於テ轉住ヲ許可シタルキハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察署ニ
通知シ且ツ監視ノ起算満期ヲ記シタル文書刑名宣告書ノ謄本ヲ送
致ス又他ノ地方ニ旅行スルヲ許シタル時ハ其里程ヲ計リ先方
ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス犯人
先方ノ地ニ到リタルキハ其地ノ警察署ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認

(第三十七條)

印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察署ニ還納ス可シ
又何レノ場合ニ於テモ若シ途中ニ於テ天災疾病等ニ因リ臨時淹滯
シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ証書ヲ受ケ歸着ノ
日旅券ニ添へ差出ス可シ

監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキモ又ハ住居遠クシテ歸着
ノ資力ナキモハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又
ハ使役ニ供ス此場合ニ於テ限内引取人ヲ得又ハ資力ヲ得タルモハ
其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ受ケシム

**第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス
但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルヲ得ス**

輕罪中有意最モ惡ム可ク最モ害アル可キモノニハ監視ヲ附加ス然
レモ重罪ニ附加スル監視ト異ナリテ裁判所ヨリ必ス之ヲ宣告セザ

ル可カラス而シテ之ヲ宣告スルハ亦必ス各本條ニ明文アル時ニ非ラ
サレハ能ハサルナリ重罪ニハ各本條ニ記載セスシテ總則ニ於テ常
ニ附加ス

此條ニ輕罪ノ刑トハ輕罪ヲ犯シテ輕罪ノ刑ニ該ル時ノミナラス重
罪ヲ犯シテ減等セラレテ輕罪ノ刑ニ處セラル、時ヲモイフ即チ第
二百七條ニ於テ官ノ文書ヲ偽造シテ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル
モ六月以上二年以下ノ監視ニ付スルカ如キ是レナリ

**第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者
ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス**

本條ハ死刑無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ニ監視ヲ附加スルヲチイ
フ監視ハ固ヨリ犯人ヲ其赦免ノ後ニ檢束スル爲メノモノナレハ第
六十條ニ於テモ監視ニハ期滿免除ヲ與へサルヲチ定メタルナリ故

(第三十八條)(第三十九條)

ニ本條ニ於テ死刑無期刑ノ期滿免除ノ後ニ監視ニ付スルナリ然レ
モ總テ無期刑ニハ最初ヨリ監視ヲ付スルコトナキカ故ニ不都合ノ結
果ヲ生スルコトアリ即チ有期重罪ノ刑ニハ第三十七條ニ於テ最初ヨ
リ其短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付スルカ故ニ特赦アリト雖
モ復權ナキニ於テハ監視ヲ免カルヲ得サルナリ然レモ無期刑ニハ
最初ヨリ監視ヲ附加セサルヲ以テ特赦アルモハ復權ヲ得サルモ監
視ヲ受クルコトナキナリ不權衡ト云フヘキカ如シ刑法草案第四十七
條ニハ無期刑ノ者常赦特典ヲ以テ免罪ヲ得タルモハ十五年間ノ監
視ニ付ストアリタリキ

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算
ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日
ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判
確定ノ日ヨリ起算ス

監視ノ期限ハ刑期ノ終リタル日ヨリ起算スト而シテ期滿免除モ消
滅ノ一原山ナレハ殊更ニ之ヲ茲ニ掲クルヲ要セザルモノ、如シト
雖モ期滿免除ハ其年限ヲ經過スルモハ直チニ之ヲ得ルモノナレハ
其當日ヨリ監視ヲ行フニ由ナキヲ以テ本條ニ於テ此場合ニハ就捕
ノ日ヨリ監視ニ付スルコトヲ示シタルナリ
第二項ハ前第三十四條ニ於テイヘルカ如ク第百二十六條第百九十
二條等ノ場合ニ於テハ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付スルコトアリ然ル
モハ監視ハ其裁判確定ノ日ヨリ之ヲ起算ス此第二項ノ刑期計算ニ
付キ一論題アリ刑期計算ハ第五十一條ニ在リ第五十一條ニ於テハ
刑ノ執行ハ裁判確定ヨリスト雖モ其刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算

(第四十條)

シ而メ上訴アリタルハ其犯人ニ係ルト檢察官ニ係ルトテ區別シテ刑期ヲ計算ス是レ一般ノ通則ナリ然ルニ本條ニ於テハ主刑ヲ免シテ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ストアルノミニシテ實地ノ執行ト刑期ノ計算トテ區別セスシテ裁判確定ヨリ一體ニ實地執行シ刑期モ常ニ確定ヨリ計算ス可キヤ將タ第五十條第五十一條ノ通則ニ循ヒ區別ヲ爲ス可キヤ今按スルニ止タ監視ニ付シタルノミノキト雖モ上訴セサルニモ限ラサレハ第五十條第五十一條ノ區別ニ循フテ妥當ナリトス然レモ法章ニ就テ論スルキハ監視ハ一種特別ノ規則ヲ設ケタルモノナレハ他ノ刑ニ比シテ論シ難キニ似タリ故ニ上訴ノ有無等ニ拘ハラズ總テ裁判確定ノ日ヨリ監視ヲ執行ス可ク亦其刑期ヲ計算ス可キナリ原稿第五十條ニモ其裁判確定ノ日ヨリ起算ストアルノミニシテ他ノ刑ノ如ク執行ト計算ト

テ區別セサルナリ

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行

政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルヲ得

免監視ハ主刑ニ免幽閉假出獄アリ剝奪公權ニ復權アル等ト同一意ニシテ皆犯人ヲ獎勵シテ善ニ遷リ過テ改メシムル所以ナリ故ニ主刑ノ重罪ニ係リ輕罪ニ係ルヲ論スルヲナク總テ監視ニ付セラレタル者監視規則ヲ遵守シ悔改ノ狀アル時ハ行政ノ處分ヲ以テ即チ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヲ得(附則第三十六條)

然レモ已ニ監視ヲ免スト雖モ其以後ニ至リ不都合ノ所業等アルキハ免監視ヲ取消サル可シ是レ茲ニ假ニトアル所以ナリ且ツ草案第五十二條ニハ免監視ヲ停止スルヲ得ルノ明文アリ亦以テ立法官ノ

(第四十一條)

意旨ヲ知ルヘキナリ然レモ假出獄ト異ナリテ假令ヒ免監視ヲ取消
スモ免監視ノ日數ハ之ヲ刑期ニ算入ス可キナリ何トナレハ假出獄
ニハ第五十六條ニ於テ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコト得スト
イフノ明文アリト雖モ免監視ニハ此明文ナケレハ犯人ノ便利ニ解
釋セサル可カラサルヲ以テナリ

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ

納完セサル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換

ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

附加ノ罰金ハ剝奪公權停止公權監視等ノ如ク宣告ヲ用ヒスシテ當
然附加スルモノニ非ス必ス裁判ヲ以テ罰金ヲ附加スル旨ヲ宣告セ
サル可カラス然ラサレハ各本條ニ於テ罰金ヲ附加ス可キト雖モ

犯人ハ之ヲ附加セラレタルニ非ラサルナリ

(第十六回)

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒

收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者

ハ各其法律規則ニ從フ

- 一 法律ニ於テ禁制シタル物件
- 二 犯罪ノ用ニ供シタル物件
- 三 犯罪ニ因テ得タル物件

沒収トハ犯人ノ所有權ニ屬スル物件ヲ剝奪シテ官庫ニ沒入スルノ
謂ニシテ西洋東洋共ニ古代ヨリ存スル所ノ刑名ナリ往時ハ各國共

(第四十四條) (第四十三條)

ニ一般ノ沒收ナルモノアリ一般ノ沒收トハ犯人ノ家産ヲ總括シテ悉ク之ヲ沒收スルモノヲ云フ我邦ニ於テハ舊幕府ノ時マテ各藩共ニ之ヲ行ヒ特ニ藩士其主ニ罪ヲ得ルキハ皆ナ此沒收ニ懸ラサルハナカリキ又西洋ニ於テハ千七百八十九年ノ頃マテ此法盛ニ行ハレ其弊モ亦甚シク沒收スル所ノ物品ハ君主ノ嬖臣或ハ告發者ニ與ヘタルカ故ニ詐偽讒誣ヲ以テ人ヲ罪ニ陷レ不義ノ富ヲ爲ス者甚タ多キニ至リタリキ抑モ此一般ノ沒收ハ犯者ノ一身ニ止マラスシテ其害不辜ニ及ヒ且ツ人ノ犯罪ニ因テ官ヲ利スルモノナレハ其刑法ノ原則ニ反スルハ固ヨリ辨テ待スシテ明カナリ故ニ人文進歩ノ今日ニアリテハ之ヲ以テ刑法ノ一刑ト爲スヲ得サルハ勿論ナリトス本條規定スル所ノ沒收ハ右一般ノ沒收トハ大ニ其性質ヲ異ニシテ則チ法律ヲ以テ豫メ沒收ス可キノ物件ヲ特定シテ沒收スルモノナリ

リ而シテ其特定ノ物件トハ或ハ法律ニ於テ製造所有ヲ禁シタル物件ニシテ通常人ノ所持ス可カラサルモノ或ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニシテ之ヲ尙ホ所持セシムル時ハ其危險大ナルモノ或ハ犯罪ニ因テ得タル物件ニシテ所持者正當ノ所有權ヲ有セサルモノ、如キ是ナリ、サレハ一般ノ沒收トハ大ニ其旨趣ヲ異ニシ刑ト云ハシヨリ寧ロ取締上ノ處分ト云フテ可ナリ勿論特別法中ニハ屢々巨額ノ價アル物件ヲ沒收スル者アリテ其結果ハ恰モ一般ノ沒收ト異ナルナキニ至ルヲアルヘシト雖モ是トテモ犯罪ノ種類ヲ定メ犯罪ニ關係ナル物件ヲ沒收シ因テ痛苦ヲ感セシメテ再ヒ同種ノ罪ヲ犯サ、ラシメント欲スルモノナレハ彼ノ往時ノ犯罪ノ種類ヲ定メテ且ツ之ニ關係ナキ物件ヲモ一般ニ沒收スルモノトハ日チ同フシテ語ル可カラサルナリ

(第四十三條)

是ニ由テ之ヲ觀レハ本條ノ沒収ハ彼ノ佛國刑法ニ所謂ル特別沒収ト同種ニシテ其性質ハ寔トニ明瞭ナリ又之ヲ設ケタルノ旨趣ニ至テモ寔トニ至當ニシテ毫毛論難不可キノ點ナシトス然レトモ如何ナル物ヲ指シテ禁制シタル物件ト云フヤ又如何ナル場合ニ於テ之ヲ沒収不可キヤト云フカ如キノ問題ニ至テハ本條ハ佛國刑法ト同ク頗ル疑義ヲ生セシムルノ法條ナリトス故ニ我輩ハ第一項ヨリ退次分析シテ之カ解ヲ與ヘント欲スルナリ

第一 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒収ス○附加刑ニハ宣告スル者ト宣告セサル者トアリテ重罪ノ刑ニ附加スル監視ノ如キハ常ニ附加スルモノナレハ別ニ宣告ヲ要セトス雖モ沒収ノ如キハ其物件ノ或ハ存シ或ハ存セサルアレハ之ヲ科スルニ於テハ必ス其物件ヲ指定シテ宣告セサル可カラズ故ニ曰宣告シテ官ニ沒収スト然

ルニ如何ナル場合ニ於テ之ヲ宣告スルヲ得ルヤ各本條ニ明文ナキ時ハ之ヲ宣告スルヲ得サルヤ如何ノ茲ニ他ノ附加刑ト比較スルハ沒収ニ關シテモ亦各本條ノ明文ヲ要スルカ如シ例ヘハ輕罪ノ刑ニ附加シテ監視又ハ罰金ヲ宣告セントセハ監視ハ何月罰金ハ若干ト明文アル時ニ限レルナリ此理ヨリ推及スルハ沒収モ亦彼ノ賭博又ハ彈藥銃砲製造ノ各條ニ於ケルカ如ク本法第二編以下各條ニ明文ナキハ之ヲ宣告スルヲ得サル筈ナリ佛國ニ於テハ其刑法ニ犯罪ノ体ヲ沒収ストアルヨリ此點ニ關シ裁判上大ニ議論ヲ來シタリシカ途ニ各本條ニ明文ナキハ沒収ノ宣告ヲ爲スヲ得サルニ決シタリ然レモ我立法ノ精神ヲ推考スルニ蓋シ本條ハ各條ニ沒収ノ明文ナキ時ト雖モ適用スルノ意ナルカ如シ其理由ハ各本條ニ沒収ノ明文ヲ掲ケタル者極メテ少ナキヲ見テモ之ヲ知ルニ足ル又現

今各裁判所ニ於テハ明文ナキ場合モ皆ナ本條ヲ適用スルナリ
 第二 但法律規則ニ於テ別ニ沒収ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ○各其法律規則ニ從フトノ正文ヨリ推スキハ皆ナ其法律規則ニ從テ處分シ少シモ本條ヲ適用セスト云フカ如クナレハ決シテ然ラス、本條ハ一般ニ沒収ヲ支配スル所ノ總則ナレハ假令ヒ各法律ニ沒収ノ特例アレハトテ此總則ノ支配ヲ脱スルノ理ナシ故ニ法律規則ニ從フトハ其特例アル部分ハ特例ヲ以テ處分シ特例ナキ部分ハ本條ヲ以テ處分スルノ意ニシテ即チ二者并ヒ行ハレテ相抵觸セサルノ義ナリ此解ハ我刑法佛文草案ニ法律ハ別條規ニテ命シタル他ハ特別ハ沒収ノ妨トナルヲナカル可シトアリタルニ照セハ愈明カナリトス又法律規則トハ此刑法以外ノ者ノミチ指シタルニ非ス則チ一般ニ法律規則ト云ヒタルモノナレハ此刑法第二編以下ヲ

モ合蓄スルモノトス故ニ第二百六十一條賭博ニ關スル沒収又ハ第百六十一條銃砲彈藥製造ノ器械ニ關スル沒収ノ如キハ其法條ト本條トヲ以テ支配スヘキナリ

第三 法律ニ於テ禁制シタル物件○按スルニ此禁制物ニハ先ツ二種ノ別アル可キナリ第一禁制ノ明文ノアル者例ハ銃砲彈藥毒藥等ノ類第二禁制ノ明文ナシト雖モ製造販賣スル等ノモノハ之ヲ刑スルカ故ニ自ラ禁制物タル者例ハ猥褻ノ圖畫偽印偽書ノ類是レナリ而シテ明暗ヲ問ハス此禁制物ニハ亦自ラ他ノ區別アリ則チ製造所有販賣共ニ禁制ノ物アリ銃砲毒藥等ノ如キ是レナリ此物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス悉ク沒収スト雖モ然レハ之ニ亦自ラ限界アリ毒藥ハ常人ニハ禁制物ナリト雖モ醫師藥商ニハ禁制物タルニ非ス故ニ其所有者醫師藥商タルモハ沒収スルヲ得サルナリ例ハ藥商ノ雇

(第四十三條)

三百十七

人其主人ノ毒藥ヲ竊取セシキノ如キ是レナリ其毒藥ハ之ヲ藥商タル所有者ニ還付セサル可カラス

又公然陳列販賣スルヲ禁制シテ製造所有ハ禁制セサル物件アリ猥褻ノ圖畫ノ如キ是レナリ故ニ猥褻ノ冊子圖畫ヲ公然陳列販賣シタルキハ其陳列者販賣者ノ冊子圖畫ハ禁制物トシテ之ヲ沒收スト雖ヒ他ノ之ヲ所有スル者ノ冊子圖畫ハ沒收スルヲ得ス何トナレハ其所有者ニ付テハ禁制物ニ非ラサレハナリ是レ其製造者ニ付テモ亦同様ナリ例ヘハ一畫家アリ其家ニ在テ猥褻ノ圖畫ヲ作ラシ其圖畫ハ之ヲ公然陳列シ又ハ公然販賣セサル限リハ之ヲ刑スルヲ得ス故ニ亦之ヲ沒收スルヲ得サルナリ

第四 犯罪ノ用ニ供シタル物件○犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ之ヲ汎ク解セハ際限ナキニ至リテ恰モ一般ノ沒收ト同一ノ結果ヲ生スヘク又之ヲ狹ク解スルモ其區域明瞭ナラサレハ同ク一般ノ沒收ノ結果ヲ生スヘシサレハ之カ解釋ハ尤モ注意ヲ怠ルヘカラサルナリ、請フ茲ニ此際限ト區域トヲ明カニスル爲メ數例ヲ擧ケテ問答ヲ試ミン、茲ニ家屋内ニ於テ賭博ヲ爲シタル者アルキハ此家屋モ犯罪ノ用ニ供シタルモノナレハ之ヲ沒收スヘキヤ如何ノ、又自己ノ家屋ニ火ヲ放チ僅カニ一部分ヲ燒キタル者アルキ此家屋ヲ沒收スヘキヤ如何ノ、又車馬通行禁止ノ場所ニ馬車ヲ乘入レタル者アルキ此馬車ヲ沒收スヘキヤ如何ノ、皆ナ是等ノ場合ニ於テハ犯罪ノ用ニ供シタル物件トシテ沒收スルヲ得ルカ如クナレヒ未タ裁判所ニ於テ是等ノ物件ヲ沒收シタルノ例ヲ聞カス又我輩モ其沒收ス可カラサルヲ感ズルナリ而シテ其然ル所以ノモノハ何ソヤ皆ナ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ非サレハナリ先ツ第一ニ家屋ニ於テ賭博ヲ爲シタ

(第四十三條)

ル此家屋ハ其犯人ヲ集マラシムルノ用ニ供シタルモノニシテ賭博ノ用ニ供シタルニ非ス、又第二ノ放火シタル家屋ト第三例ノ馬車トハ犯罪ノ本體ヲ構成スル一元素ニシテ犯罪ノ用ニ供シタル物ニ非ス是レ其之ヲ沒收セサル所以ナリ、故ニ犯罪ノ用ニ供シタル物件ト言ヒ得ルニハ第一ニ罪ヲ犯ス爲メ直接ニ使用シタル物ナルヲ要シ第二ニハ犯罪ノ體以外ノ物ナルヲ要ス

斯ク論シ來レハ先ツ罪體トハ如何ナルモノナルカヲ辨明スルノ必要ヲ生シタリ、故ニ茲ニ此點ニ付テ數言ヲ費サン、凡ソ物アレハ必ス其體アリ既ニ體ト云フハ必ス數個ノ元素ヨリ成リタルモノナルヲ知ル、罪モ亦數個ノ條件相集テ成ルモノナリ故ニ罪アレハ必ス其體アリ體ナケレハ罪モ亦自ラアルヲナシ是ヲ以テ罪既ニ發シテ外ニ顯ハレタルハ必ス有形ノ元素アルヘク又必ス其有形ノ體アル可キナリ、故ニ罪體トハ罪ヲ構成スル諸元素ノ集合セル者ヲ云フ

罪ノ由テ成ル所ノ形體ナリ、例ヘハ竊盜罪ハ三元素ヨリ成立ス第一竊取スルノ意アルヲ第二他人ノ所有物タルヲ第三竊取スルヲ是レナリ又故殺ノ罪ハ二個ノ元素ヨリ成立ス第一殺意アルヲ第二人ヲ死ニ致スヲ是レナリ此意ト事ト相接テ故殺罪ヲ構成ス之ヲ人身ニ比スルニ人身ノ構造ハ有形物ノ外一元素即チ精神ヲ備フルヲ要ス若シ精神ナキハ一個ノ物件ニシテ人ニ非ス罪モ亦有形ノ元素ノ外尙無形ノ精神ヲ要ス即チ盜罪ハ盜ムノ意故殺罪ハ殺スノ意是ナリ、若シ此意思ヲ缺クハ體ハ存スルモ罪ニアラサルナリ、故ニ罪ハ數個ノ條件相集テ成ル而シテ其成レル者之ヲ罪體ト云フナリ、然レ此罪體ト犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ殆ント相類似スル所アルヲ以テ大ニ混シ易キ所トス、而テ此罪體ヲ識別センニハ各本條ニ就キ律

(第四十三條)

文ヲ熟考シ如何ナル事件ヲ以テ罪ノ成立スルヤ之ヲ認知スルニアリ
備テ此罪体ハ法律ニ於テ之ヲ沒收スルコトナク又之ヲ構成スル所ノ
一元素タル物件ヲモ沒收スルコトナシ何トナレハ此罪体ヲ生スル爲
メニ用ヒタル物件コソ犯者ノ手ニ在リテ實ニ危險ナレトモ罪体其物
ニ至テハ毫モ危險ナルコトナケレハナリ然レモ罪体ヲ成ス所ノ物件
ニシテ自ラ法律ニ於テ禁制シタル物ナルモハ此點ヨリシテ沒收ス
可キハ勿論ナリトス請フ罪体ト犯罪ノ用ニ供シタル物件トヲ識別
スル爲メ尙ホ數例ヲ舉ケ之ヲ比照セン

爰ニ偽鑰ヲ用ヒテ倉庫ヲ開キ物件ヲ盜取セシモ其偽鑰ハ沒收ス是
レ罪体ヲ生スル爲メニ用ヒタルモノナレハナリ又捕魚禁制ノ池沼
ニ於テ網又ハ釣具ヲ用ヒテ魚ヲ捕ヘタルモ其罪体ハ捕魚スル事ト
其意志ニシテ網或ハ釣具ハ其体ヲ生スル爲メニ用ヒタルモノ故之

ヲ沒收ス又少シク此例ヲ變シ打網ヲ禁シタル場所ニ於テ網ヲ打チ
魚ヲ捕ヘタルモ犯罪ノ体ハ即チ網ナリ故ニ之ヲ沒收スルヲ得ス又
此池沼ニ舟ヲ浮ヘ網ヲ打チタルモ網ハ罪体ニシテ舟ハ犯罪ニ用ヒ
タルモノ即チ罪体ヲ生スル爲メノ物件ナルヲ以テ之ヲ沒收ス然ラ
ハ此理ヲ擴張シテ之ヲ云ヘハ大海ニ網スルコトヲ禁シタルニ漁船ヲ
以テ之ニ網セハ漁船ハ沒收セサルヲ得ス是レ犯罪ノ体ヲ生スル爲
メニ用ヒタルハナリ先ニ掲ケタル車馬通行禁止ノ場所ヘ馬車ヲ乘
入レタル如キ馬車ハ即チ犯罪ノ体ニシテ此馬車ヲキレハ此犯罪ヲ
シ故ニ馬車ハ沒收セサルナリ然レモ若シ繩或ハ棒ヲ以テ牽入レタ
ルモ其繩或ハ棒ハ犯罪ノ体ヲ生セシムルニ用ヒタルヲ以テ之ヲ沒
收セサル可カラサルナリ

第五 犯罪ニ因テ得タル物件○例ヘハ官吏賄賂ヲ取りタル如キハ

(第四十二條)

即チ犯罪ニ因リ得タル物件ナリ故ニ之ヲ沒収ス原稿ニハ罪ニ因テ直接ニ掌握シ又ハ獲得シタル物件トアリ本條ハ直接ノ語ナシト雖他犯罪ニ因リ直チニ得タル物件ノミヲ沒收シテ間接ニ得タル物件ハ沒收スヘキニ非ス例ヘハ盜罪ヲ犯シ竊取シタル物件ハ之ヲ沒收スレ他之ヲ他ニ貸シ之ニ因テ得タル貸銀ハ沒收スヘキモノニ非ス是レ間接ニ得タル物件ナレハナリ

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所

有テ間ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得ス

本條モ亦大ニ説明ヲ要スルノ條ナリ先ツ第一ニ禁制物ハ何人ノ所

有テ間ハス之ヲ沒収スト是レ果シテ何人ニ對シテ沒収ヲ宣告スルノ意ナルヤ例ヘハ甲者ノ罪ヲ犯シタルヨリ乙者ノ所有ニ係ル禁制物現ハレ來リタリ此場合ニ於テ甲者ニ對シテ沒収ヲ宣告スル義ナルヤ若シ果シテ然ラハ乙者ハ罪モナク又刑ノ宣告ヲモ受ケスシテ其所有權ヲ剝奪セラル、ナリ或ハ又禁制物ノ所有者タル乙者ニ對シテ沒收スル義ナルヤ若シ果シテ然ラハ乙者物件ノ所有者タルカ故ニ沒收セラレタル者ニシテ律文ニ何人ノ所有ヲ間ハスト云フノ必要ヲ見サルナリ此ニ於テ或ル論者曰ク本來乙者ノ所有物ヲ沒收スルニ當テ乙者ニ此旨ヲ宣告セスシテ沒收スルノ謂レナシ若シ宣告セスシテ沒收スルヲ得ルトセハ是レ罪ナキニ刑ヲ加フルヲ得ルト云フト一般ナリ豈此ノ如キ理アラシヤ故ニ何人ノ所有ヲ間ハスノ九字ハ衍文ナリ何トナレハ斯カル場合ニ於テモ何人ノ所有

(第四十四條)

ハ問ハスト云フノ必要アリトセハ竊盜罪ニ於テモ何人ヲ問ハス竊盜シタル者ハ之ヲ罰スト明文ニ記載セサルヲ得サルニ至レハナリト然レモ個ハ皆ナ大ニ本條ノ主旨ヲ誤リテ疑問ヲ發シ且ツ之カ答ヲ爲シタルモノナリ

本條ニ於テ何人ノ所有ヲ問ハストシタルノ意ハ即チ禁制物ヲ所有シタルモノ、有罪無罪ニ拘ハラズ沒收スト云フニアリ元來此沒收ナルモノハ他ニ主刑アリテ而シテ沒收アルハ一般ノ元則ナリ其之ヲ沒收スルハ必ス宣告ヲ要ス然レモ爰ニ云フ所ノ沒收ハ例外ナリ何トナレハ其物件犯人ノ所有ニアラサルモ雖モ其所有者ヲ裁判所ニ呼出サスシテ直ニ之ヲ沒收スルカ故ニ斯クハ書シタルモノナリ

我國ノ慣例ハ知ラサレモ佛國刑法ニ因テ之ヲ見レハ其物件他人ノ製造ニ係リタルモノニシテ所有者ノ之レカ禁制タルコト知ラサルモ直ニ之ヲ沒收ス我刑法ニ於テモ其物件所有者ノ犯人タルト否トヲ問ハス之ヲ沒收セサレハ立法者ノ精神ヲ貫徹スル能ハス故ニ本條ノ何人ノ所有ヲ問ハストハ有罪無罪ナルト裁判所ニ召喚シテ宣告ヲ與フルト否トヲ問ハス其物件ヲ沒收スト云フニアルナリ斯クノ如ク犯人ニ非サル者ノ所有ニ係ル時モ沒收スル時ハ之ヲ以テ一ノ刑ナリトスルヲ得サルカ如シト雖モ其物件ノ所持者ニ對シテ之ヲ宣告スル以上ハ一ノ刑ナリト云フ可キナリ

然レモ禁制ノ物件ナリトテ何人ノ所有シ占有スルヲ問ハス一体ニ沒收スルノ主意ニハ非ス諸君須ク注意ス可シ禁制ノ物件ニ製造所有販賣共ニ皆之ヲ禁制シタルモノアリ又販賣陳列ヲ禁制シタルノミニシテ製造所有ハ之ヲ禁制セサルモノアリ又製造所有販賣共ニ

(第四十四條)

皆禁制シタル物件ナリト雖モ其人ニ由リテハ成規ニ循ヒ手續ヲ盡クスニ於テハ之ヲ製造シ之ヲ所有シ又之ヲ販賣スルヲ得ヘキナリ故ニ猥褻ノ圖畫ノ如キハ之ヲ製造スルヲ得又所有スルヲ得ルカ故ニ其所有者ノ圖畫ヲ竊取シテ之ヲ公然陳列販賣スル者アラソニ此販賣者ハ刑法ニ於テ之ヲ罪スト雖モ其尙ホ占有セル圖畫ハ所有者ニ還付セサル可カラス又其買取者ノ占有スル圖畫モ之ヲ沒收スルヲ得サルナリ是レ其所有ハ法律ノ禁制スル所ニ非ラサレハナリ故ニ又遺失物ヲ拾得テ申告セサル場合ノ如キニ於テモ例ヘハ拾得タル懷中物ノ中ニ猥褻ノ寫眞圖畫等アラソニ又之ヲ其遺失者ニ還付セサルヘカラサルナリ

又一體ニ禁制物ナリト雖モ人ニ關係シテ禁制物タラサルモノアリ銃砲彈藥毒藥ノ如キモノニテモ陸海軍ハ固トヨリ免許製造販賣人其他醫師藥商等ニハ禁制物タルニ非ス故ニ是等ノ者ノ銃砲毒藥ヲ竊取シタル犯人アラソニ此物件ハ之ヲ沒收スルヲ得ス其所有者ニ還付セサル可カラス又之ヲ製造販賣スル犯人アリテ此犯人ヨリ陸海軍其免許商等ノ買取シタルモ其買取者ノ所有ニ歸シタル物件ハ沒收スルヲ得サルナリ故ニ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ストイフト雖モ其所有ス可カラサル人ノ所有セルモ外ハ沒收スルヲ得サルナリ又犯罪ノ用ニ供シ犯罪ニ因テ得タル物件モ犯人巳ニ之ヲ他人ニ讓渡シタルモハ沒收スルヲ得ス何トナレハ犯人ノ所有ニ係ラスシテ他人ノ所有ニ係レハナリ又沒收ノ言渡前ニ犯人ノ死去シタルモ同様ナリ總テ此等ノ場合ニハ刑ハ其身ニ止マルノ原則ニ循フヘ

シ但シ沒收ノ言渡後ニ死去シタルハ之ヲ追徵沒收ス是レ罰金ト異ナリ

(第十七回)

第四節 徵償處分

徵償處分トハ裁判費用ノ徵收贓物ノ還給損害ノ賠償等ニ關スル方法規則ヲ謂フモノニシテ即チ犯罪ヨリ出テタル結果ヲ補フ所ノ方法ナリ凡ソ犯罪アルハ必ス被害者アリ又隨テ其被害者受クル處ノ損害ヲ償ハシムル請求ヲ爲スハ當然ナリ而シテ被害者其損害ヲ請求スル所ノ訴訟ヲ爲ス其入費ノ如キハ是レ皆犯罪ヨリ生スル所ノ結果ナリ故ニ犯人ヨリ之ヲ徵收ス然リト雖モ本節ハ刑ノ性質ヲ有スルモノニ非スシテ民事上ニ關スルモノナレハ諸君之ヲ服膺シ

テ忘ル、勿レ左レハ此徵償處分ノ一事ヲ以テ刑法ニ編入シタルハ妥當ナラサルカ如シ他ニ之ヲ規定セハ却テ其宜キヲ得ンカ而ルニ茲ニ之ヲ編入セシハ沒收ノ條目ヨリ推及シ來リタルモノニシテ蓋シ便宜ノ爲メニシタルナラン

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

刑事裁判費用ハ古來ヨリ其犯罪ノ性質如何ヲ問ハス之ヲ犯人ニ徵收スルコトナク我國ニ於テモ更ニ此事アルヲ聞カサリキ然ルニ西洋ニ於テハ十八世紀ノ末ヨリ之ヲ徵收スルニ至レリ而シテ我刑法モ亦之ニ倣ヘリ

學者之ヲ論シテ曰裁判費用ノ如キハ犯人ヲシテ負擔セシム可ラス何トナレハ國ニ政府アリ政府ハ常ニ人民ヲ保護スルノ責任ヲ有ス

(第四十五條)

然レハ則チ國ヲ害スルノ犯罪人アルニ當リ之ヲ捕ヘテ相當ノ處置ヲ爲スハ國家ノ責任ナリ左レハ國家其責任ヲ盡シタルノ費用ヲ以テ豈ニ犯人ヨリ之ヲ徵收スルノ理アラシヤ故ニ其裁判ニ關シ要スル費用ハ國家自ラ之ヲ支辨シテ可ナリト此說誤レリ政府ハ素ヨリ論者ノ云フ如ク常ニ人民ヲ保護スルノ責任アリ左レハコソ政府ハ裁判所ヲ構成シ判事檢察官ヲ置キ其他莫大ノ貨幣ヲ費シ毫モ顧ル所ナキニ非スヤ是レ既ニ政府自ラノ責任ヲ盡シタリト云フ可シ然ルニ其責任ヲ盡シタル後犯人アリテ之レカ爲メ證明鑑定ニ關スル費用ヲ生セシム抑此費用タルヤ社會ノ爲メ出テタリトスルカ將タ犯人ノ爲メ出テタリトスルヤ犯人ノ爲メ出テタルト明カナリ若シ此犯人ニシテ爲スヘカラサルト爲サ、リセハ何ソ此費用ヲ要センヤ然レハ則此費用ヲ犯人ニ出サシムルハ當然ト云フヘシ

論者又曰ク犯罪人ニハ已ニ其刑罰ノアルアリ然ルニ猶時ノ景況ニ從テ常ニ變更ヲ生スル裁判費用ヲ負擔セシメハ是レ其罪刑ノ權衡相合ハサルニ至ルナリト是レ又誤レルノ甚シキモノト云フヘシ前既ニ述フルカ如ク此徵收處分ノ如キハ刑ノ性質ヲ有スルモノニアラスシテ民事上ヨリ來ルモノナレハ何ソ刑ヲシテ其權衡ヲ破ラシムルトアラシヤ故ニ犯人ノ其費用ヲ償フハ當然ノ事ナリ
論者又曰ク犯人ニ係ル費用ハ政府悉ク之ヲ擔當シテ可ナリ何トナレハ茲ニ罪ヲ犯ス者アラシニ犯人其者ヨリ裁判ヲ願フニアラスシテ社會自ラ公訴ヲ起シテ裁判スルモノナリ然ラハ其費用タル犯人ノ所業ヨリ出テタル結果ニアラスシテ社會自ラ爲ス所ノ公訴ヨリ生シタル結果ナリ故ニ犯人ニ負擔セシムルハ不當ナリト此說ノ探ルニ足ラサルハ左ノ一例ヲ以テ之ヲ証セン爰ニ甲者アリ乙者ヨリ

金若干圓ヲ借り期限ニ至テ之ヲ返辨セス乙者止ムヲ得ス之ヲ法衙ニ訴ヘ定規ノ費用ヲ要セリ甲曰ク此費用ハ余カ所爲ヨリ出テタルニアラスシテ乙ノ自ラ好テ爲ス所ナリ故ニ余ハ之ヲ負擔スルノ理ナシト云ハ、其不當ナルヲ論テ俟タスシテ知ルヘキナリ

裁判費用ヲ犯人ヨリ徴收スルノ當然ナルハ以上ノ陳述ニ因テ了解セラレタルヘシ然レモ此費用タルヤ亦公訴ニ係ル事件ノ直接ニシテ且必要ナル結果即チ此事件ヲ証明スルニ避クヘカラサルノ費用タルヲ要ス故ニ例ヘハ裁判所其職權ヲ以テ無益ノ証人ヲ召喚シタル其費用ノ如キ又不用ノ鑑定ヲ命シタル其費用ノ如キ或ハ破棄セラレタル裁判費用ノ如キハ皆是レ官ノ負擔ニ係ルモノトス

裁判費用トハ何ソヤ又其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ムトハ何ソヤ刑法附則第四十八條ニ曰ク豫審公判ニ付キ呼出シタル証人

醫師鑑定人通辨人翻譯人ニ給與スヘキ日常旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲スト是レナリ

檢察官ノ請求ニ依テ証人ヲ呼出シ非常ノ費用ヲ要シタルモ檢察官ヲシテ其費用ヲ負擔セシムルモノトセンカ檢察官ハ一事件ヲ起訴シ一証人ヲ召喚スル毎ニ危懼ノ念ヲ懷キ之レカ爲メ己レノ職權ヲ行フニ躊躇シ遂ニ有罪者ヲシテ法網ヲ免レシムルカ如キ弊害ヲ醸出スルニ至ラン故ニ檢察官ノ職務ヲ正當ニ盡シタルヨリ生スル費用ハ官之ヲ支辨ス

若シ抗拒スヘカラサルノ強制ニ遇フタルノ所犯ナルモ知覺精神喪失中ノ所爲ニ係ルモ或ハ正當防衛ニテ無罪トナルモ尙裁判費用ヲ科スルヤ如此時ハ其費用ヲ科スル能ハス何トナレハ成文ニ犯人

ニ科ストアレハ無罪ノ宣告ヲ受ケタルモノハ犯人ト云フヲ得サレ
ハナリ故ニ其費用ハ負擔セシムルヲ得ス然レモ本刑ヲ免シテ附加
刑ノミヲ科シタルモ即チ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ自首シタルモ貨幣
ヲ偽造變造シ又ハ輸入シ未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ノ
如キハ其費用ヲ科シテ可ナリ何トナレハ自首シタル者假令主刑ヲ
受ケスト雖モ監視ヲ受クル以上ハ犯人タルヲ免レサレハナリ

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラレ、ト

雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ

免カル、ヲ得ス

本條ハ治罪法第八條ト同一意ニ出テ彼ハ原告人ノ權利アルヲ示
シ本條ハ被告人ノ義務アルヲ示シタルモノナリ故ニ自他ノ別ア

ルモ其旨趣ハ異ナルヲナシ爰ニ犯人トアレモ被告人ト改ムルヲ妥
當トス何トナレハ刑ニ處セラル、モ犯人ト云フモ可ナレモ無罪
ノ言渡アリタルモ犯人ト云フヲ得サレハナリ治罪法ニ於テハ之
ヲ被告人トセリ甚タ至當ト云フヘシ
本條ハ人ニ損害ヲ被ラシメタルモハ之カ賠償ヲ爲サ、ルヘカラサ
ルヲ規定シタルモノニシテ則チ民事ノ原則ヲ適用シタルニ外ナ
ラス而シテ民事ノ原則ニ依レハ其意ノ善惡ヲ問ハス既ニ人ニ損害
ヲ被ラシメタル以上ハ之カ賠償ヲ免レスト云フニ過キサレハ別ニ
辨明ヲ要セサルカ如クナレモ此原則ヲ實際ニ適用スルニ至テハ既
ニ已ニ無數ノ難問ヲ生シタリ我輩ハ今茲ニ民法ノ解ニ入ルニ非サ
レモ本條ヲシテ明且ツ瞭ナラシムル爲メニハ民法ニ從テ略解ヲ與
ヘサルヲ得サルナリ

(第四十六條)

凡ソ財産ニ關スル權利ニ二種ノ別アリ一チ物權ト云ヒ一チ人權ト云フ物權トハ物品ニ就テ直ニ有スル所ノ權ニシテ其物品輾轉シテ何人ノ手ニ渉ルモ其占有者ニ係リ之ヲ取戻スヲ得ルノ權ヲ云フ又人權トハ人ニ對シテ有スル所ノ權利ニシテ定メタル義務者ニ係リ其義務ヲ盡シシムル外之ヲ行フヲ得サル者ヲ云フ而シテ贓物ノ還給ハ物權ニ屬シ損害ノ賠償ハ人權ニ屬スルモノトス物權ニ關スル物品ニ付キ一ノ區別アリ特別ニ指定シテ他物ヲ以テ代フヘカラサル物之ヲ確定物ト云ヒ數量尺度價額ヲ以テ定メ他物ト代換スルヲ得ル物之ヲ量定物即チ不確定物ト云フ故ニ其贓物確定物タルモ例ヘハ何模様何色何紋付ノ衣服ノ如キ物品ヲ盜取セラレタルモ被害者ハ其物件輾轉シテ其何レニ在ルヲ問ハス其占有者ニ係リ物上ノ訴權ヲ行ヒ之レカ取戻シヲ爲スコヲ得可キナリ然レ

モ若シ其物件ニシテ消費シタルモハ最早此物權變シテ人權トナリ損害賠償ノ部ニ入ル故ニ贓物ノ還給ハ必ズ其物品ノ存在スルコト其物品ノ確定物タルコトヲ要ス

若シ其贓物不確定物タルモ例ヘハ米穀貨幣ノ如キ同量同質同價ノ物ヲ以テ量定シ他物ト代換スルヲ得ルモノハ概シテ識別ス可ラス又其所在モ不定ナルモノナリ或ニ贓物ノ還給ト云ハスシテ損害ノ賠償ト云フヘキナリ是ヲ以テ假令其盜取セラレタル金圓ニシテ犯人ノ手ニ存スルモ直ニ之ヲ取戻スコヲ得ス何トナレハ不確定物ナレハ他ノ債主ト其有スル所ノ權利ノ割合ニ因テ分割スヘキモノナレハナリ尤モ封金ヲ盜取セラレ猶其儘ニ存スルモハ格別ナリトス其他不確定物ナルモハ都テ贓物ノ還給ト云フ能ハサルナリ是ヲ以テ贓物還給トハ其區域甚タ狭少ニシテ損害ノ賠償ハ其區域廣大ナ

又損害ニハ直接ト間接トアリ例ヘハ千圓ノ價アル物品ヲ盜マル、時余ハ現ニ千圓ノ損害アリ是レ直接ノ損害ナリ然ルニ千圓ノ物ヲ二千圓ニテ他人ニ賣ラントスルニ臨ミテ盜難ニ係リタルモ余ハ二千圓ノ損害アレモ其中千圓ハ直接ニシテ残り千圓ハ間接ノ損害ナリ又病癩療養ノ爲メ湯治ニ赴カント欲シ金員ヲ貯ヘ置キタルニ之ヲ盜マレタルニ因リ湯治スル能ハス爲メニ其病氣重劇トナリ遂ニ一死去シテ其親族之レカ爲メニ損害ヲ受ケタリ是レ間接ノ損害ナリ、民事上ニ於テ間接ノ損害ト雖モ之ヲ償ハサルヘカラサルヤ否ト云フニ余ハ必ス之ヲ償ハサルヘカラサルモノト思惟ス佛國民法ニ依ルモハ惡意ナレハ直接間接ヲ問ハス賠償セシメ善意ナルモハ唯タ直接ノ損害ノミヲ償フモノトセリ然レモ凡ソ人ニ損害ヲ加ヘタル

以上ハ直接間接ノ區別ニ依テ之ヲ償フト否トヲ定ムルヲ要センヤ唯裁判官ノ意ニ依リ其惡意ノ有無ヲ以テ賠償ノ多寡ヲ斟酌増減スルハ格別ナリトス
其他犯罪ノ爲メニ倉庫牆壁等ヲ毀壞セラレタルモハ此損害モ亦賠償セシムルヲ得ヘキナリ

夫レ損害ノ語ヤ以上述フルカ如ク甚タ廣ク直接ノ損害ト間接ノ損害トヲ問ハス加之此損害ノ語中ニハ又失ヒタル利益ト得ヘキ利益トヲ包含ス故ニ此二種ノ利益ハ皆之ヲ賠償セシムルヲ得ヘキナリ然レモ金錢ニ付テハ利息制限法ノアルアリ宜ク之ニ從ハサルヘカラサルヲ以テ制限法外ノ利益ヲ失ヒ又ハ之ヲ得ヘキヲ申立テ之ヲ請求スル能ハス故ニ金錢ヲ盜取セラレタルモハ其盜取セラレタル金額ト制限法ニ定メタル利息トヲ請求スルヲ得ルノミ制限法外

ハ決シテ得ヘキノ利益ナキモノトセサル可ラサルナリ
 猶ホ玆ニ注意スヘキ一事アリ。贓物ニシテ犯人ノ手ニ存在スルハ
 勿論直ニ之ヲ還給セシムルヲ得ヘシト雖モ若シ其贓物輾轉シテ
 他人ノ手ニ涉リタル時ハ如何刑法附則之ニ答テ曰ク贓物輾轉シテ
 他人ノ手ニアル時公商ニ依リ買取リタル物品ハ其公商若クハ被害
 者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直ニ還給セシムルヲ得ス云々
 ト由是觀之被害者ハ常ニ純乎タル物權ヲ有スルニモ拘ハラズ公商
 ノ手ヲ經テ占有スル者ニ對シテハ其原價ヲ償ハサレハ此物品ヲ取
 還スヲ能ハサルモノトス。是レ則チ例外ナリ本來論理上ヨリ云ハ、
 其物件ニシテ正當ノ所有權ヲ有スル者アルハ直チニ之レカ返還
 チ爲スヘキハ當然ニシテ權利者自ラ他人ニ償ヲ爲スノ理アラズヤ
 然ルニ如斯例外法ヲ設ケタル所以ノモノ他ナシ被害者ノ所有權固

ヨリ貴カラサルニ非ス然レモ贓物ト知ラスシテ公商ヨリ買取リタ
 ル者ノ權利モ亦貴ハサル可ラス若シ之ヲ保護スルナクンハ吾人ノ
 財産ハ恰モ浮雲ニ坐スルカ如ク何時何人ヨリ所有權ヲ證シ取還セ
 ラル、ヤモ計リ難ク其危殆實ニ言フヘカラス從テ公衆財産上ノ安
 寧ヲ害シ自ラ商業上ノ隆盛ヲ妨クルニ至ル可シ是レ其例外法ノ制
 定アル所以ナリ然ルニ若シ其買取者公商ニ由ルト雖モ不正品タル
 ヲ知テ買フタル時ハ如何此場合ハ例外法ヲ適用スルノ限ニアラ
 ス人或ハ言ハン單ニ買取者ニ償ハサレハ云々トアルヲ以テ其買取
 者ノ不正品タルヲ知ルト否トヲ區別セス被害者ハ其原價ヲ拂フニ
 非サレハ取還スルヲ得スト抑モ誤レリト云フ可シ元來立法者ノ公
 商公買ヨリ買取シタル者ハ善意ナリトノ推測ヨリ之ヲ保護シタル
 者ナリ然ルニ此推測ニ反シ惡意アルノ証明カナルハ業已ニ立法

者ノ保護スル所ニアラス從テ例外法ヲ適用スルノ限リニアラサル
ナリ故ニ被害者ハ償ヲ爲サスシテ物品ヲ請求スルヲ得可ク買取者
ハ代價ヲ要ムルノ權ナカルヘキナリ

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損

害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

本條ハ其大意前二條ト同一ナリ唯異ナル所ハ數人共犯ノ時其共犯
人ヲシテ裁判費用及ヒ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ連帶セシムルコト是
レナリ

連帶トハ何ソヤ我國ノ法律未タ曾テ此語アルヲ聞カス爰ニ始メテ
之ヲ見ルニ至ル而シテ諸君ハ既ニ法朗西民法ニ於テ了知セラル、
如ク連帶トハ二人相互ニ義務ノ全部ヲ負擔スルモノニシテ例ヘハ
二人ニテ一千圓ノ金ヲ借用スルキ債主ヨリ其中一人ニ係ルモ義務

ノ全部即チ一千圓ヲ請求スルヲ得ルモノニシテ共犯ノキハ各人互
ニ全部ニ付キ裁判費用贓物ノ返還及ヒ損害ノ賠償ヲ爲スヘキノ責
ヲ有ス故ニ連帶ハ義務者互ニ代理ヲ托シ又互ニ代理ヲ爲シ連合團
結シ數人猶一人ノ如キモノナリ其一人ニシテ全体ノ爲メニ其責ニ
任セサルヘカラス故ニ其一人義務ヲ盡スルハ各人皆其義務ヲ免カ
ルヘキナリ而シテ連帶ハ契約上ヨリ成立スルコトヲ得ルモノナレハ
法律上ヨリ無論成立スルモノニシテ本條ハ即チ法律上ヨリ命シタ
ル連帶ナリ

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害

者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルコト
ヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ

(第四十七條)(第四十八條)

直チニ之ヲ被害者ニ還付ス

此條ハ私訴ノ裁判管轄并ニ贓物處分ノ方法ヲ規定シタルモノナリト雖此規則ノミニテハ大筋ニシテ其詳細ヲ知ルヲ得ス治罪法ノ諸條并ニ刑法附則ノ賠償處分ノ諸條トチ比附シテ始メテ其用ヲ爲スヘキ等リ治罪法第四條ニ曰ク私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ之ヲ爲スヲ得ト私訴即チ民事ノ訴ニハ金額ノ多寡ニ從ヒ其管轄ヲ異ニスルハ是レ其通例ナリ故ニ第四十八條ノミニ據ルキハ民事ノ通例ニ循ヒ私訴金額ノ多寡ニ從テ刑事裁判所ノ管轄モ亦之ヲ定ムヘキニ似タリト雖モ治罪法ニ據ルキハ公訴ニ附帶スルキハ金額ノ多寡ニ拘ハラズ刑事裁判所ハ私訴ヲ審判スルヲ得ヘキナリ故ニ百圓以下ハ勿論百圓以上幾萬圓ノ金額ニ至ルノ私訴ト雖モ治安裁判所即チ違警罪裁判所ニ於テ之ヲ

審判スルヲ得但シ明治十四年十二月二十八日第八十號布告ヲ以テ違警罪ハ當分ノ内府縣警察署及ヒ其分署ニ於テ之ヲ裁判セシムルヲニ定メラレタレハ本然ノ違警罪裁判所ニ於テハ之ヲ裁判スルヲナシ故ニ私訴モ違警罪ノ公訴ニ附帶シテ此ニ爲スヲキチ以テ金額ノ多寡ニ拘ハラズ云々ノ規則ハ畢竟今日ニ在テハ水泡ニ屬シタルナリ警察署ハ違警罪ハ上文ノ布告ニ依リ之ヲ管轄スト雖私訴ハ之ヲ管轄スルヲ得ス故ニ違警罪ニ付テハ公訴ニ附帶スルノ私訴ナシ若シ私訴ヲ爲サントスルキハ常ニ民事裁判所ニ民事ノ訴ヲ爲スヘク而シテ此場合ニハ百圓以上以下ノ區別ニ從テ其管轄ヲ定ムヘキナリ

又第四十八條ノミニ據ルキハ犯罪ニ因リ生シタル費用還給賠償ナレハ常ニ刑事裁判所ニテ之ヲ審判スルヲ得ルカ如シト雖公訴

(第四十八條)

ニ附帶シテ私訴ヲ爲シタルキノ外ハ決シテ刑事裁判所ハ之ヲ審判
 スルコトヲ得サルナリ故ニ公訴未タ起コラサルカ又ハ刑事ノ審判已
 ニ終リタルキハ民事裁判所ニ非ラサレハ其請求ヲ爲スコトヲ得ス然
 レモ公訴ニ附帶スル私訴ハ必シモ直接ニ刑事裁判所ニ其申立ヲ爲
 スニ及ハス即チ治罪法第百十條ニ據リ告訴ト共ニ檢察官司法警察
 官又ハ豫審判事ニ其申立ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ又刑事附帶ノ私訴
 ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ其民事裁判
 所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從ハサルヘカラサルナリ且ツ
 民事裁判所ニ於テスルト刑事裁判所ニ於テスルトヲ問ハス私訴裁
 判費用ハ民事ノ規則ニ從ヒ敗訴者之ヲ擔當スヘキナリ
 又贓物犯人ノ手ニ在ルキハ直チニ被害者ニ還附スト雖モ若シ輾轉
 シテ他人ノ手ニ在ルキハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムルモノト

スト雖モ茲ニ又注意スヘキ所アリ即チ第四十八條并ニ附則第五十
 四條ノミニ據ルキハ贓物犯人ノ手ニ在ルキハ贓物ノ性質如何ヲ論
 セス差押ヘタルト否トヲ別タス且ツ被害者ノ請求ナント雖モ裁判
 所ヨリ直チニ被害者ニ還付スルモノニ似タリ然レモ如此クナルニ
 ハ非ラサルヘシ先ツ贓物ニ其確定物タルモノアリ不確定物タルモ
 ノアリ之レカ區別ヲ爲シ其確定物ニ係ルモノハ還付スヘシト雖モ
 其不確定物タルキハ假令ヒ請求アルモ還付スヘキニ非ズ但シ全ク
 還付セサルニハ非スト雖モ其名義ヲ異ニスルナリ即チ不確定物ニ
 ハ物權ナキヲ以テ其所有權取戻ノ訴ハ之ヲ爲ス能ハサルカ故ニ其一
 現在スルキニ之ヲ還付スルハ是レ賠償ノ名義ニ出ルナリ賠償ノ名
 義ニ出ルヲ以テ又他ニ權利者アルキハ被害者ハ通常ノ人權ヲ有ス
 ルモノト同ク其權利ノ價額ニ應シテ分配ヲ得ルニ過キス獨リ先取

(第四十八條)

特權ヲ以テ之ヲ全有スル能ハサルナリ請求アリト雖モ如此ク區別
 シテ之レカ處分ヲ爲サ、ルヘカラス況ンヤ其請求ナキモニ於テチ
 ヤ
 又請求ナクシテ直チニ還付スルハ贓物犯人ノ手ニ在リ而シテ差
 押ヘタルモニ限ルヘシ故ニ他人ノ手ニ在リテ差押ヲ爲シタルモ又
 ハ犯人ノ手ニ在リト雖モ差押ニ係ラサルモハ直チニ還付スヘカラ
 ス此區別モ第四十八條ノミニテハ分明ナラスト雖モ附則第五十四
 條治罪法第三百八條トチ參照スルモハ分明ナルヘキナリ
 已ニ犯人ノ手ニ在リ且ツ差押ヲ爲シタルモハ被害者ノ請求ヲ待タ
 ス直チニ還付スヘシト雖モ尙ホ亦一ノ注意ヲ爲サ、ルヘカラサル
 ナリ私訴ノ權ハ被害者ノ財產ニシテ民法ニ循ヒ被害者ニ屬スルモ
 ノナレハ被害者ハ固トヨリ隨意ニ之ヲ棄權スヘク而シテ之ヲ棄權ス

ルコトアルハ分明ニ治罪法ニモ豫定セル所ナリ且ツ其私訴ヲ起コサ
 、ル場合ニ於テハ被害者チ推測シテ其棄權ヲ爲シタルモノナリト
 スルモ可ナルヘシ實際ニ於テハ私訴ノ起コスヘキチ知ラサル蒙昧
 ノモノアルヘシト雖モ法律上ヨリ論スルモハ法律ヲ知ラサルモ
 ノハアルヘキニ非ス然レハ起訴セサルモノハ即チ棄權シタルモノ
 ナルヘク又眞ニ棄權スルモノモ實ニ多カルヘキナリ然ルチ其請求
 チ待タスシテ還付スルハ却テ是レ棄權シタル者ニ強ヒテ其棄權ヲ
 取消サシメ而シテ其場合ニ由リテハ大ニ之ニ妨害ヲ加フルコトアルニ
 至ルヘシ即チ幾許ノ價額モアラサル物件チ遠隔スル地ノ被害者ニ
 遞送シテ之ニ其遞送費用ヲ拂ハシメ又遠隔セサル地ノ被害者ナリ
 ト雖モ僅ニ一錢ノ價チモ有セサル物件受取ノ爲メ日時ヲ刻シテ裁
 判所ニ召出サル、モハ俗ニ所謂ル盜人ニ追銭ニシテ損害ノ上ニ又

損害ヲ加フルニ至ルヘシ且ツ遠路ヲ遞送シタル場合等ニ於テ被害者乘權シタル旨ヲ述ヘ之ヲ領受セサルニ於テハ強ヒテ之ヲ其遞送費用ヲ拂ハシムルヲ得サルヘシ然ルモハ官モ爲メニ亦損害ヲ蒙フルニ至ラン如斯キノ事情アルカ故ニ贓物犯人ノ手ニ現在シテ之レテ差押ヘタルモト雖モ妄ニ還付スヘキニ非ラス檢察官ハ其事情ヲ審接シ且ツ公益保護ノ職務ヲ以テ遠路ノ被害者等ニハ照會シテ之レカ處分ヲ爲スヘキナリ又贓物ノ還給損害ノ賠償ハ犯人ノ財産ニ係リテ請求スルモノナレハ犯人死去スト雖モ其相續人アルニ於テハ之ニ對シテ之ヲ要求スルヲ得ヘク又犯人若クハ其相續人贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケ而シテ尙ホ之ヲ還給賠償セサルモハ被害者ハ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルヲ得ヘキナリ

(第十八回)

第五節 刑期計算

有期ノ刑ニ付テハ必ス刑期ヲ始ムルノ時ト之ヲ終ル時トヲ定メサル可カラズ然ラサレハ何年何月ト言渡スト雖モ所謂ル何年何月トハ果シテ何レノ時ヨリ何レノ時ニ至ルマテノ時日ヲ指シタルヤチ知ルコト能ハサレハナリ又無期刑ハ被刑者ノ身ト共ニ終ルモノナレハ別ニ刑期ノ計算ヲ要セサルカ如クナレモ先ツ刑ノ執行ヲ始ムルノ時ヲ定ムルハ甚タ緊要ニシテ又假出獄期滿免除ノ爲メニハ最モ起算ノ點ヲ詳カニスルノ必要アリトス

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十

四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年

(第四十九條)

ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

本條ハ有期刑ヲ計算スルノ規則ヲ定ム一日ヲ二十四時ト定メタルヲ以テ何日ノ刑ニ處スト言渡スモノハ二十四時ニ其刑ノ日數ヲ乘シテ以テ刑期ヲ得ヘシ又一月ヲ三十日ト定メタルヲ以テ何月ノ刑ニ處スト言渡スモノハ三十日ニ其刑ノ日數ヲ乘シテ以テ刑期ヲ得ヘシ曆ニ從ヘハ月ニ因テハ二十八日二十九日三十一日ナルコトアリト雖ヒ刑期ヲ算スルニハ之ニ從ハス然レヒ何年ト言渡スモノハ總テ曆ニ從フヲ以テ今年一月一日ニ一年ノ刑ヲ受クレハ明年一月一日ニ放免ト爲ル一年ニハ三百六十五日アリ或ハ三百六十六日アリ

同シ一年ノ犯人ニシテ或ハ一日ノ増減アリト雖ヒ是レ受刑者ノ身ヨリ之ヲ觀レハ僅々タル差異ニシテ法律ヨリ之ヲ觀レハ大ナル簡便アリ故ニ寧ロ此簡便ヲ取リシナリ

受刑ノ初日トハ其字義ニ從ヘハ刑ノ執行ヲ受クルノ初日ヲ指スコトハ當然ナリ然レヒ其真意ハ宣告ノ初日ヲ指シタルモノナルヘシ何トナレハ第五十一條ニ於テ刑名宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スレハ則チ宣告ヲ以テ刑ノ執行ト同視シタルモノナレハナリ草按ニ依テ見レハ刑ノ執行ヲ始メタル日ヲ以テ刑期ヲ起算スルノ日トナセリ而シテ未決拘留間ノ日數ヲ斟酌シテ刑期ニ算入シタリ
放免ノ日ハ刑期ニ算入セス監獄則ニ依レハ放免ハ必ス午前十時ヲ過ク可ラストアリ受刑ノ初日ハ時間ヲ論セスシテ一日ト計算シ放免ノ日ハ十時迄ノ時間ヲ刑期ニ算入セス彼此相算シテ損益ヲ償フ

(第四十九條)

ニ庶カラン又午前十時迄ニ放免スルモノハ以テ其家若クハ親戚等ニ投スルニ路程或ハ遠隔シ暮夜ニ至リ其據ル所ナケレハ重キテ惡事ヲ爲スコアラソトテ慮リ豫メ之ヲ防キタルモノナリ

爰ニ本條第一項ノ一日ト第二項ノ一日トニ付テ一言セサル可カラサルノ點アリ第一項一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テストハ零時ヨリ起リテ零時ニ終ル所ノ二十四時ヲ指シタルモノナルカ將タ單ニ一時間ト稱スルモノ二十四ヲ合セタルモノ、謂ヒカ蓋シ何レノ時ヨリスルヲ論セス時ヲ二十四合セタルモノ、謂ヒナルヘシ何トナレハ法文ニ單ニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テストアレハナリ故ニ第一項ノ一日ハ例ヘハ本日ノ七時ニ起リテ明日ノ七時ニ終ルモノ是ナリ然ルニ第二項ノ受刑ノ初日ト言ヒ一日ニ算入スト言フハ右ノ例ヲ推シテ論スルコト得ス則チ此日ト稱スルハ皆ナ零時ヨリ

起リテ零時ニ終ルノ日ヲ指シタルモノナリ何トナレハ若シ前項ノ例ニ依リテ何レノ時ヨリスルヲ論セス日ハ必ス二十四時ヲ合セタルモノトセハ例ヘハ初日ハ本日ノ七時ヨリ明日ノ七時マテ次日ハ其七時ヨリ其次日ノ七時マテト推シテ算スルヲ以テ受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入ストハ遂ニ文意ヲ成サ、ルニ至レハナリ、故ニ一箇條ノ中ニ就テ一項ト二項トノ日ト稱スルモノ其指ス所異ナリト云フハ不都合ノ様ナレモ第一項ノ日ハ二十四時ヲ合セタルモノヲ云ヒ第二項ノ日ハ零時ニ起リテ零時ニ終ルモノヲ指シタルモノナリト云ハサルヲ得サルナリ

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

此條ハ治罪法第四百五十九條ト全ク同一意ニシテ重罪輕罪違警罪(第五十條)

ヲ論ゼス凡ソ刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ許サストス尙ホ治罪法第三百九條ニ其意ヲ解セリ曰ク本案ノ裁判言渡ニ對スル上訴ノ期限内又上訴アリタルキハ其判決アルマテ裁判執行ヲ停止スト所謂ル裁判確定シタル後トハ其裁判言渡ニ對スル上訴ノ期限ヲ經過シ又上訴アリタルキハ其判決アリタル後ヲイフナリ如此ク裁判確定セサル間ハ刑ノ執行即チ裁判執行ヲ停止スルハ既ニ治罪法ニ於テ上訴ヲ許ルシタル以上ハ訴訟關係人ハ上訴スルノ權ヲ有スルカ故ニ此期限ハ此權ヲ行フモ知ルヘカラス又若シ關係人之ヲ行ヒ其上訴正當ナルニ於テハ最初ノ裁判ハ無効ニ屬スヘシ然ルヲ若シ執行ヲ停止セスシテ之ヲ決行スルキハ上訴ヲ許ルスト雖モ上訴ヲ許ルカ、ルト其結果殆ント一般ナルヘキヲ以テナリ

總テ刑ハ上訴期限ノ終リタル時又上訴アリタルキハ其上訴ノ判決アリタル時ヨリ之ヲ執行ス是レ一般ノ原則ナリ故ニ犯人ヲ刑場ニ移シ公權ヲ剝奪停止シ治産ノ禁ヲ受ケシメ沒收ノ物件ヲ官ニ入レ其他刑ノ期滿免除ニ付キ其執行ヲ通レタルノ日時等皆本條ニ據リ之ヲ定ムヘキナリ然レモ死刑罰金科料ニ付テハ一個ノ變例アリ即チ死刑ハ其裁判確定スト雖モ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス又婦女懐胎ナルキハ其執行ヲ停止シ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス又罰金科料ニ付テハ裁判確定ノ日ヨリ罰金ハ一月料料ハ十日ノ猶豫期限アルヲ以テ亦即時ニ之ヲ執行スルコトヲ得サルナリ

本條ト次條トヲ參照スレハ違警罪ノ刑執行ニ付キ實ニ奇ナル結果ヲ發見シタリ茲ニ三日ノ拘留ニ處セラレタル者アラシニ先ツ本條

(第五十條)

三百五十九

ニ從テ其裁判確定スルニ非サレハ刑ヲ執行スルコトヲ得ス而シテ治罪法第三百三十九條ニ於テ違警罪裁判所ノ裁判ハ三日ヲ經ルニ非サレハ確定セサルニ因リ三日間ハ右拘留ヲ執行スルコトヲ得サルナリ、故ニ三日ヲ經テ之ヲ執行セントスルニ次條即チ第五十一條ニ於テ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スルヲ以テ此拘留ハ既ニ刑期ヲ終リタレハ此時ニ於テモ亦執行スルコトヲ得ス、又之ニ加フルニ違警罪ニ付テハ未決拘留ヲ許サ、ルモノトス故ニ我刑法ニ於テハ到底三日以下ノ拘留ハ實際ノ執行ヲ受ケサルモノナリ、然レモ現時ノ所ニテハ當分ノ内違警罪裁判ニ對シテ總テ上訴ヲ許サストアリテ其裁判ハ直チニ確定スルニヨリ右ノ結果ヲ見サルナリ

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

- 一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

前條ハ刑ヲ執行スル日ヲ定メ本條ハ其刑期ハ起算スル日ヲ定メタルモノニシテ而シテ此條第一項ハ上訴ヲ爲サ、ル場合ニ於テハ裁判宣告ノ當日ヲ以テ刑期計算ノ初日ト爲シタリ如此ク刑期ヲ計算ス

(第五十一條)

ルニ付テハ裁判確定ノ日ヲ以テ初ト爲サスシテ裁判宣告ノ日ヲ以テ初ト爲シタルハ何ソヤ、蓋シ法律ハ被告人ニ與フルニ上訴ノ權ヲ以テシ之ヲシテ冤枉ニ屈スルノ憾ナカラシメタリ然ルニ其上訴ノ期限後即チ裁判確定ノ日ヨリ刑期ヲ計算セハ是レ陽ニ被告人ヲ保護シテ陰ニ之ヲ阻害スルナリ豈ニ上訴ノ權ヲ與ヘタルノ實アラシヤ是レ裁判確定ノ日ヲ以テ刑期計算ノ初日ト爲サスシテ裁判宣告ノ日ヲ以テ其初日ト爲シタル所以ナリ、然レモ以上論スル所ハ上訴ナキ場合ニ係ル若シ上訴ヲ爲シタルモ法律ニ於テ區別ヲ爲シ左ニ講説スルカ如ク刑期計算ノ初日ヲ定メタリ

第一 犯人若クハ其辯護人上訴シテ其上訴正當ナルモハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス上訴正當ナルトハ結局正當ナルモナイフ例ニハ先ツ控訴ヲ爲シ敗テ取り而シテ上訴ヲ爲シテ勝テ得タルモ如キ一敗

一 勝相半ハスト雖モ尙ホ之ヲ正當ナリトシ始審ノ裁判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ計算ス如此キ場合ニ於テハ始審裁判宣告ノ日ト大審院判決ノ日トハ其相去ルコト甚タ遠クシテ或ハ全ク刑期ヲ過キ曾テ實地ニ刑ノ執行ヲ受ケサル如キコトアルヘキナリ然リト雖モ犯人ハ拘留ヲ受ケテ已ニ監倉ニ在ルヲ以テ刑ノ執行ヲ受ケタルモノト殆ント相同シキモノトス是レ上訴正當ナルモハ前判後判ノ間ノ日數如何ニ拘ハラス常ニ前判ノ日ヨリ刑期ヲ計算スル所以ナリ

第二 犯人若クハ其辯護人上訴シテ其上訴不當ナルモハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス是レ亦不當ナルトハ結局不當ナルモナイフ例ニハ檢察官先ツ控訴シテ勝テ得タルヲ以テ犯人其控訴ノ裁判ニ服セスシテ上告ヲ爲シ而シテ上告ニ於テ敗訴セリ此場合ニ於テハ後判宣告ノ日即チ大審院判決ノ日ヨリ計算ス況ンヤ犯人自ラ控訴上告ヲ爲

シ共ニ敗訴シタルキニ於テ最後ノ判決ノ日ヨリ起算スヘキハ論ヲ待タサルコナリ然リ而シテ前判ト後判トノ間幾十日幾百日ヲ經ルト雖モ之ニ拘ハラズ亦常ニ後判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ計算スルナリ犯人ノ上訴ニ係ルキハ如此ク其結果ノ正否ニ由リ刑期起算ノ點ヲ異ニセリ是レ上訴ノ正當ナルキハ其曲前裁判ニ在リ法律ノ許ルシタル上訴ノ權ヲ行ヒ前裁判ノ曲ヲ訴ヘタルカ爲メニ刑期起算ノ點ヲ後ニ延ハスヘカラサレハナリ然レモ上訴ノ不當ナルキハ其曲犯人ニ在リ然レハ後判宣告ノ日ヨリ起算セラル、モ自業自得ニシテ即チ己レカ過ナリ如此ク結果ノ正否ニ由リ起算ノ點ヲ異ナラシメ以テ法律ハ妄ニ上訴スルノ弊ヲ防カントセシナリ

主刑ト附加刑トニ付キ上訴シテ兩ツナカラ正當ニ又爾ツナカラ不當ナルキハ總テ前例ニ據テ處分スヘシト雖モ其一正當ニシテ其一

不當ナルキハ如何曰ク附加刑ハ固トヨリ主ニ附屬スルモノナレハ從ハ則チ主ニ從テ總テ其上訴ノ正否ニ拘ハラズ主刑ニ從テ其刑期起算ノ點ヲ定ムヘキナリ故ニ剝奪公權停止公權禁治産ハ其主刑ヲ起算スルキヨリ之ヲ起算スヘシ又主刑ノミニ就キ上訴シ若クハ附加刑ノミニ係リテ上訴シタルキモ同様ナリトス監視ハ常ニ第四十條ニ據リ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス又主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタルキモ常ニ其裁判確定ノ日ヨリ起算シテ第五十一條ノ例ニ據ルコナシ是レ第四十條ニ故ラニ其裁判確定ノ日ヨリ起算ストアル所以ナリ又罰金モ常ニ第二十七條ニ據リ裁判確定ノ日ヨリ起算シテ一月内ニ之ヲ徴収ス沒収ニ付テハ別ニ法文ナシト雖モ此刑ニハ期限ナク止タ之ヲ執行シテ其物件ヲ官ニ入ル、ノミナレハ刑期ノ計算スヘキナシ故ニ第五十條ニ據リ裁判確定シタル後ニ非サレ

ハ没収スルヲ得サルナリ

又前ニ云フカ如ク禁治産ハ其主刑ヲ起算スル日ヨリ之ヲ起算スルカ故ニ過去ニ遡リテ刑ヲ執行セシモノト看做スト雖モ上訴中即チ裁判未タ確定セサリシ前ニ犯人ノ結ヒタル契約ハ刑ノ執行ヲ遡レ法律ヲ犯シタルモノナリトシテ之ヲ取消スヲ得サルヘシ前ニ遡リテ刑期ヲ計算スルハ犯人ノ爲メニ設ケタル便宜法ナリ其便宜法ヲ以テ犯人ニ不便ヲ與フヘキニ非ス又況ンヤ之ヲ以テ他ノ結約者ノ既得ノ權利ヲ害スヘカラサルヲヤ

第三 檢察官ノ上訴ヲ爲シタル場合ニハ其上訴ノ當否ニ拘ハララス常ニ前犯宣告ノ日ヨリ起算ス是レ犯人ノ得テ關係スル所ニ非ラサルヲ以テナリ即チ其上訴正當ナランカ其過裁判官ニ在リ其上訴不當ナランカ其過檢察官ニ在リ如此ク裁判官檢察官ノ過ニシテ犯人

ノ關係セサル所ナルニ之レカ爲メ犯人ニ其害ヲ被ラシムヘキニ非ス是レ此場合ニ於テハ常ニ前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ計算スル所以ナリ

此場合ニ於テモ一ノ疑議アリ即チ犯人控訴シテ勝テ得其上訴正當ナリ然ルニ檢察官ハ此控訴ノ裁判ヲ不當ト爲シテ上告シ而シテ其上告ニ或ハ勝チ或ハ敗ル、トアルヘシ上告ノ當否ニ拘ハラス如此キ場合ニハ何レノ日ヨリ刑期ヲ計算スヘキヤ曰ク檢察官ノ上訴ヲ爲シタル日ハ總テ前判即チ始審裁判宣告ノ日ヨリ起算スヘシ且ツ犯人控訴ニ敗シ而シテ檢察官上告シタル日又ハ犯人ノ上訴ニ付キ檢察官附帶ノ上訴ヲ爲シタル日ノ如キ總テ檢察官ニ於テ上訴ニ干預シタル所アルニ於テハ仮令ヒ犯人ノ上訴不當ナルモ前判宣告ノ日即チ始審裁判宣告ノ日ヨリ起算スヘキナリ法律ニハ細ニ之レカ區別

(第五十一條)

三百六十七

ヲ爲サス唯前判後判トアルノミニシテ前々判又ハ後々判等ト記載セシニ非ス又檢察官ノ上訴アリシキハ其當否ニ付キ必ス檢察官若クハ裁判官ノ過ニ歸スヘキ所アルヘキナリ又律ニ明文ナクシテ疑議ヲ生スルキ犯人即チ被告人ノ爲メニ便ナルノ解釋ヲ下タスヘキハ亦法律上ノ一原則タリ是レ此ニ總テ初審裁判宣告ノ日ヨリ起算スヘキヲ斷言シタル所以ナリ

第四 犯人ノ上訴正當ナルキ并ニ檢察官ノ上訴ニ係ルキハ前判宣告ノ日ヨリ起算スト雖ヒ若シ其上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタルキハ保釋責付ノ日數ハ刑期ニ算入セス是レ犯人拘留セラレ、コナキヲ以テナリ故ニ此場合ニハ多クハ裁判確定シテ實地刑ヲ執行スル日ヨリ刑期ヲ起算スヘシト雖モ上訴中保釋責付ノ先後ニ於テ拘留ヲ受ケタル日數ハ前三箇ノ區別ニ循ヒ之レヲ刑期ニ算入ス

第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ

其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

逃走ノ日數ヲ刑期ニ算入セサルハ固トヨリ論ヲ待タサルコトナリト雖モ逃走ノ當日ト就捕ノ當日トハ刑期ニ算入スヘキモノナルヤ否ヤ分明ナラサルナリ然レヒ立案者ハ註釋書ニハ之ヲ明言セリ曰ク時刻ヲ計算スルコトナキ原則ナルヲ以テ逃走ノ日ト就縛ノ日ト全日ニ計算セサルヲ得スト然レハ此兩日ハ時刻ノ如何ニ拘ハラズ全一日トシテ受刑ノ日數中ニ算入スヘキ法意ナルコト明ナリトス又此ニ注意スヘキ所アリ刑期限内ト刑期限外トノ別是レナリ刑期ハ前條ニイヘルカ如ク刑名宣告ノ日ヨリ起算スルナリ故ニ裁判確定シ刑ノ執行ヲ始メタル以後既決囚ノ逃走シタル者ノミナラス裁判確定セス刑ノ執行ヲ受ケサル未決囚ノ逃走シタル者モ亦其逃走

(第五十二條)

三百六十九

刑名宣告ノ日以後ニ係ルキハ本條ノ例ニ據リ通算法ヲ用フルナリ
 刑期限内ト刑期限外トノ別ハ上訴ナキ場合ニハ常ニ刑名宣告ノ日
 ヲ以テ之ヲ分ツ故ニ刑名宣告ノ日ヨリ一日二日ヲ經テ逃走シタル
 者ハ其實刑ノ執行ハ之ヲ受ケシトナシト雖モ其一日二日ハ之ヲ受
 刑ノ日ト看做シ刑期中ニ算入スルナリ

囚徒逃走シタルキハ第四百二十二條以下ニ循ヒ其逃走ノ罪ヲ問ヒ而
 ノ本條ニ據テ第一罪ノ刑期ヲ計算シ又第九十五條ニ從テ第一罪ト
 逃走罪トノ刑ニ付キ定役ノ有無刑名ノ輕重ヲ定メ以テ其執行ヲ爲
 スヘキナリ尙ホ第四百二十二條第四百十四條已決囚ノ逃走ト未決囚
 ノ逃走トニ關シ注意スヘキ所アリ已決未決ハ裁判確定ノ前後ヲ以
 テ之ヲ分チ裁判宣告ノ先後ヲ以テ之ヲ分ツニ非ラサルコト是レナリ
 裁判宣告後ニ逃走スト雖モ未タ裁判ノ確定セサル前ニ係ルキハ其

逃走ノ罪ハ第四百十四條未決囚ノ逃走ヲ以テ論シ其原犯ノ刑期ノ
 ミ前ニイヘルカ如ク裁判宣告ノ日ヨリ起算シテ逃走迄ノ日數ハ之
 ヲ刑期ニ算入スルナリ刑期ヲ裁判宣告ノ日ヨリ計算スルヲ以テ刑
 期限内已決囚ノ逃走ヲ以テ論スヘキニ非ラサルナリ已決囚逃走ノ
 罪モ未決囚逃走ノ罪モ其刑ニ至テハ同一ナルカ故ニ故ラニ之ヲイ
 フニ及ハサルカ如シト雖モ此ニ之レカ注意ヲ促シタルハ是レ唯擬
 律ニ付キ第四百二十二條ニ據ルト第四百十四條ニ據ルトノ別アルノ
 ミナラス再犯ノ罪ニ付キ大ニ異ナル所アルヲ以テナリ尙ホ第四百
 十二條以下ノ講義ニ於テ更ニ之ヲ再說スヘシ
 又本條ニハ刑期限内逃走シ云々トアルヲ以テ見ルキハ是レ囚徒ノ
 逃走シタルキヲイフモノニシテ夫ノ監視ノ刑ヲ遁レタル者ニハ之
 ヲ適用シ難キニ似タリ然リト雖モ監視ノ刑ヲ遁レタル者ヲシテ其

通レタル日數モ亦監視ノ刑期ニ算入スルヲ得セシメハ監視ノ刑ハ有名無實徒法ニ属スヘキナリ監視ノ執行ヲ通レ其規則ニ背キタル者ハ第一百五十五條ノ間フ所ナリ而シテ其罪ヲ犯シタル者モ亦本條ニ循ヒ其通レタル日數ハ之ヲ除キ前後受刑ノ日ノミヲ通算ス

(第十九回)

第六節 假出獄

假出獄トハ被刑者未タ其刑期ヲ終ラスト雖モ假リニ之ヲ解放シテ通常ノ生活ヲ爲サシムルノ謂ニシテ其目的ニアリ

第一 改過遷善ニ誘導スルヲ無刑期ノ囚ハ勿論有刑期ノ囚ト雖モ受刑ノ日ヨリ以後滿期ニ至ルマテ絶ヘテ獄舍ヲ出ルノ途ナクシテ何ヲ苦シテカ勞動シ何ヲ望シテカ改過セン宜シク之カ爲メニ自新

ノ路ヲ開キ能ク獄則ヲ謹守シ改悛ノ實ヲ見ハス者ハ刑期ノ盡キサルモ解放スルヲアルヲ定メ以テ囚人ヲ獎勵セサル可カラズ是レ假出獄ヲ設ケタル第一ノ目的ナリ

第二 獄舍ノ生活ヨリ通常ノ生活ニ移ルノ豫備ヲ爲ス囚人獄舍ヲ出テ直チニ通常ノ生活ニ入ルキハ急劇ニ自由ヲ得ルヨリシテ多クハ放逸無頼トナリテ業ニ就クヲ欲セス又世人モ其刑餘ノ人ナルヲ知テ之ト交際スルヲ欲セサルカ故ニ遂ニ自活ノ途ヲ失ヒ再ヒ罪ヲ犯サレハ已マサルニ至ル是レ被刑者一般ノ通弊ニシテ諸國共ニ免カレサル所ナリサレハ立法者、法律家、慈善家等ハ種々ノ方法ヲ按出シテ此弊ヲ防カントシ遂ニ三箇ノ方法ヲ得タリ其一ハ服役中ノ賃銀ノ幾分ヲ給與シ出獄ノ日ヨリ業ニ就クヲ得ルニ至ルマテ生計ヲ自辨スルヲ得セシムルニアリ其二ハ保庇ノ會社ヲ設

(第五十二條)

ケ出獄者ヲ補助シテ善良ノ生活ニ就カシムルヲ是ナリ個ハ一種ノ恩惠會ニシテ現時歐洲諸國ニ於テハ半官半民設立ノ姿トナリ専ラ囚徒ノ出獄シテ直チニ自活ノ途ニ就ク能ハサル者ヲ保庇シ或ハ工場ヲ起シテ之ヲ使役シ或ハ保証ヲ與ヘテ商工ノ家ニ入ラシムル等種々ノ補助方法アリテ其會ノ數モ甚タ多ク大ニ功ヲ奏シタリト云フ又其三ハ豫備出獄是ナリ這ハ囚徒未タ全ク刑期ヲ終ラサル前ニ之ヲ獄舍ヨリ出シテ自活ノ路ニ就カシメ特別ニ監督シテ次第ニ通常ノ生活ニ入ルヲ豫備セシムルモノナリ我邦ニ於テハ右三箇ノ方法中其第二ハ未タ之ヲ得スト雖モ其第一第三ハ既ニ之ヲ得タリ、即チ服役中ノ賃錢給與ハ我刑法第二十五條及ヒ監獄則ニ之ヲ定メ豫備出獄ハ本節ヲ以テ之ヲ規定シタリ而シテ其假出獄ト云フノ表題ハ我佛文刑法草按ニハ「リベラシヨン、プレパトワール」トアリテ

豫備出獄ノ義ナリシカ現行法ニ於テ之ヲ假出獄ト改メタリ然レモ其意ハ蓋シ變セサルナリ

假出獄ト保釋及ヒ責付トハ其形狀相類スト雖モ各異ナルモノナリ假出獄ハ受刑ノ後ニ於テスルモノニシテ保釋及ヒ責付ハ受刑ノ前即チ豫審若クハ上訴中ニ於テスルモノナリ而シテ保釋ニハ保証金又ハ保証人ヲ要スト雖モ假出獄ニハ保証ヲ要セス又保釋責付ハ裁判上ノ處分ナリト雖モ假出獄ハ行政上ノ處分ナリ

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ

謹守シ悛改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過ス

ルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スヲ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

(第五十三條)

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

既ニ述フル如ク假出獄第一ノ目的ハ囚人ヲシテ改邪歸正ニ赴カシメ能ク刑ノ主旨タル懲戒ノ效ヲ顯ハサシメンカ爲メナリ然ルニ若シ濫リニ之ヲ與フルニ於テハ反テ之ヲ設ケタルノ旨趣ヲ失フニ至ルヘシ依テ本條ニ於テ之レカ制限ヲ定メタルナリ
假出獄ハ重罪輕罪ノミニ之ヲ設ケ違警罪ニ之レナシ違警罪ハ最輕ノ罪ニシテ其日數モ僅々十日ニ過キス故ニ之ヲ設クルヲ要セス又重罪ニ付テモ死刑ニハ之ヲ設ケヘキノ理ナク輕罪ニ付テモ罰金ニハ此要ナシ故ニ全ク自由ヲ剝奪スル刑ニ付テノミ之ヲ設定セルモノナリ而シテ其年限ハ有期ノ刑ニ付テハ其刑期四分ノ三ニシテ無期ノ刑ハ十五年ナリ此年限ヲ輕過スルモハ行政ノ處分ヲ以テ假ニ

出獄ヲ許スコトアルヘシト雖モ管ニ年限ヲ經過シタルノ一事ヲ以テ之ヲ許スニ非ス又夫ノ保釋ノ如キハ裁判上ノ處分ニシテ囚人之ヲ請求スルノ權アレトモ假出獄ハ行政上ノ處分ニシテ囚人之ヲ請求スルノ權ナシ囚人能ク獄則ヲ謹守シ改悛ノ狀アルヤ否ヤヲ審按シテ之ヲ許否スルハ獨リ行政官ノ權内ニアリトス若シ然ラスシテ單ニ年限ヲ經過スルノミヲ以テ輒ク之ヲ許スコトセハ宣告ノ刑期ハ終ニ其效ヲ失フニ至ルヘキナリ

此處分ヲ行フノ方法ハ刑法附則第三十八條以下ニ在リ其概略ヲ舉レハ左ノ如シ

假出獄ヲ許スヘキ者アルモハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假出獄ヲ許サレンコトヲ内務司法兩卿ニ上申シテ其許可ヲ受ク可シ其許可アリタルモハ其証票ヲ典獄ヨリ犯人ニ下付

(第五十三條)